

千本杉遺跡

県道庄田伊野線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004.3

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

せん ほん すぎ い せき
千 本 杉 遺 跡

県道庄田伊野線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004.3

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

千本杉遺跡は、日高村の小村神社周辺に所在する遺跡として知られています。小村神社は古くよりこの地に鎮座し、御神体の金銅莊環大刀は古墳時代後期のもので国宝にも指定されています。水をつかさどる竜を模様化した大刀の存在は、神社と仁淀川流域の開発の間に深い関係を窺わせます。また、近年では“自然との共生”の重要性が指摘されるなか付近一帯は「日下の千本杉」と、地域の人々に親しまれる憩いの空間を提供しています。

今回の発掘調査では、中世を中心とする土器、陶磁器、多くの柱穴をはじめ遺構を検出することができました。小村神社と何らかの関連を持った建物が建っていたとも考えられますし、この辺りに神社を中心とした集落像も描くことができそうです。これまで、県内において神社周辺での調査例は少なく参道や周辺の様子はほとんどわかっていません。この度の調査は、僅かな面積でしたが得られた成果は大きく貴重な資料になるものと期待されます。さらにこの報告書により一人でも多くの方が地域の埋蔵文化財に対して興味・関心を持っていただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査に際しまして日高村小村地区の皆様をはじめ、日高村教育委員会、高知県伊野土木事務所の埋蔵文化財保護に対する深い御理解と御協力を賜ったことに心から謝意を表するとともに、調査報告書作成においても関係各位の皆様に多大な御指導並びに御教示を頂いたことに厚く御礼申し上げます。

平成16年3月

財団法人 高知県文化財団 埋蔵文化財センター

所長 島内 靖

例 言

1. 本書は、県道庄田伊野線緊急地方道路整備事業に伴う千本杉遺跡の発掘調査報告書である。
2. 千本杉遺跡は高知県高岡郡日高村小村に所在する。
3. 調査は高知県伊野土木事務所の委託を受け、高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施した。
4. 調査期間
試掘確認調査 平成13年12月10日～平成13年12月19日・平成14年6月26日・平成14年9月10日
～平成14年9月11日・平成15年6月30日～平成15年7月2日
本調査 平成14年9月6日～11月8日・平成15年8月18日～平成15年8月25日
5. 調査面積 試掘確認調査 88㎡・6㎡・18㎡・30㎡
本調査 375㎡・68㎡
6. 調査体制
 - (1) 調査担当
重森 勝彦 ((財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター調査課長) [平成14年度]
横山 耿一 (同 調査課長) [平成15年度]
松田 直則 (同 第五班長)
今田 充 (同 主任調査員)
久家 隆芳 (同 調査員)
 - (2) 総務担当
久川 清利 ((財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター次長兼総務課長)
中城 英人 (同 主幹) [平成14年度]
金子 晃子 (同 主幹) [平成14年度]
池野かおり (同 主幹) [平成15年度]
長谷川明生 (同 主任) [平成15年度]
7. 本書の執筆・現場写真撮影は今田・久家で分担し、遺物写真撮影・編集は久家が行った。
8. 現地調査及び本報告書を作成するにあたり、小村神社関係者の皆様、金子真也氏(日高村教育委員会 教育次長)、山中鶴幸氏(日高村教育委員会 社会教育係長)、岡本健児氏(高知県文化財保護審議委員)、市村高男氏(高知大学)、岩井雅夫氏(高知大学)、上村安生氏(三重県生活文化振興チーム 県史編さんグループ)、森内秀造氏(兵庫県教育委員会)に御教示を賜りました。また、岩井雅夫氏(高知大学)、大澤正己氏(九州テクノリサーチ)にはお手を煩わせ、玉稿を頂いた。記して感謝する次第である。
9. 発掘・整理作業員
発掘・整理作業は以下の方々に行われた。記して感謝の意を表したい。
 - (1) 発掘作業員
大崎一虎 大崎数恵 尾崎定富 尾崎定子 白井三郎 田代 勝 田鍋匡隆
町田憲嗣 松本安紀彦 山口寿子 山中益代

(2) 整理作業員

黒岩佳子 飯田 縁 岩崎佐枝 松井恵子

10. 出土遺物については「01-22H S」・「02-8H S」・「03-3H S」・「03-9H S」と注記し、関連図面・写真等とともに高知県立埋蔵文化財センターで保管している。
11. 報告書内で用いる緯度、経度は世界測地系によるものである。

目 次

序	i
例 言	iii
目 次	v

本 文 目 次

第 I 章 調査に至る経過と調査の方法 (久家)	1
(1) 調査に至る経過	1
(2) 調査の方法	1
第 II 章 遺跡周辺の地理的と歴史的環境 (今田)	3
(1) 遺跡周辺の地理的環境	3
(2) 遺跡周辺の歴史的環境	5
第 III 章 試掘確認調査 (久家)	7
第 IV 章 調査成果	11
1. I 区・II-1 区の調査成果	11
(1) 基本層序 (久家)	11
(2) 検出遺構 (今田)	14
(3) 出土遺物 (久家)	23
2. II-2 区の調査成果 (久家)	39
(1) 基本層序	39
(2) 検出遺構と出土遺物	39
第 V 章 まとめ (久家)	45
(1) 検出遺構について	45
(2) 出土遺物について	45
(3) まとめにかえて	47
付編 1 千本杉遺跡 (高知県日高村) 調査区 I-3 区の珪藻分析	51
付編 2 千本杉遺跡出土鉄滓の金属学的調査	64

挿 図 目 次

Fig. 1	調査区位置図	2
Fig. 2	日高村位置図	3
Fig. 3	千本杉遺跡周辺の遺跡地図	4
Fig. 4	テストピット位置図	8
Fig. 5	テストピット柱状図	9～10
Fig. 6	基本層序 1 (I-1・I-2・I-3区)	12
Fig. 7	基本層序 (I-3・II-1区)	13
Fig. 8	I-1区検出遺構配置図	15
Fig. 9	I-2区検出遺構配置図	16
Fig.10	I-3区検出遺構配置図	17～18
Fig.11	II-1区検出遺構配置図	19
Fig.12	遺構図 1 (SD1 エレベーション図 SD3 セクション図 SK17・P128・P101・P94・SK27 平面図・セクション図 P84 礫出土状況平面図・断面図)	21
Fig.13	遺構図 2 (P243・P217・P158 礫出土状況平面図 SK29 平面図・セクション図 SD4 サブトレセクション図)	22
Fig.14	出土遺物実測図 (土師質土器・瓦器 1)	24
Fig.15	出土遺物実測図 (土師質土器 2)	25
Fig.16	出土遺物実測図 (土師質土器 3)	26
Fig.17	出土遺物実測図 (瓦器)	27
Fig.18	出土遺物実測図 (白磁)	28
Fig.19	出土遺物実測図 (青磁)	29
Fig.20	出土遺物実測図 (東播系須恵器)	31
Fig.21	出土遺物実測図 (常滑焼・瀬戸美濃系・備前焼)	32
Fig.22	出土遺物実測図 (煮沸具)	34
Fig.23	出土遺物実測図 (土師器・須恵器・土製品)	35
Fig.24	出土遺物実測図 (木製品・石製品)	36
Fig.25	出土遺物拓影 (銅銭)	36
Fig.26	出土遺物実測図 (鉄製品)	37
Fig.27	基本層序 (II-2区)	39
Fig.28	II-2区検出遺構配置図	40
Fig.29	P2003遺物出土状況・復元図・出土遺物実測図	41
Fig.30	P2016エレベーション図・出土遺物実測図	42
Fig.31	出土遺物実測図	43

表 目 次

Tab. 1	出土遺物組成比率	Tab. 8	貿易陶磁器観察表
Tab. 2	I-1区遺構一覧表	Tab. 9	土製品観察表
Tab. 3	I-2区遺構一覧表	Tab.10	木製品観察表
Tab. 4	I-3区遺構一覧表	Tab.11	石製品観察表
Tab. 5	II-1区遺構一覧表	Tab.12	古銭観察表
Tab. 6	II-2区遺構一覧表	Tab.13	鉄製品計測表
Tab. 7	土器観察表		

図 版 目 次

PL. 1	遺跡遠景空中写真
PL. 2	I-1区完掘状況空中写真・I-2区完掘状況空中写真
PL. 3	I-3区完掘状況空中写真・I-1区完掘状況
PL. 4	I-3区完掘状況・II-1区完掘状況
PL. 5	II-1区完掘状況・II-1区完掘状況
PL. 6	I-1区東壁・I-3区SD4セクション
PL. 7	II-1区西壁・II-2区東壁
PL. 8	I-1区SK6古銭出土状況・I-1区SD2完掘状況・I-2区SK19遺物出土状況・I-2区P84 礫出土状況・I-2区P84礫完掘状況・I-2区P96セクション・I-2区P101セクション・ I-2区P101完掘状況
PL. 9	I-2区SK27セクション・I-2区SK27完掘状況・I-2区SD3セクション・I-2区SD3完 掘状況・I-3区P136遺物出土状況・I-3区P161礫出土状況・I-3区P163礫出土状況・ I-3区P195礫出土状況
PL.10	I-3区P214礫出土状況・I-3区P217礫出土状況・I-3区SK29セクション・I-3区SK29 礫出土状況・I-3区SD5完掘状況・II-1区P19完掘状況・II-1区遺物出土状況・II-2区 P2017完掘状況
PL.11	出土遺物 (1~5・7・11・13・14・17)
PL.12	出土遺物 (19・21・23~25・27・29・30・79・83)
PL.13	出土遺物 (89・96~98・100・124・179・180・209・226)
PL.14	出土遺物 (101・103~107・109、99・108・110~115、116・117・119・120~123)
PL.15	出土遺物 (126・128・130~132・135、136~140・151・153・154・156)
PL.16	出土遺物 (141・143・145~150・152、157~165)
PL.17	出土遺物 (190~194・196~200・202~206)

- PL.18 出土遺物 (167～169・171～175・177、178・181・182、183・185・187・188)
- PL.19 出土遺物 (210～212・224・226、213～222、223、229～231)
- PL.20 出土遺物 (233・237・238・242・244・249・251～253、234・236・239～241・243・245～
248・250・254～259・261)
- PL.21 出土遺物 (268～271・275～277・283・284・301)
- PL.22 出土遺物 (307～309)
- PL.23 出土遺物 (310～312・スサ入り粘土塊・スラグ)

付図1 検出遺構全体図

第 I 章 調査に至る経過と調査の方法

(1) 調査に至る経過

県道庄田伊野線は佐川町庄田から日高村小村に至る県道である。やや詳しくみると、佐川町の庄田・黒岩などの山あいの集落を通り、仏峠を越え日高村に入る。能津に出てからは、仁淀川右岸に沿い小村神社に至る。日下川を渡り、小村神社の参道沿いに南下し、小村に至る。今回、整備が計画された範囲の道幅は狭く、一部に待避所が設けられてはいるものの自動車での行き違いは困難である。また、国道33号線との交差点においてもスムーズな状況ではなかった。このような交通障害の解消を目的に整備事業が実施されることとなった。

県道庄田伊野線緊急地方道路整備事業対象地区内の一部は、周知の遺跡である千本杉遺跡が含まれている。そこで、予定地内における埋蔵文化財の有無の確認、また埋蔵文化財が確認された場合には本格的な発掘調査にむけての基礎資料を得ることを目的に試掘確認調査を実施することとなった。詳しくは後述するが、対象範囲内にテストピットを任意に設定し調査を実施した結果、一部のテストピットで遺構・遺物が検出された。この結果を基に高知県伊野土木事務所と協議を重ね、整備事業により影響を受ける範囲において本格的な発掘調査を実施することで合意した。また、今回の調査により、遺構・遺物が検出される範囲が、千本杉遺跡として周知されていた範囲外へとひろがることが明らかとなった。

(2) 調査の方法

試掘確認調査は、都合4次にわたり調査を実施した。調査は1×2m～2×3mの調査区を設定し、重機及び人力により掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。また、必要に応じ、写真撮影・平面図・断面図を作成し、本格的な発掘調査の基礎データを得た。

第1次確認調査は平成13年12月10日～平成13年12月19日に TP1～11の調査を実施した。第2次確認調査は平成14年6月26日に TP12の調査を実施した。第3次確認調査は平成14年9月10日～9月11日に本調査と平行して TP13～15の調査を実施した。第4次確認調査は平成15年6月30日～7月2日に実施した。これらの他に平成11年12月14日に県道伊野庄田線整備事業及び日下公民館下分館造成工事に伴い高知県教育委員会により立会が行われている。

本調査では村道を境に大きく I 区と II 区にわけ、さらに I 区は I-1 区から I-3 区に分割し、II 区は II-1 区と II-2 区として調査を実施した。なお、I 区と II-1 区は平成14年9月6日～平成14年11月8日に、II-2 区は平成15年8月18日～平成15年8月25日にそれぞれ調査を実施した。試掘確認調査の結果を基に表土を重機により慎重に掘削し、遺物包含層及び遺構検出、遺構掘削等は人力により行った。出土遺物は調査区毎に取り上げた。世界測地系に則った公共座標を基に、遺構平面図及び調査区断面図を S = 1/20 で実測した。また、必要に応じ写真撮影を行った。なお、測量用の基準点は GPS を用い2点を打設し、それらを基に光波測量により新たに3点を打設した。最後に調査区内に打設した任意の基準杭に取りつけた。

また、完掘状況及び周辺地形を含め、ラジコンヘリにより写真撮影を行った。

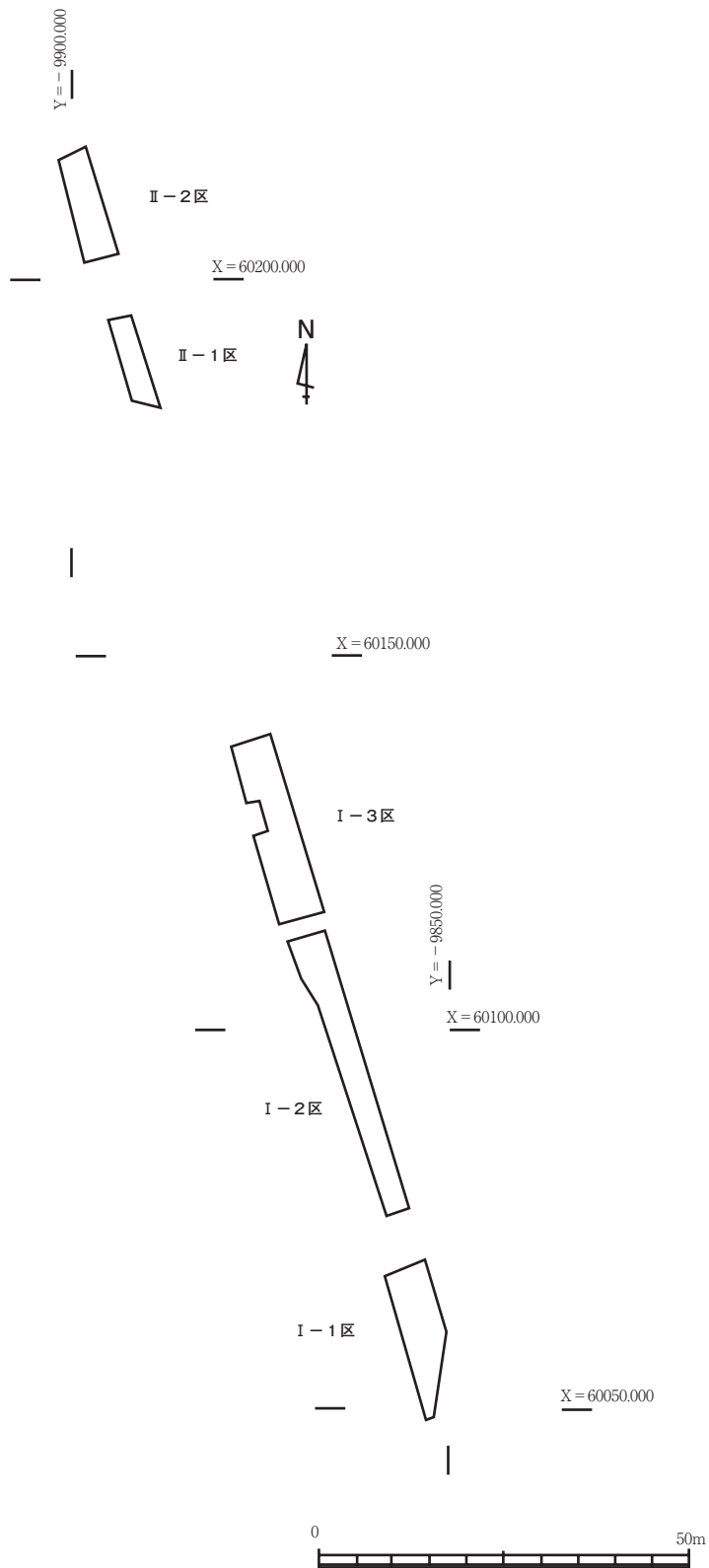


Fig.1 調査区位置図

第Ⅱ章 遺跡周辺の地理的環境と歴史的環境

(1) 遺跡周辺の地理的環境

千本杉遺跡の所在する日高村は、高知県のほぼ中央部にあたり高知市から西へ約16kmの距離にある。地質構造は秩父帯に属する。村域は東西約10km、南北約9.2kmであり、総面積44.88km²である。北から東にかけては仁淀川を境とし伊野町、南は土佐市、西は佐川町、越知町と接し仁淀川右岸の能津地区、日下川流域の岩目地地区そして当遺跡のある日下地区からなる。総面積の約60%は山地で、北と南には烏ヶ森、大堂山を中心とした山々が東西に走り、中央部には仁淀川支流のひとつ日下川によって形成された沖積平野が広がる。これと並行するように JR 四国土讃線、国道33号線が走り沿線には集落が散在している。産業の中心は農業であり米作、茶の栽培、近年ではトマト・キュウリ等の施設園芸が盛んである。

佐川町加茂に源を発する日下川は、村の中央部を西から東へと流れ仁淀川の河口から約14km遡った日高村小村地区で合流する。道路交通が発達していなかった時代には、流域部の物資を運搬する水運要路として重要な役割を担ってきた河川である。しかし、日下川はもともと構造線に沿って流れる緩流河川であることと幕政時代の開発が仁淀川の川床を上昇する結果を招くことになり、流域一帯の日下平野は「日高村の歴史は水害の歴史」ともいわれるほどの水害常襲地帯となった。特に、昭和50年の台風5号では平坦部は村内のいたる箇所で大被害を受けることになった。これを機に、日下川抜本改修事業が実施され支流の戸梶川との合流点付近を始点とする日下放水路が完成し仁淀川下流域を含めた治水対策を展開しており以後今日まで大きな水害は起こっていない。



Fig.2 日高村位置図



No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
1	千本杉遺跡	散布地	弥生・中世	6	三ノ堀(福良古)城跡	城館跡	弥生・中世	11	本郷遺跡	散布地	弥生
2	西田口遺跡	散布地	弥生・古墳	7	箸蔵寺(神光庵)跡	社寺跡	中世	12	西之越遺跡	散布地	縄文・弥生
3	宮ノ内遺跡	散布地	中世	8	葛懸古城跡	城館跡	中世	13	土岐古城跡	城館跡	中世
4	神母遺跡	散布地	弥生	9	石鎚城跡	城館跡	中世	14	平野城跡	城館跡	中世
5	弥勒堂跡	社寺跡	中世	10	日下経塚	経塚	中世	15	能津古城跡	城館跡	中世

Fig.3 千本杉遺跡周辺の遺跡地図

日下川と仁淀川が合流する地点のほど近くにある日高村下分宮ノ内に小村神社が所在する。国道33号線北側の鳥居前から約300mにも及ぶ長い参道があり、両側の杉並木は「日下の千本杉」として地域の人々に親しまれている。小村神社は国史見在社で土佐二宮ともいわれ、御神体の金銅荘環大刀は国宝に指定されている。千本杉遺跡は、この小村神社の参道脇に所在する遺跡である。

(2) 遺跡周辺の歴史的環境

仁淀川は、延長123.4kmで四万十川に次ぐ高知県第二の河川である。源流を愛媛県の石鎚山地に持ち、多くの支流をあわせ高知県内に入ってから名称を仁淀川に変更する。県中央部をほぼ東南に流れ土佐湾へと注ぐ仁淀川は、古来より人々に親しまれ生活に欠かせない存在で流域には多数の遺跡が散在する。上流山間地域では縄文時代の遺跡が散見され、中流域の盆地部では古代の須恵器窯跡や官衙関連遺跡もみられ下流域ではさらに遺跡数は多くなる。日高村は、仁淀川中・下流域に位置し支流のひとつである日下川流域に広がる農村地帯である。遺跡分布調査によると、縄文時代の西之越遺跡をはじめ村域には16遺跡の存在を数えるが、ほとんどが遺物の単独出土で詳細については確認ができていない遺跡もある。

弥生時代の遺跡として、本郷遺跡、西田口遺跡、千本杉遺跡、神母遺跡が挙げられる。本郷遺跡では、昭和8～9年に実施された河川改修の際に弥生後期土器片や磨製石包丁等が出土し、昭和56年の日下川河川改修工事の際には発掘調査が実施された。調査対象面積は約100㎡で遺構等の確認には至らなかったが、二次堆積によるとみられる遺物包含層が確認され弥生時代後期、古墳時代後期、古代から中世に属する遺物が出土している。また本郷遺跡の発見の端となった遺物の出土は旧日下川流路から西側で河川の付け替え工事によって出土したものではないかと推測される。西田口遺跡は、小村神社前の国道を南に隔てた下分西田口に所在する遺跡である。排水暗渠を深く掘り下げる工事の際に自然木とともに5世紀代の土師器、7～8世紀代の須恵器が発見され堆積状況からみて洪水などによる二次堆積と考えられる。出土した遺物の多くは土師器であるが、数点の須恵器も出土し古墳時代後期の杯蓋、高杯、蓋、甕などが出土している。また、杯蓋の1つには天井に篋書きが施されていた。焼き損なつたとみられる甕の胴部片があり西田口遺跡周辺に須恵器窯があったことも考えられる。本郷遺跡、西田口遺跡とも遺構を確認するには至らなかったものの付近に居住地があったことを物語る遺跡である。また、多くの被害をもたらした昭和50年の台風5号の災害復旧工事作業中、下分福良の三ノ塀（福良古）城跡で弥生時代の石包丁と石鏃が出土しているがやはり遺構を確認することはできなかった。なお、千本杉遺跡からも弥生時代の土器と小型の大型蛤刃石斧が出土しているようであるが、詳細については不明であり今次の調査区では弥生時代の遺構を確認することはできなかった。千本杉遺跡近くの小村神社には、弥生中期から後期の青銅器として2本の銅矛（中広形銅矛Ⅱ）が伝世しており、このうち1本については日下川と仁淀川の合流点やや下流の波川遺跡より出土し寄進されたものともいわれている。平成7年には、御神木（樹齢約700年）の根元から新たに銅矛1本が発見され、単独の出土で土器の伴出もないため全国の出土例や県内出土例と比較すると県内最古の高知市三里池長崎出土の銅矛より鋒部が狭いことが判明した。また、出土状況から見て後世に御神木の根元に置いたものではなく御神木が存在しない前からその位置に埋

納されていたものと考えられる。御神体の金銅莊環大刀は古墳時代後期のもので『南路志』にも「神体剣」とみえ古くよりその存在は知られていた。

日高・佐川両地域には現在のところ古墳の存在は確認されていない。高岡郡内の『和名抄』で古墳の存在しない郷のひとつである吾川郷は現在の伊野町波川周辺と思われるが日高・佐川を含む地域とも考えられている。

中世では、当地域の貴重な資料として小村神社が所蔵する2つの棟札がある。小村神社は日高村下分宮ノ内に所在し、土佐一宮である土佐神社に次ぐ二宮として古来より尊称された神社である。鎮座由緒等の詳細は分らないが用命天皇2年の鎮座、敏達天皇の勝照2年の創建後、天平宝字2年に神ノ谷杉ノ端より日下に移り鎮座したとの説がある。『三代実録』貞観十二年三月五日条に、「詔授（中略）土左国（中略）従五位下小村神従五位上」とみられる国史見在社であることから、この地方で最古の神社であり多くの人々が信仰を寄せたと思われる。2つの棟札のうち県内最古の棟札である仁治元年の棟札には、留守所から国に依る造替を命じられ大工には京の下人藤原国久があたり、用材は仁淀川上・中流の別府山、吾川山、横河山のものが使われたこと等が記されている。また、「小村社御分」の地頭として左馬允藤原忠政とその一族が見え、小村社の地頭として藤原姓の地頭が登場する。これが後に日下川の中流・下流一帯を占める日下（久佐賀）別符を支配した三宮氏の祖先ではないかともいわれている。貞和3年の棟札には、社殿の修理・造営は国衛が管掌していたが天下の動乱によってできなくなり地頭職（藤原国藤）、神官、社僧、氏子らの私財協力によって造営されたことが記されている。いずれの棟札も中世の神社の存在を示す貴重な資料である。文亀3年銘の小村神社奉納三十六歌仙図には、大平国雄の名がみえ蓮池城の大平氏の勢力が伸張し三宮氏もその勢力下に入ったという。能津には能津氏が割拠していた。戦国期には一時期であるが幡多郡の一条氏が進出し土岐城にはその部将の白河氏が拠ったといわれ滅亡後は、三宮氏・能津氏とともに長宗我部氏の支配下となった。『長宗我部地検帳』によると、日下之別符全域は、三宮氏領もしくは一族と見られる「六兵衛殿分」で寺社領も多く入っている。仁淀川右岸山地一帯は、能津氏の所領としてまとまっている。

近世になると日高村は、中世の日下別府の地を継承した日下・能津・九頭・入沢の諸村から構成され岩目地村は佐川領の東端に含まれた。東西に貫通する松山街道は平野部と高知城下を結ぶ物資運搬の道として役割を果し日下、岩目地には松山街道の送番所が設置された。また、日下の北にあたる能津村には日下で松山街道から分岐し、仁淀川対岸に渡り土佐郡寺川の口番所に至る西条往還の送番所として能津送番所が設置された。現在の国道33号線は高知から日高村岩目地までは昔の街道を利用している。

【参考文献】

岡本健児『高知県史 考古編』1968

岡本健児『高知県史 考古資料編』1973

日高村教育委員会『日高村史』1976

高知県教育委員会『日下川中小河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1981

『高知県の地名 日本歴史地名大系 40』平凡社 1983

日高村教育委員会『日高村「小村神社」出土の銅矛』記者発表資料 1995

第Ⅲ章 試掘確認調査

- 試掘確認調査は4次にわたって実施し、都合21箇所のテストピットを設定し、調査を行った。
- TP1・2・4は②層から近世以降の陶磁器片が出土したのみで、遺構は検出されなかった。
- TP3・5は遺物・遺構ともに検出されなかった。
- TP6は⑤層から、TP7は②層からそれぞれ土師質土器片が出土したのみで、遺構は検出されなかった。
- TP8は②層から土師質土器片・瓦器片などが出土した。遺構は②層上面でピットなどを検出した。
- TP9は③層から土師質土器片・貿易陶磁器片・瓦器片などが出土したが、明確な遺構は検出できなかった。
- TP10は②層から土師質土器片・瓦器片などが出土し、遺構は③層上面でピットなどを検出した。
- TP11は③～⑥層から土師質土器片・貿易陶磁器片・瓦器片・須恵器片などが出土した。
- TP12は⑥層から近世以降の陶磁器片が出土したのみで、遺構は検出されなかった。
- TP13は②層から土師質土器あるいは土師器の細片が1点出土したのみであり、遺構は検出されなかった。遺構検出面に相当する土層も確認できなかった。
- TP14は③層と④層で遺物が出土しているが、いずれも土師質土器片あるいは土師器片が1点出土したのみである。遺構は確認されなかった。TP13と同様、遺構検出面に相当する土層も確認できなかった。また、④層は灰色の砂層でTP11で確認されたものと同一層である可能性が考えられ、TP14周辺まで自然流路が存在していたと考えられる。
- TP15は湧水が激しく、①層が崩落し断面の詳細な観察できなかったが、遺物・遺構は確認できなかった。また、遺構検出面に相当する土層も確認できなかった。
- TP16 遺物は②層から近世以降の陶磁器が1点、③層から中世の土師質土器が20点・須恵器が1点出土した。遺構では柱穴を確認した。
- TP17 遺物は③層から貿易陶磁器1点・土師質土器3点が出土した。遺構は検出されなかった。
- TP18 遺物は②層から近世以降の陶磁器が1点、③層から中世の備前焼1点・土師質土器が12点出土した。
- TP19 遺物は③層から土師質土器7点（土師器を含む）・弥生土器1点が出土した。遺構は検出されなかった。
- TP20及びTP21では遺物・遺構は検出されなかった。

以上の成果をもとに本調査の対象外となった範囲を中心に気付いた点について簡単に述べてみたい。国道33号線沿いに設定したTP1～6、12の状況から近現代の盛土により国道のレベルまでベースアップされていることが確認できた。TP1～6は、上層から盛土層、灰色粘土層、褐灰色粘質土層の順で堆積している。旧耕作土層と考えられる灰色粘土層上面は北へいくほど標高が高くなる傾向が認められる。褐灰色粘質土層上面はTP4でやや下がるが、あまり高低差がない。このように層序により、北へいくにしたがい標高が高くなるものと高低差が少ないものがあり、堆積状況の

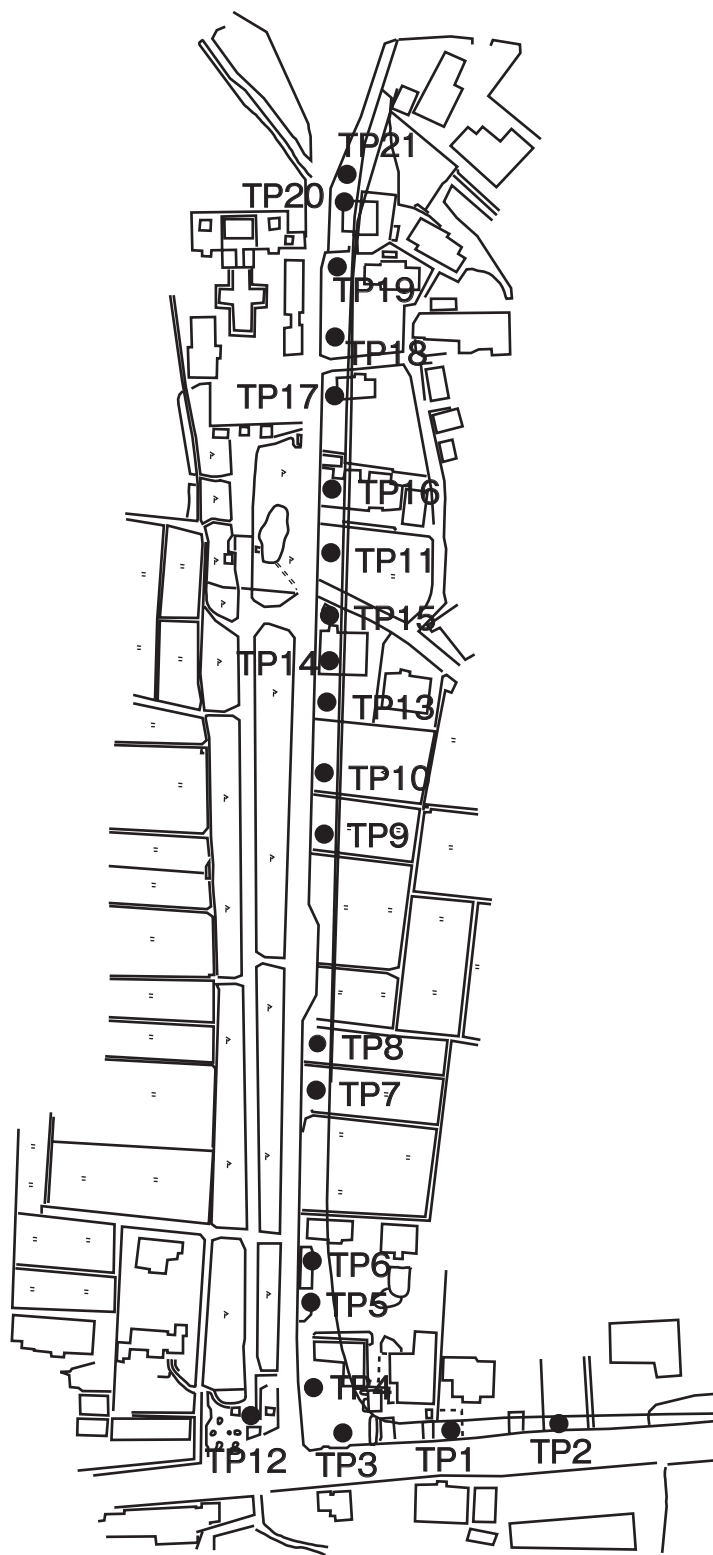


Fig.4 テストピット位置図

違いを反映しているものと考えられる。

TP14～16では砂層を確認した。TP16以北については砂層を確認した深度まで掘削してないため不明であるが、この周辺に自然流路が存在していたと推定される。この砂層から僅かではあるが、平安末に比定される遺物が出土している。この自然流路埋没後に上面の遺構が形成されている。

TP17～19では12世紀代の遺物を含む③層を確認した。堆積は厚く、③層の下層を確認できなかった。第IV章でも述べるがⅡ-2区調査時にはこの③層と推定される層を除去した面で遺構を検出することはできなかった。遺構が存在する北限からこの③層の堆積を確認できる。また、Ⅰ・Ⅱ区遺構を検出した標高より高い標高にも堆積が認められる。以上のようなことから堤に関連する可能性があることを指摘しておきたい。

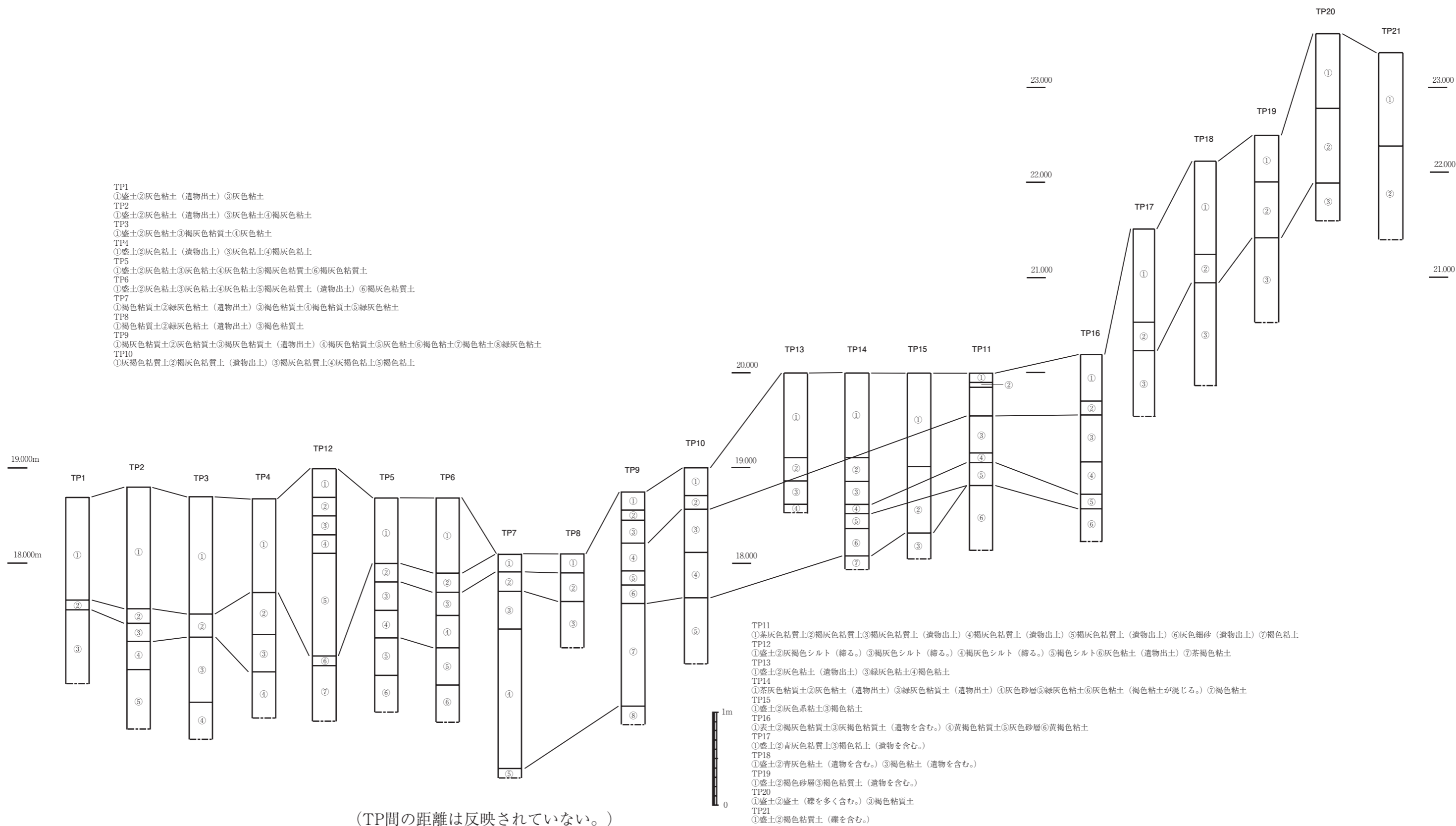


Fig.5 テストピット柱状図

第Ⅳ章 調査成果

1. I区・Ⅱ-1区の調査成果

(1) 基本層序

全調査区を通してローマ数字を冠した層名は性格的に同じものと考えられるものであり、I層は耕作土、Ⅱ層は床土、Ⅲ層は遺物包含層及び一部の遺構埋土、Ⅳ層は地山をそれぞれ表している。

① I-1区

東壁で基本層序の観察を行った。

I層は灰黄褐色粘質土であり、Ⅱ層は灰色粘質土である。これらI・Ⅱ層を除去すると、遺構検出面である。Ⅳ層は地山であり、地下水の影響により、上層は灰色を呈し、下層は明黄褐色を呈する。遺物包含層〔Ⅲ層〕は認められなかった。遺構埋土は断面観察では二種類に分類できるが、調査時には各遺構をそれぞれに分類することはできなかった。

② I-2区

仮設の待避所が設置されていた。調査時に仮設の待避所を撤去したものの、攪乱のために全体の基本層序を観察することができなかった。攪乱を受けていなかった北端部で観察できたのみである。

I層は暗灰黄色粘質土であり、Ⅱ層は緑灰色粘質土である。I-1区と同様、遺物包含層〔Ⅲ層〕は認められなかった。Ⅳ層は明黄褐色粘質土である。遺構埋土は基本的には黄灰色粘質土である。

③ I-3区

東壁と南壁で基本層序の観察を行った。

I層は灰色～暗灰黄色粘質土であり、Ⅱ層は灰色～青灰色粘質土である。Ⅲ層は黄灰色粘質土と明黄褐色粘質土が混じった土層あるいは明黄褐色粘質土である。Ⅳ層は明黄褐色粘質土であり、このⅣ層上面で遺構を検出することができた。遺構の埋土は、Ⅲ層あるいはⅢ層とⅣ層が混じったものにと大別できる。

④ Ⅱ-1区

西壁で基本層序の観察を行った。

I層は黄灰色粘質土であり、Ⅱ層は北半部が緑灰色を呈し、南半部がにぶい黄橙色を呈する。Ⅲ層は灰黄褐色粘質土である。層厚は約40cmをはかり、今次調査の遺物包含層では最も厚い。Ⅳ層はにぶい黄褐色粘質土であり、上面において遺構が検出できる。Ⅳ層上面は北から南にむけて標高が若干下がる。また、上層には少量の遺物を含む。Ⅴ層はにぶい黄色粘土層であり、ごく僅かに遺物を包含する。Ⅵ層は褐灰色砂層であり、やや粘性がある。流路の堆積層と推定され、丘陵裾部を流れるような自然流路が存在した可能性がある。若干の遺物を包含する。Ⅵ'層は灰色砂層であり、やや粘性がある。若干の遺物を包含する。また、Ⅵ層とⅥ'層の境目には層状に鉄分の吸着が認められる。また、このⅥ・Ⅵ'層の上下の層を含めて自然流路の堆積層の可能性はある。Ⅶ層は灰色粘土層であり、無遺物層である。

なお、北端部の⑤～⑨層は下層確認のためのトレンチ調査によるものである。

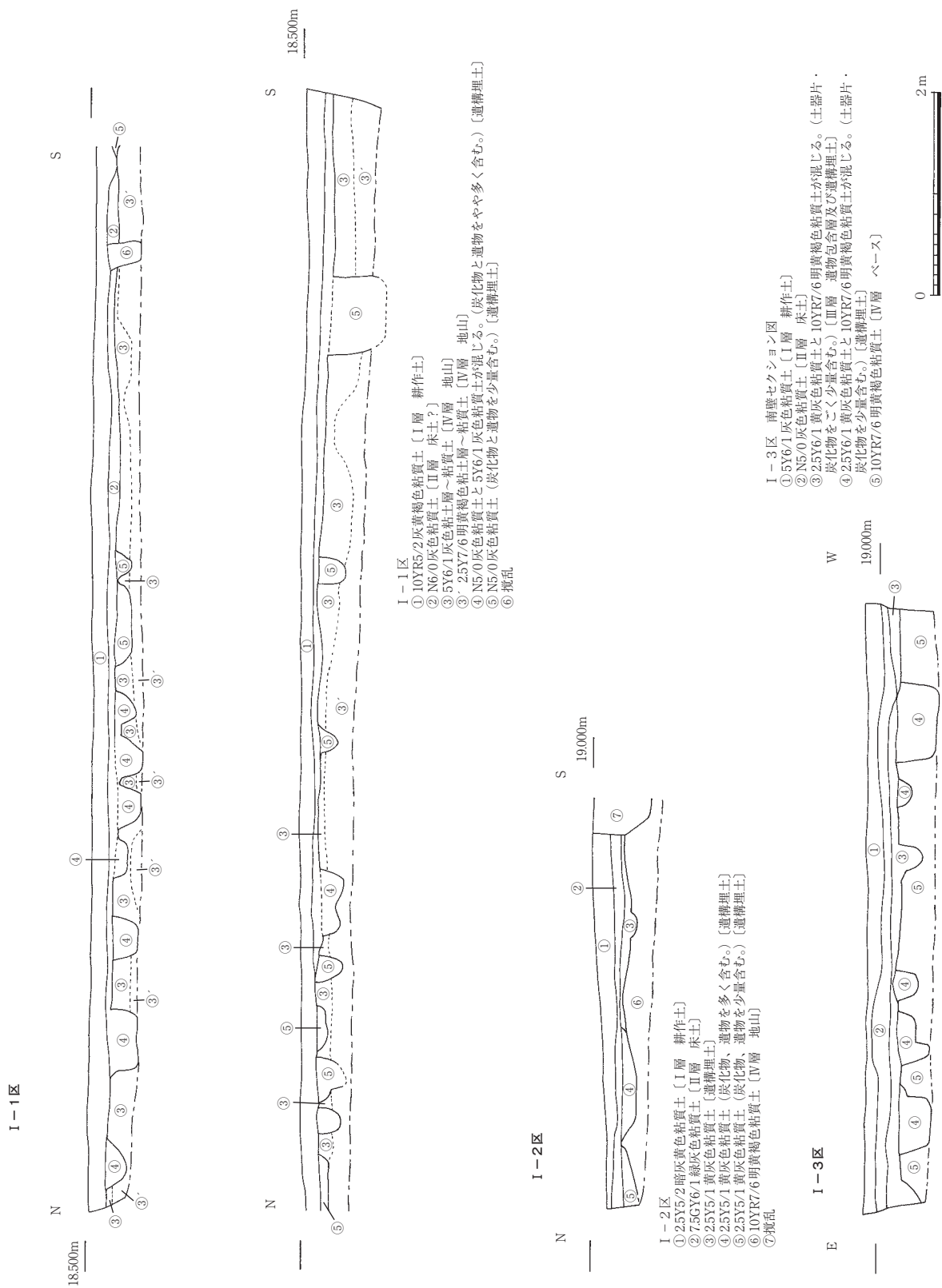


Fig.6 基本層序1 (I-1・I-2・I-3区)

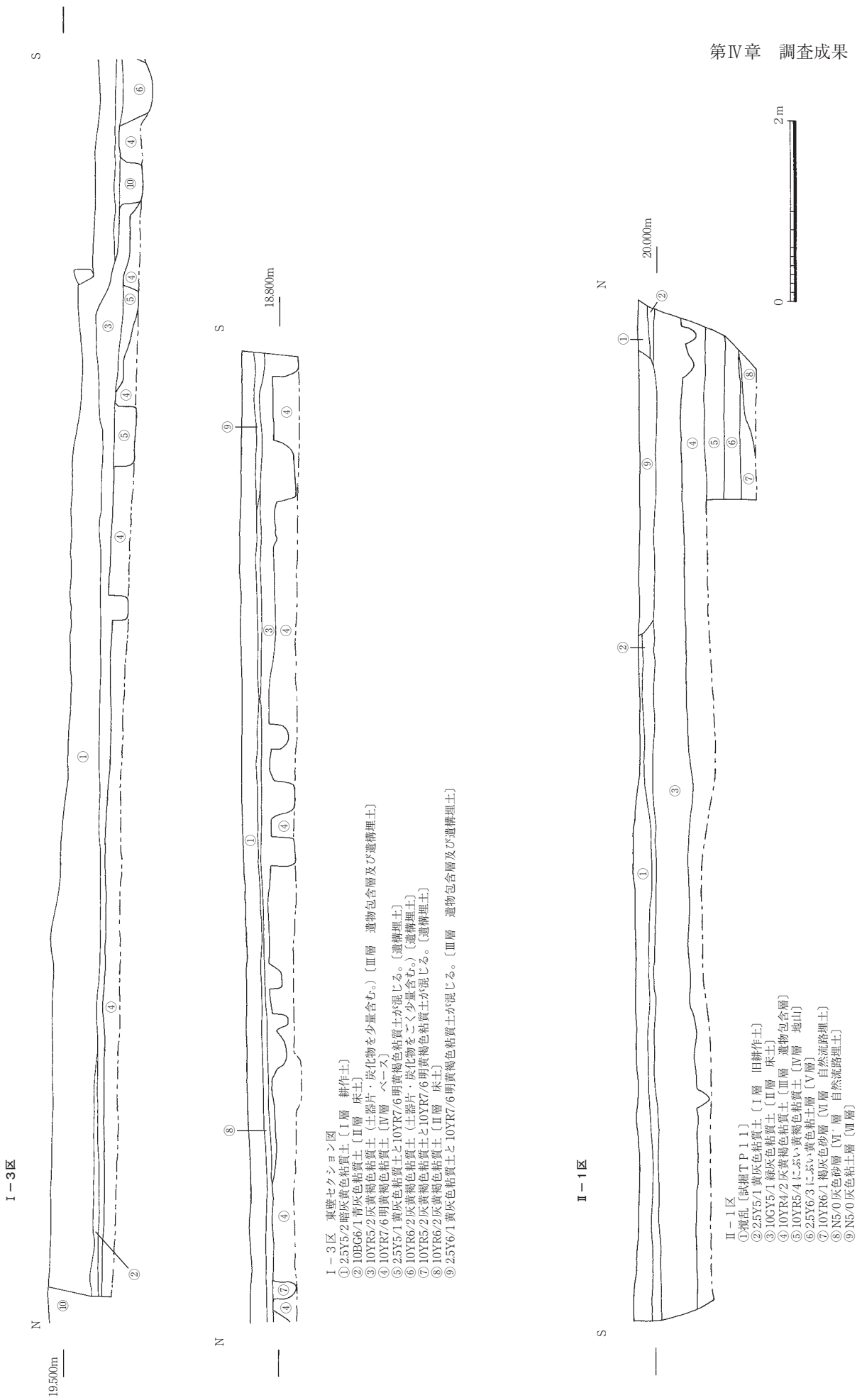


Fig.7 基本層序 (I-3・II-1区)

⑤ 小結

包含層（Ⅲ層）が確認できなかったⅠ-1区およびⅠ-2区は削平を受けている可能性が大きい。

(2) 検出遺構

調査区等の制約から現状では、積極的に掘立柱建物跡に復元することは難しい。しかしながら、その多くは掘立柱建物跡を形成する一部であると考えられる。すべての遺構については詳細に述べることはできないが、ここでは特徴的な遺構について記述する。なお、各遺構の形態・規模・出土遺物については遺構観察表を参照されたい。また、各遺物については、(3) 出土遺物の項で述べる。

① Ⅰ-1区

Ⅰ-1区は今回の調査区では最も南に位置し、検出した標高は約18.1~18.2mであり今次調査では最も低い。遺構の粗密はあまりなく、ほぼ全域で遺構を検出することができた。遺構の埋土は基本的には灰色の粘質土であり、炭化物・遺物を含む土層である。

P52は調査区の南端部で検出した。直径50cm弱の不整円形を呈する。埋土は上層が灰色の粘質土であり、下層は明黄褐色粘質土である。出土遺物は土師質土器、瓦器、青磁、スラグが出土している。また、棒状の自然礫が出土している。自然礫は幅約3cm、長さ約10cmのものが4本出土している。なお、石材は4本とも様々である。

P72は調査区の北西部で検出した。平面形は隅丸方形を呈しており、東端部で柱痕跡と考えられる柱痕を検出している。出土遺物は土師質土器と粘土塊が出土している。

SK6は調査区の南西部で検出した。不整円形を呈した土坑であり、銅銭が1枚出土した。銅銭は検出面から数cm掘削した時点で出土し、表面を下にした状態であった。この銅銭は土師質土器、瓦器、青磁、土錘と出土しており、埋納されたものとは考えにくい。

SK17は調査区北東部で検出した不整楕円形の土坑で長径70cm、短径50cmを測り深さは23cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。埋土①層は、灰色粘質土とオリーブ灰色粘質土が同程度の割合で混じり遺物、炭化物が少量含まれる。粘質度が高い。埋土②層は、灰色粘質土と少量の割合でオリーブ粘質土が混じる。炭化物、遺物を少量含む。粘性が強い。埋土③層は黄灰粘質土で10cm大の角礫が含まれる。かなり粘性が強い。①層は柱痕跡に伴う埋土と思われる。出土遺物は土師質土器、瓦器、東播系須恵器、青磁、鉄製品が出土している。また、幅約5cm、長さ約10cmの棒状の自然礫が出土している。

SD1は調査区の中央部に位置する。幅約0.65m、深さは約0.12mであり、2.2mを検出した。西側はテストピットにより切られているが、東西ともに調査区外へのびていたものと考えられる。出土遺物は土師質土器、土師質土器鍋、瓦器、青磁、不明陶器、石鍋である。

② Ⅰ-2区

標高18.4~18.6mで遺構が検出できた。今次調査では南北に長く遺構を検出した。標高にも若干の高低差がある。調査の南端部付近は遺構の分布が疎らであり、遺構分布が偏在する傾向が認められる。

P84は調査区の中央部やや南寄りに位置する。長径83cm、短径60cmを測り、深さは75cmを測り非

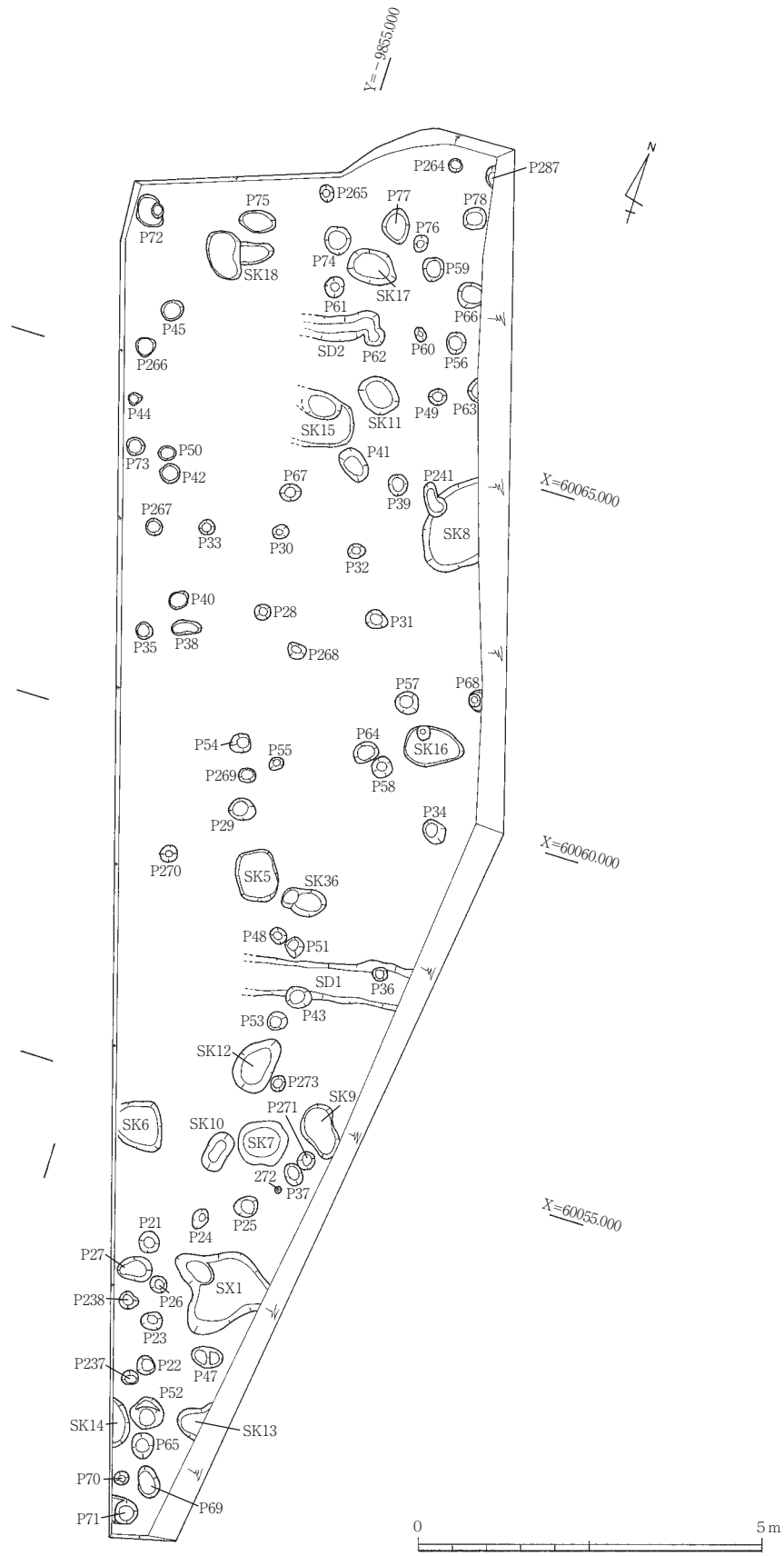


Fig.8 I - 1 区検出遺構配置図



Fig.9 I-2区検出遺構配置図

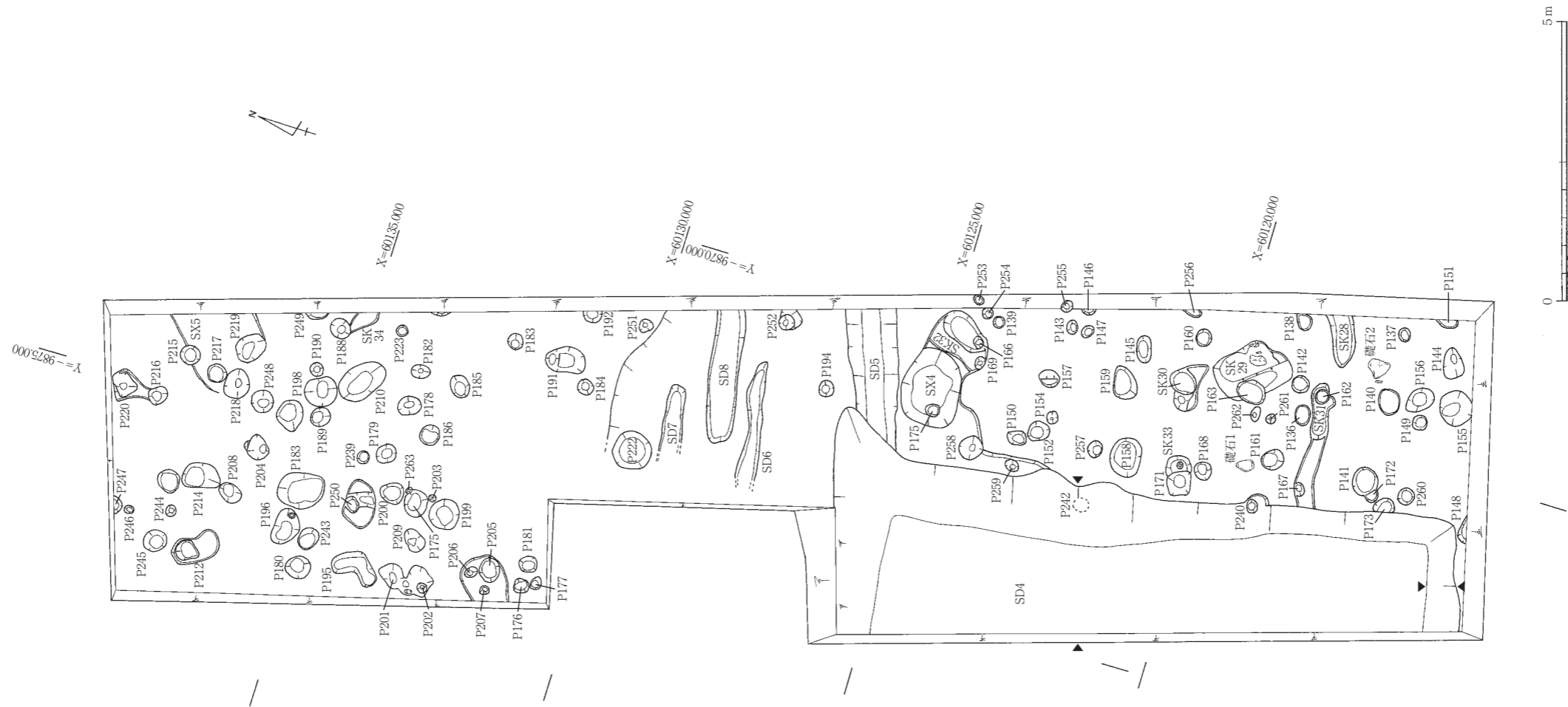


Fig.10 I-3区検出遺構配置図

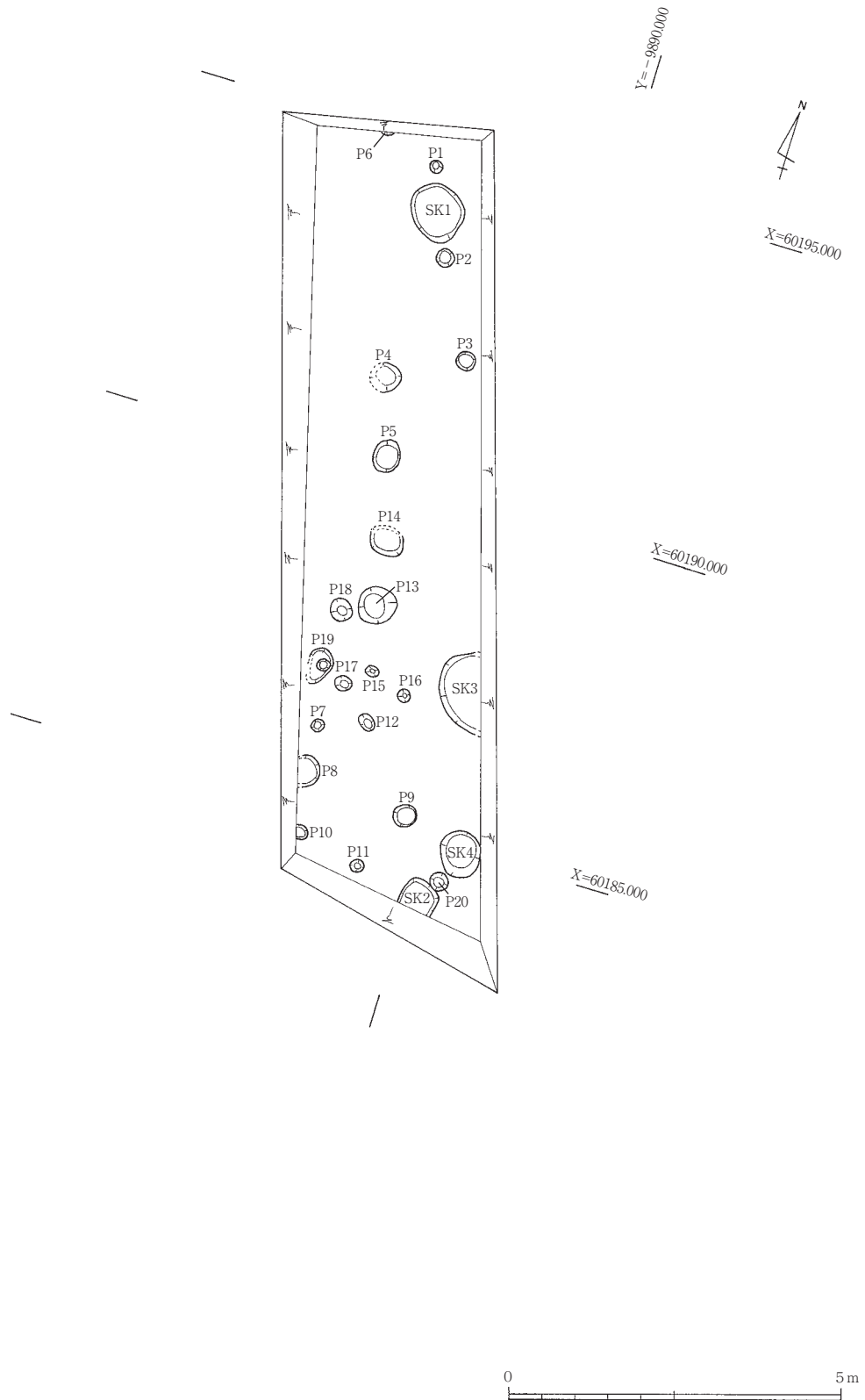


Fig.11 II-1区検出遺構配置図

常に深い。平面形は不整形を呈し南側には平坦部（テラス）が存在する。底面は平坦であり壁面は斜め上方に立ち上がる。埋土①層は、褐灰色粘質土で土器と炭化物が含まれる。埋土②層は、褐灰色粘質土に明黄褐色粘質土が混じり堅く締る。少量の炭化物を含む。埋土③層は、明黄褐色粘質土で15cm大の角礫を含み炭化物を少量含む。柱痕跡に伴う埋土と思われる。

P94は調査区のほぼ中央部で検出した。長径72cm、短径60cmで不整形を呈する。深さは、58cmと深く西壁は斜め上方に立ち上がる。底面は、平坦である。埋土は、褐灰色粘質土で少量の遺物、炭化物を含む。

P96は調査区中央部で検出した。P174と切り合い関係を持つが新旧は不明である。平面形は一辺約45cmの方形を呈する。中央部に直径約20cmの柱痕跡が認められる。出土遺物は土師質土器と瓦器が僅かに出土したのみである。

P101は調査区の中央部に位置する。平面形はほぼ方形を呈する。一辺は62cmを測り深さは、51cmと比較的深い。壁面は比較的緩く斜めに立ち上がる。埋土①層は、褐灰色粘質土に明黄褐色粘質土がブロック状にあり炭化物を少量含む。柱痕跡に伴う埋土と思われる。埋土②層は明黄褐色粘質土に褐灰色粘質土のブロックが混じり下層にしたがって褐灰色粘質土の割合が多くなる。

SK19は調査区で検出した。瓦器皿が完形で出土した。シミ状に検出したもので、検出時の平面プランは不明瞭であった。

SK27は調査区最北部に位置する。P135、P164、P165、P274に切られる。不整形の土坑で長径約1.9mであるが東は調査区外にもものびると推定される。短径は1.1mを測り、深さは10～12cmと比較的浅い。埋土①層は、灰色粘質土にぶい黄橙色粘土質のブロックを僅かに含む。直径3cm大の礫を少量含む。土器片、炭化物を含み特に炭化物は、土坑の西の検出面付近に集中している。埋土②層は、直径1cm以下の炭化物を多く含む粘質土層に灰色粘質土のブロックが混じる。土器片を含む。埋土③層は、灰色粘質土とぶい黄橙色粘質土が混じり少量の炭化物が含まれる。SK27に伴うものかどうかは不明である。出土遺物は土師質土器、土師質土器羽釜、瓦器、瓦質土器、須恵器、備前焼、粘土塊である。

SD3は調査区北部のSK27の南側で検出した。調査区を東西方向に通る東側は調査区外へも伸びると推定される。県道側溝の影響による1m幅の攪乱に遮られているが長さ約4.5m、幅45cmを検出し、深さは6～8cmと非常に浅い。断面はU字形を呈し壁面は斜めに緩やかに立ち上がり上部でさらに緩くなる。区画溝と思われる。埋土は、単層で褐色粘質土である。

③ I-3区

標高18.7m～19.0mで遺構が検出できた。後述するが、SD4と切り合い関係を持つ遺構はすべてSD4に切られていることを考慮するとSD4を掘削することで多くの遺構が消滅したことも推定でき、I-3区全域にSD4以前の遺構が分布していたものと考えられる。

調査区の南端部において礎石を2ヶ所確認した。平面で掘形を検出できなかったため、断ち割りを行ったが両方とも掘形を検出することはできなかった。

P157は調査区の中央部に位置する。長径35cm、短径30cmの楕円形の平面形を呈する。深さ7cmと非常に浅く壁面は斜位に立ち上がる。埋土①層は柱痕跡の埋土と思われ灰色粘質土に浅黄色粘質

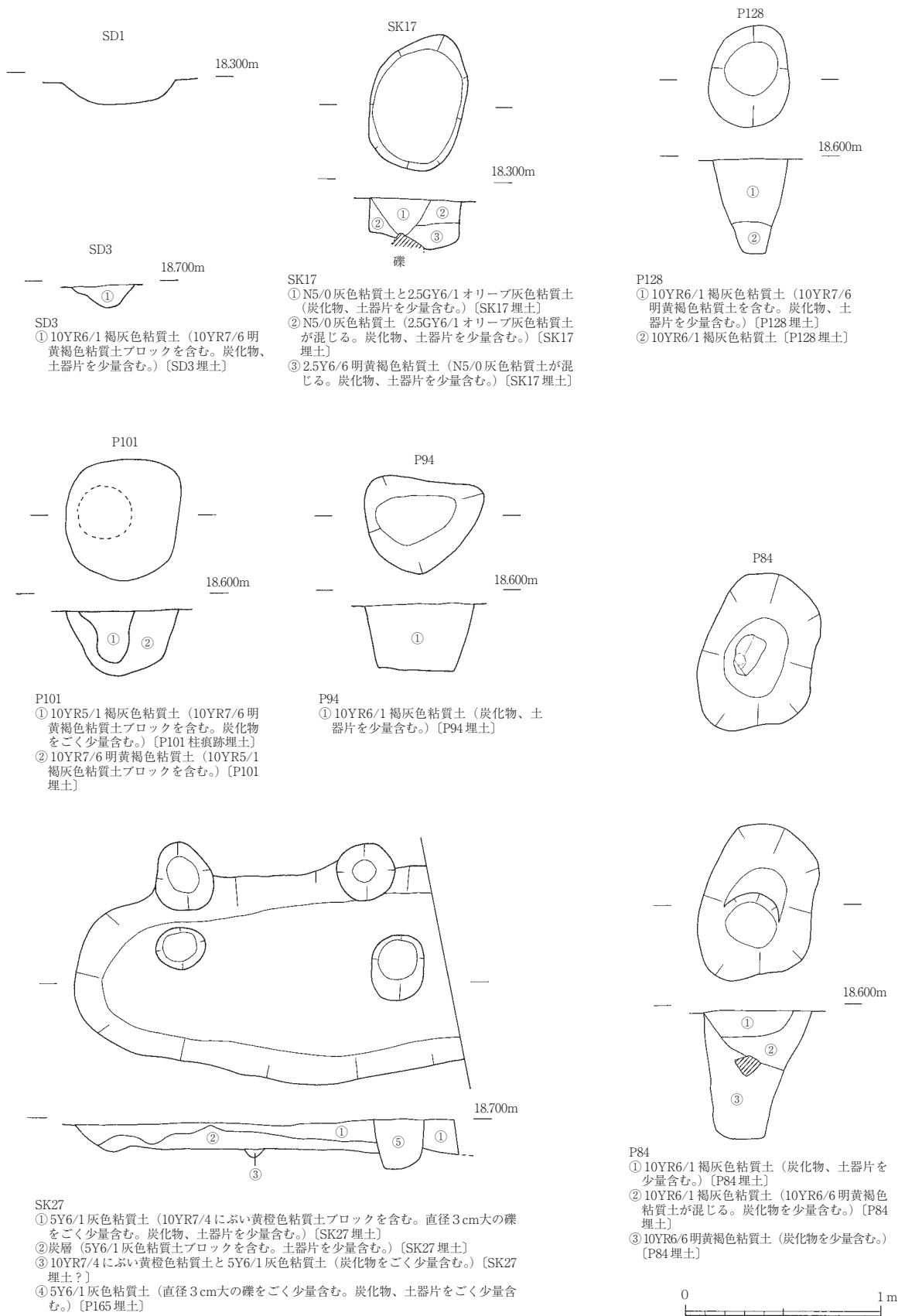


Fig.12 遺構図1 (SD1 エレベーション図、SD3 セクション図 SK17・P128・P101・P94・SK27、平面図・セクション図 P84 礫出土状況平面図・断面図)

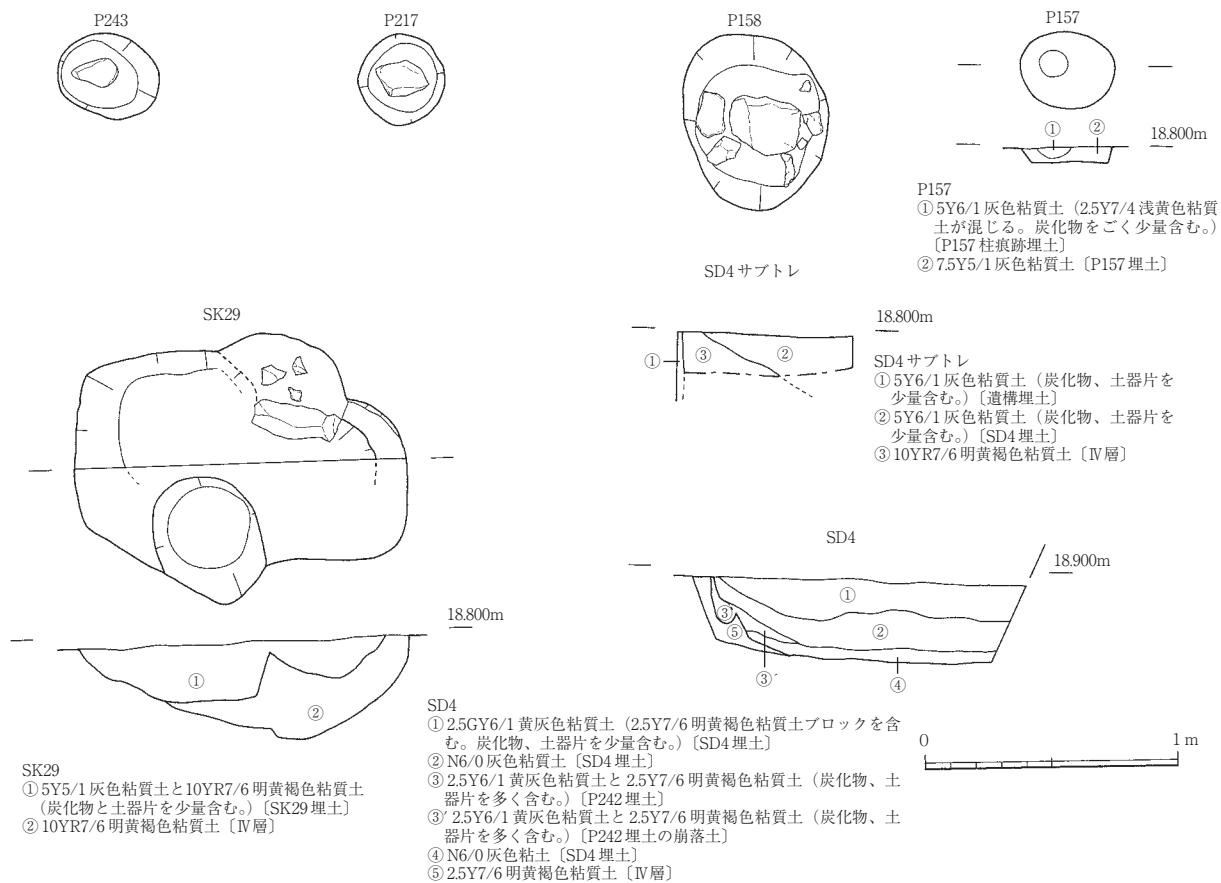


Fig.13 遺構図 2 (P243・P217・P158 礎出土状況平面図、SK29 平面図・セクション図、SD4 サブトレセクション図)

土が混じり炭化物がごく少量含まれる。埋土②層は灰色粘質土で堅く締る。

P158は調査区のやや南よりで検出した。SD 4 東側に位置する。長径67cm、短径57cmで平面形は不整円形を呈する。深さは26cmを測る。壁面はほぼ垂直に立ち上がるが西壁は斜め上方に立ち上がる。底面からは10~20cm大の角礫が7個出土し中央部の角礫の上面は20cm四方のほぼ平坦な面がある。礎板(礎石)と思われる。埋土は、褐灰色粘質土であり、堅く締る。

P217は調査区北東部で検出した。直径35cmを測り、平面形は円形を呈する。深さは、33cmを測る。底面は平坦面を呈し壁面は直立して立ち上がる。底面からは、直径15cm大の角礫が出土し上面はやや傾斜はあるもののほぼ平坦である。埋土は単層で灰色粘質土である。

P242は調査区南部で検出した。SD 4 に切られている。SD 4 のサブトレレンチ掘削時に結果的に半裁したことになったが、直径約30cmに復原することができる。埋土は黄灰色粘質土であり、炭化物とともに多くの土器が出土した。出土遺物は土師質土器、備前焼、粘土塊である。

P243は調査区の北西部で検出した。長径40cm、短径30cmで、平面形は楕円形を呈する。深さは27cmを測る。底面は平坦面を呈し壁面は直立して立ち上がる。底面からは、直径20cm大の角礫が出土し上面はほぼ平坦で一部に被熱痕がみられる。埋土は単層で灰色粘質土である。

SK29は調査区南よりで検出した土坑である。平面形は、不整楕円形で長径130cm、短径90cm、深

さは約30cmを測る。埋土は、単一で灰色粘質土と明黄褐色粘質土が混じり炭化物と土器片を少量含む。P163の埋土も同じで平面プランでは、切り合いの存在も考えられるが確認はできなかった。東南部に20cm大の角礫がみられる。

SD 4 は調査区の南西部で検出した。調査区南半部の大部分を占める溝であり南北は約10.8m、東西は約2.8mを測り北東部では広がりを見せている。西側は調査区外へさらに伸びると推定される。深さは50～60cmと深く底面はほとんど平坦であり西側（県道側）にやや低くなっている。壁面は、斜位に立ち上がっているが西壁については調査区外へと伸びると思われ確認はできなかった。北東部ではSD 5 との間に切り合いが存在しSD 5 を切っている。埋土①層は黄灰色粘質土に明黄褐色粘質土のブロックを含み炭化物、土器片を少量含む。②層は灰色粘質土、③層はP240の埋土で黄灰色粘質土に明黄褐色粘質土で炭化物、土器を多く含む。遺物、堆積状況、SD 4 により切られていることから推定しSD 4 以前のピットと思われる。④層は灰色粘質土で泥質であり湧水がみられる。遺物からSD 4 の時期を決定することは難しいが、土層堆積状況や壁面の様相から推定し流れの少ない濠もしくは池の役割を果たしていたのではないかと推定される。現在でも調査区と県道を挟み神社境内の鳥居脇にも池（貯水・防火）があり、それとの関係も考えられるのではないだろうか。

④ II - 1 区

標高19.5～19.6m で遺構が検出できた。

包含層は、今次調査では最も厚かった。試掘確認調査時（TP11）に、土師質土器杯が2枚重なった状態で出土した。23が上で24が下であり、遺構に伴うものではなく包含層の出土である。このような出土状況から遺構に埋納されていたというよりもむしろ、埋納されたものが二次的に移動したものと推定される。

(3) 出土遺物

1 は土師質土器の小皿であり、やや内湾する体部を有する。全体的に摩耗しており、底部の切り離し手法は不明である。2 は土師質土器の小皿であり、体部は直線的に立ち上がる。全体的に摩耗しており、底部の切り離し手法は不明である。内底面にはロクロ目が比較的明瞭に残存する。体部内外面は丁寧にナデられている。3 は土師質土器の小皿である。腰部外面は強いヨコナデにより稜を成し、口縁部は僅かに外反する。全体的に摩耗しているが、外底面には僅かに回転糸切り痕跡が認められる。内底面外縁に沿い工具痕跡がみられる。焼成は比較的硬く焼きしめる。また、胎土には直径8mmほどの小礫を含む。全体的に異質な印象を受ける。4 は土師質土器の小皿である。ほぼ完形で残存しているが、摩耗が激しい。底部外面は突出し、体部は直線的にのびる。底部内面は窪む。底部の切り離し手法は回転糸切りと推定される。5 は土師質土器の小皿である。腰部外面に強いヨコナデを施し、口縁部が大きく外反する。底部外面には回転糸切り痕跡が認められる。また、糸切りにより底面がえぐられた部分がある。6 は土師質土器の小皿である。やや歪んでいる。底部外面には回転糸切り痕跡が残存する。二次焼成をやや激しく受けた可能性があり、内面は灰白色を呈する。器壁は薄い。7 は土師質土器の小皿である。体部は直線的にのび、口唇部は丸くおさめる。内外面はロクロナデにより丁寧につくられている。底部外面には僅かに回転糸切り痕跡が認められ

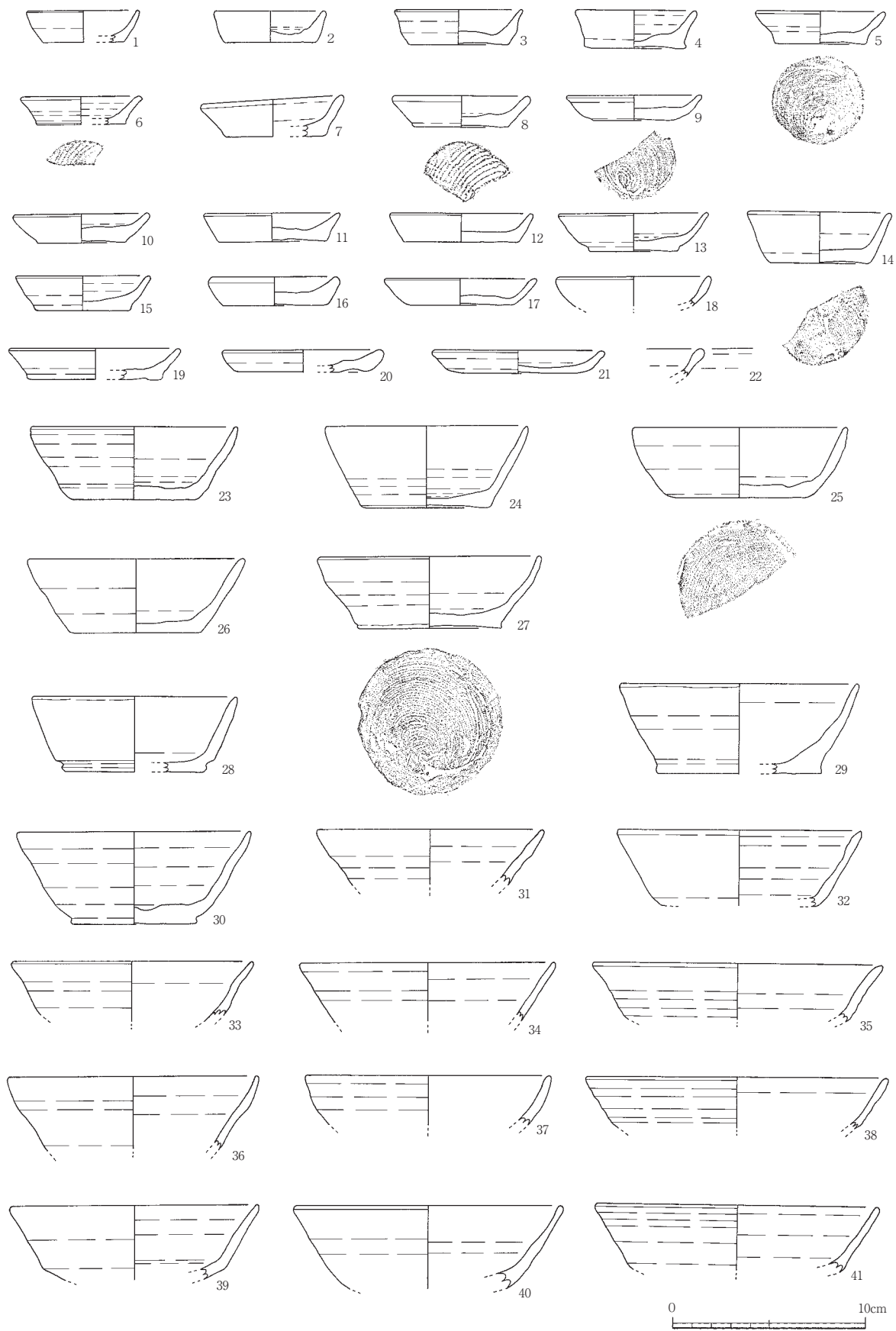


Fig.14 出土遺物実測図（土師質土器・瓦器1）

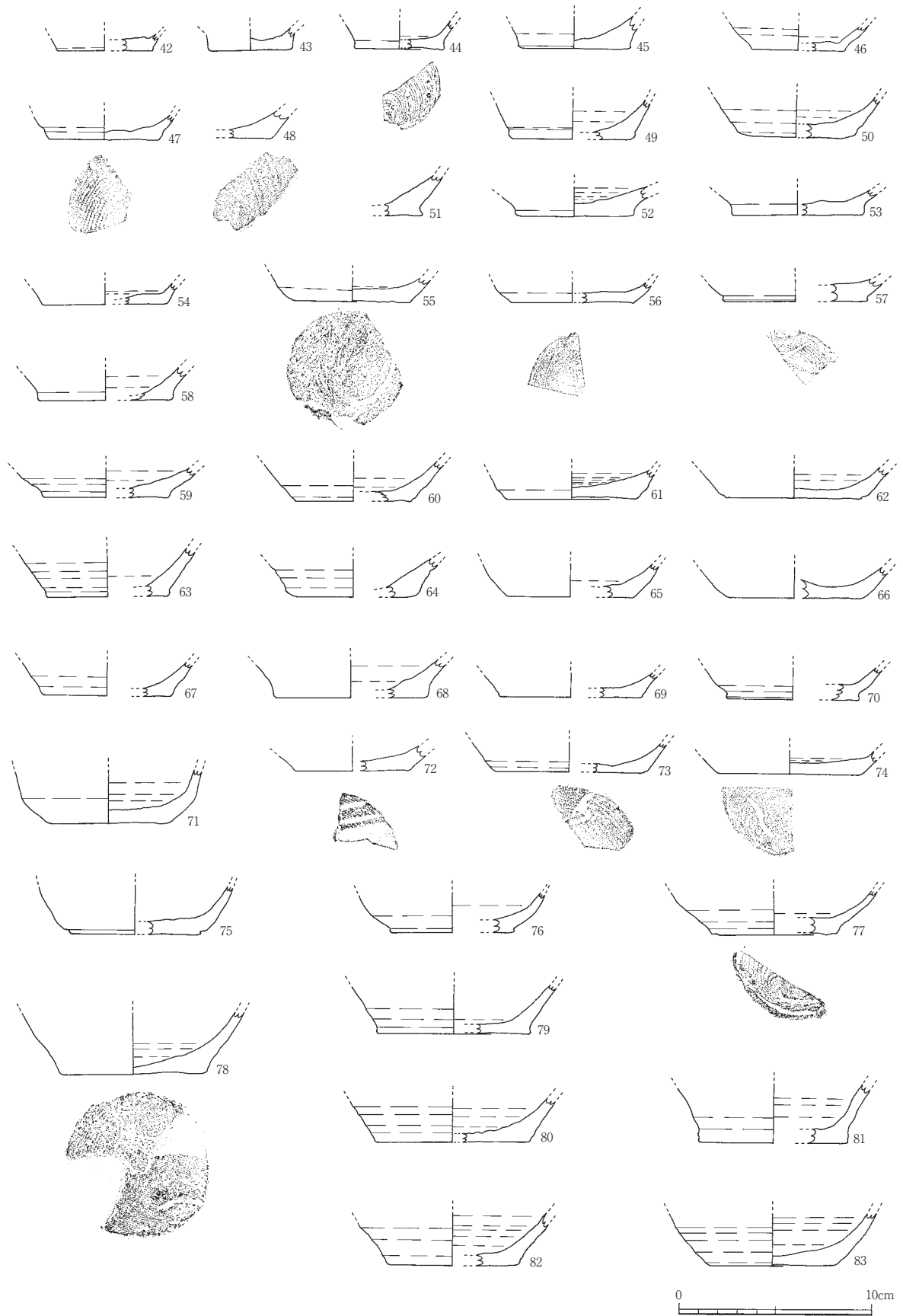


Fig.15 出土遺物実測図（土師質土器2）

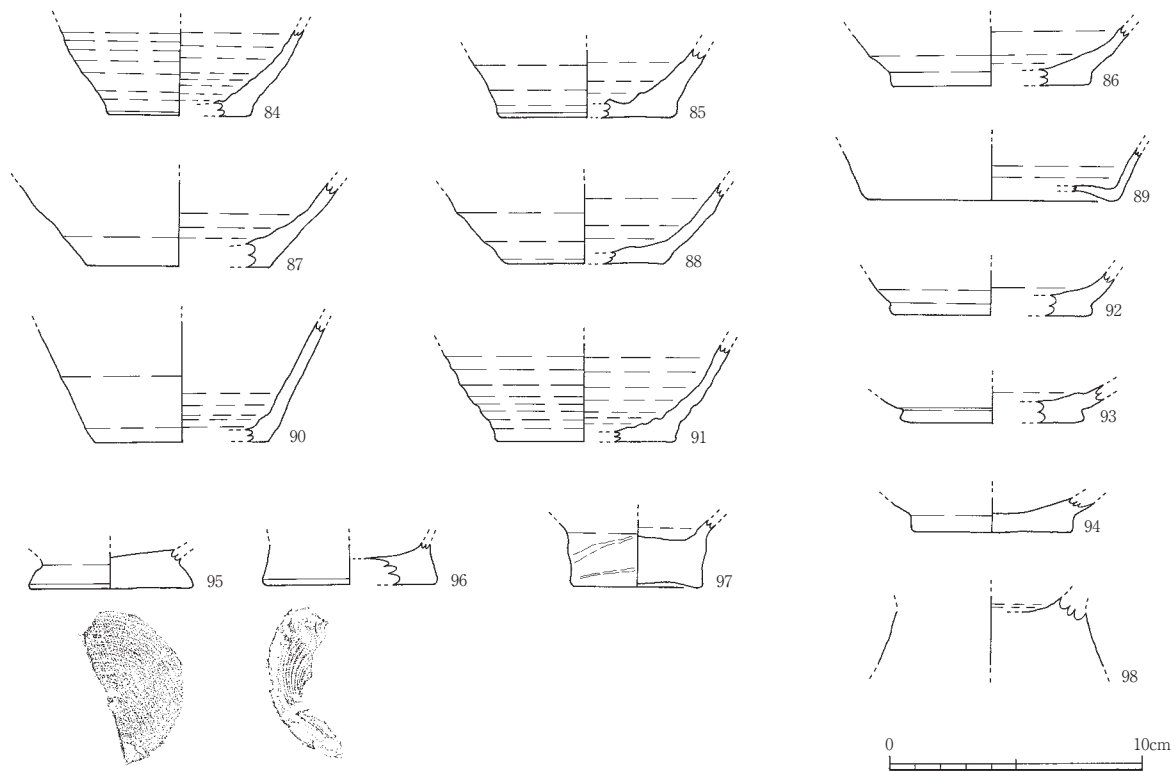


Fig.16 出土遺物実測図（土師質土器3）

る。8は土師質土器の小皿である。体部は外上方にやや大きくのび、口唇部は丸くおさめる。底部内面にはロクロ目がみられ、外面には回転糸切り痕跡が明瞭に認められる。また、糸切り痕跡を切るかたちで直線状の圧痕がみられる。9は土師質土器の小皿である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部を外反させる。内外面はロクロナデ調整を施し、底部外面には回転糸切り痕跡が認められる。10は土師質土器の小皿である。体部は底部から屈曲して短く立ち上がる。底部外面には回転糸切り痕跡が認められ、糸切り後、粘土粒が付着している。11は土師質土器の小皿である。体部は短く直立気味に立ち上がる。摩耗が激しい。ほぼ完形に復原することができた。12は土師質土器の小皿である。体部は短く直立気味に立ち上がる。摩耗が激しい。13は土師質土器の小皿である。底部は薄い円盤状を呈し、体部は内湾気味に立ち上がる。全体的に摩耗が激しい。14はやや器高の高い杯状を呈する小皿である。底部外面には回転糸切り痕跡が認められる。17は土師質土器の小皿である。底部内面の外縁に沿い窪む。底部外面には回転糸切り痕跡が明瞭に認められ、糸切り痕跡を切るかたちで直線状の圧痕が数条みられる。19は土師質土器の小皿である。底部外面が僅かに突出する。やや歪む。切り離し手法は回転糸切りによるものと推定される。26は土師質土器の杯である。扁平な底部から体部は直線的にのび、口唇部はやや尖り気味におさめる。底部内面には側縁に沿いハケ目が残存する。底部外面には明瞭な回転糸切り痕跡は認められない。体部はロクロナデ調整である。27は土師質土器の杯である。口縁部は内湾気味に立ち上がる。内外面、ロクロナデ調整であり、底部内面中央部が若干盛り上がる。底部外面には回転糸切り痕跡が残存する。やや摩耗する。

28は土師質土器の杯である。やや突出する底部から体部は直線的にのび、口唇部はやや尖り気味におさめる。底部外面には回転糸切り痕跡が僅かに残る。29は土師質土器の杯である。底部外端部はやや突出する。底部外面には回転糸切り痕跡は認められない。外面には煤が付着しており、灯明杯として利用されていたものと推定される。また、内面には残存部においては煤の付着はみられない。30は土師質土器の杯である。底部の一部が歪み、やや不安定であり、全体的にややいびつである。内外面はロクロナデ調整である。接合できた破片以外にも、同一個体と推定できる破片も出土しており、比較的残存状況がよい個体である。31は土師質土器の杯である。内外面はロクロナデ調整であり、ロクロ目が比較的明瞭である。33は土師質土器の杯である。口縁端部で外反する。内外面、ロクロナデ調整である。全体的に摩耗する。37は土師質土器の杯である。外面には煤が付着する。

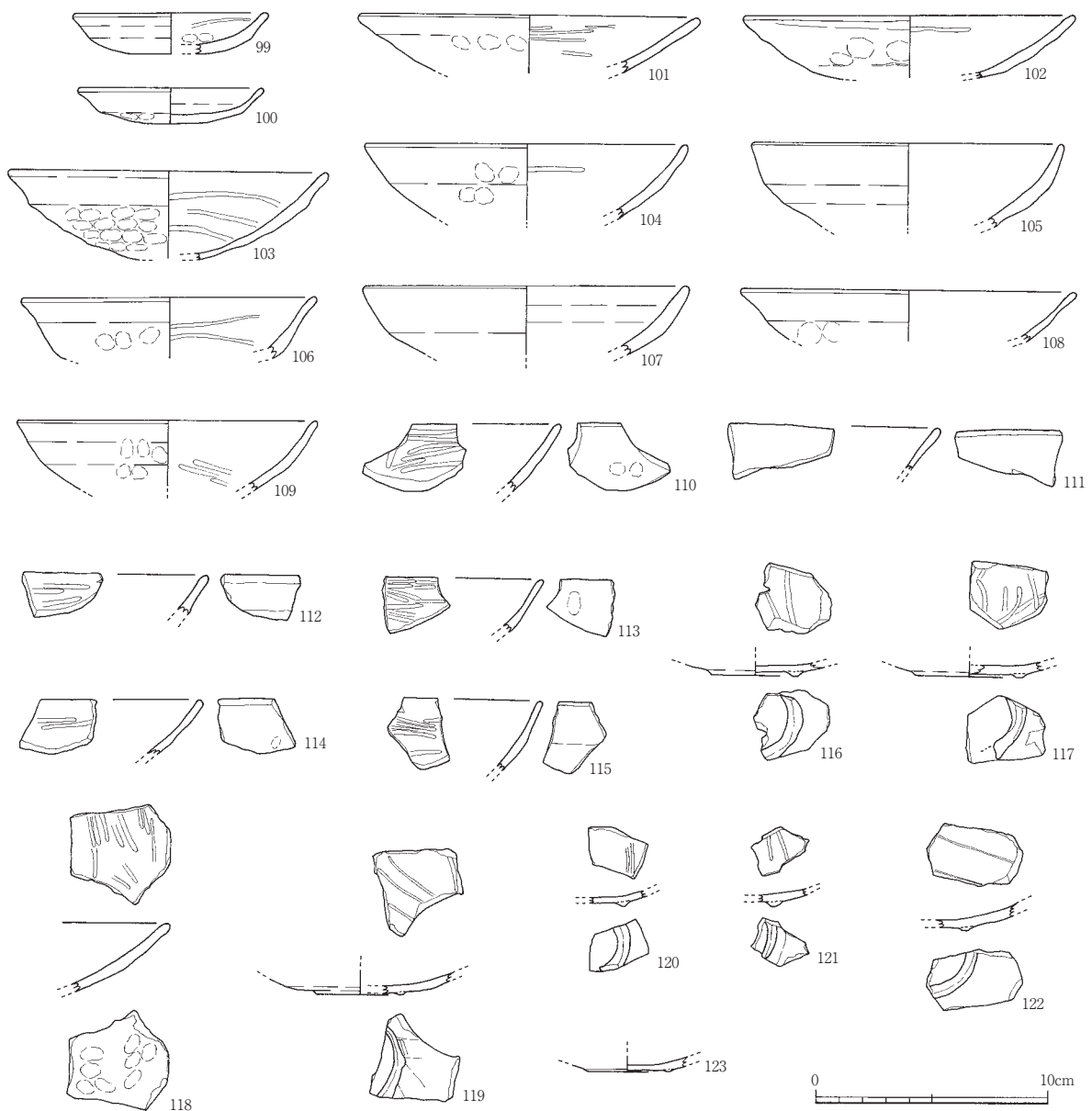


Fig.17 出土遺物実測図（瓦器）

また、被熱赤変する。小皿の可能性もある。41は土師質土器の杯である。内外面にロクロナデ調整を施す。焼成は良好であるが、やや焼け歪む。44は土師質土器の杯である。底部は若干上げ底風であり、外面には回転糸切り痕跡が明瞭に残存する。胎土には砂粒をほとんど含まず、精良である。45は土師質土器の杯である。底端部がやや突出する。外面には回転糸切り痕跡が残存する。また、煤の付着が認められる。46は土師質土器の杯である。全体的に器壁はうすい。焼成は良好でかたく焼き締まる。内外面はロクロナデ調整である。底部外面には明瞭な糸切り痕跡は認められない。色調は内外面とも黒褐色である。47は土師質土器の杯である。やや底部が突出する。内外面にはロクロナデ調整を施し、内面にはロクロ目が残存する。底部外面には回転糸切り痕跡が認められる。48は土師質土器の杯である。平坦な底部から外上方に体部がのびる。底部外面には回転糸切り痕跡が残存する。49は土師質土器の杯である。外底端部付近にヘラ状工具により沈線を施すことにより、退化した円盤状高台状に強調される。50は土師質土器の杯である。摩耗による可能性もあるが、腰部に丸味をもつ。胎土にはほとんど砂粒が含まれず、精良である。51は土師質土器の杯である。外底端部がやや鋭く突出する。内外面にロクロナデ調整を施す。52は土師質土器の杯である。底部が僅かに突出する。全体的に摩耗する。底部外面にはやや凹凸が認められる。内面にはロクロ目が認められる。53は土師質土器の杯である。底部は退化した円盤状高台風に突出させ、外面には回転糸切り痕跡が僅かに残存する。全体的に器壁はうすい。55は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転力の弱い糸切りである。62は土師質土器の杯である。内外面とも回転ナデ調整である。底部の切り離しは回転糸切りによるもので、切り残しの粘土粒が付着する。64は土師質土器の杯である。外面には鋭いロクロ目が残存する。71は土師質土器の杯である。体部は腰部で屈曲し、直立気味にのびる。内外面はロクロナデ調整であり、底部の切り離しは弱い回転力による糸切りである。72は土師質土器の杯である。外底部には平行線状の圧痕が認められる。78は土師質土器の杯である。底部外面には回転糸切り痕跡が認められる。内外面ともロクロナデ調整を推定され、底部内面は平坦な部分はほとんどなく中央部にむかい傾斜している。全体的に器壁は厚い。99は瓦器の皿である。口縁部外面にはヨコナデ調整を施す。体部外面は指頭圧痕が顕著に残る。また、内面には暗文が認

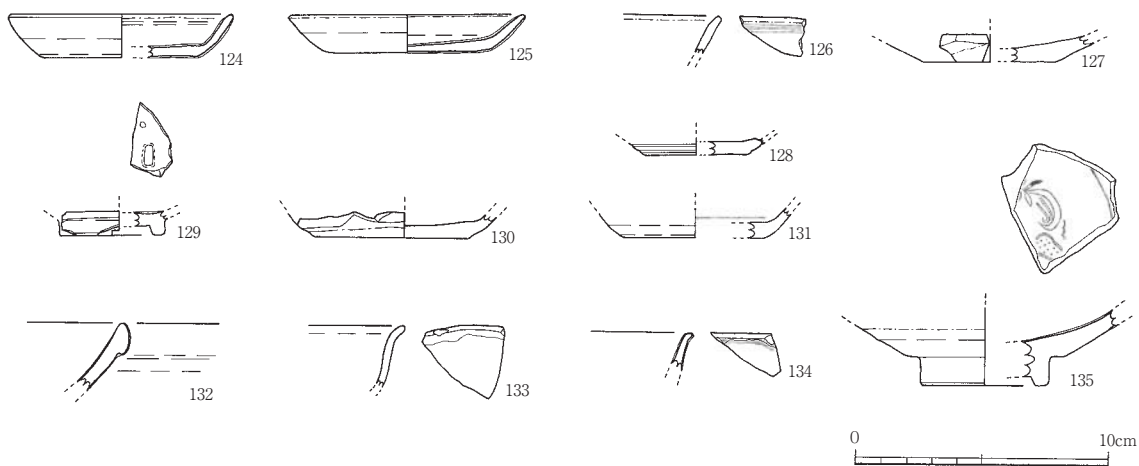


Fig.18 出土遺物実測図 (白磁)

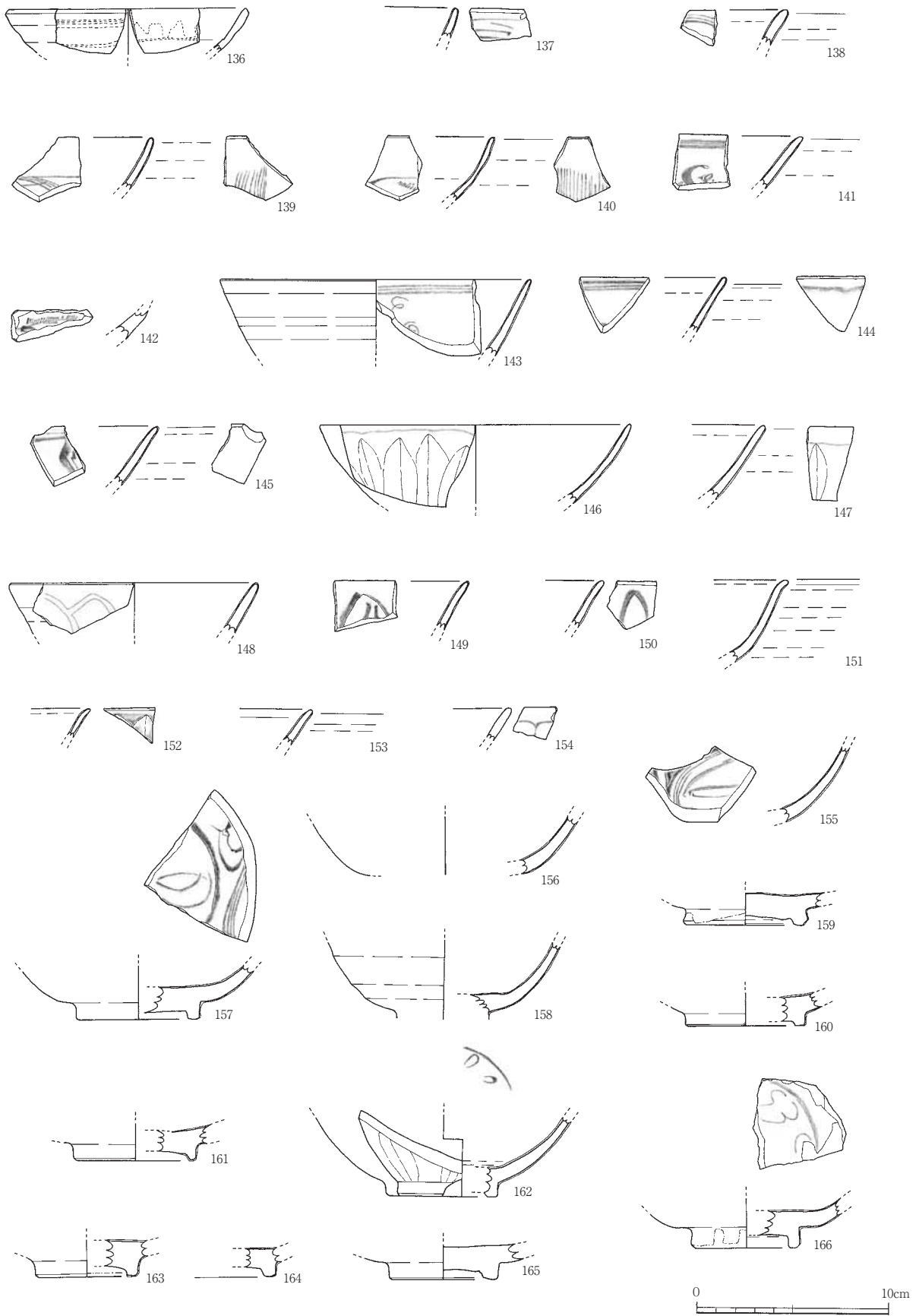


Fig.19 出土遺物実測図（青磁）

められる。100は完形の瓦器の皿である。内面は荒れており暗文の有無等を確認することができない。口縁部外面にはヨコナデ調整を施し、底部を含めて外面には指頭圧痕が顕著に残存する。101は瓦器の椀である。口縁部にはヨコナデ調整を施し、端部は丸くおさめる。内面には暗文が認められる。102は瓦器の椀である。口縁部はヨコナデ調整を施し、体部には指頭圧痕が顕著に残存する。内面はやや摩耗しており、十分観察できないが一部に暗文が認められる。内面は炭素の吸着が認められるが、外面には認められず色調は黄灰色を呈する。103は瓦器の椀である。口縁部はヨコナデ調整を施し、体部には指頭圧痕が顕著に残存する。内面には暗文が施される。内外面とも炭素の吸着はほとんど認められず、色調は黄灰色を呈する。104は瓦器の椀である。口縁部はヨコナデ調整を施し、体部には指頭圧痕が顕著に残存する。内外面とも炭素の吸着はまったく認められず、色調はにぶい橙～にぶい黄橙色を呈する。105は体部から緩やかに屈曲し、直線的な口縁部を持つ。口唇部はやや尖り気味におさめる。全体的にナデ調整が施される。内外面には炭素の吸着が認められる。ここでは瓦器に含めたが、瓦質土器の可能性も十分ある。106は瓦器の椀である。口縁部にはヨコナデ調整を施し、体部には指頭圧痕による凹凸が激しい。内面には暗文が認められる。107は瓦器の椀である。体部から緩やかに屈曲し、直線的な口縁部を持つ。口唇部はやや尖り気味に丸くおさめる。器壁は厚めである。口縁部はヨコナデ調整であり、体部はナデ調整である。内外面に炭素の吸着が認められる。形態的に106に類似する。108は瓦器の椀である。口縁部はヨコナデ調整であり、外面には指頭圧痕が認められる。器壁は薄めである。109は瓦器の椀である。口縁部はヨコナデ調整であり、外面には指頭圧痕がみられる。内面には暗文が認められる。110は瓦器の椀である。口縁部はヨコナデ調整であり、外面には指頭圧痕がみられる。内面の暗文は比較的密に施される。胎土には直径2mm大以下の砂粒をやや多く含む。111は瓦器の椀である。口縁部はヨコナデ調整である。炭素の吸着はまったく認められず、色調はにぶい黄橙色を呈する。112は瓦器の椀である。口縁部はヨコナデ調整である。内面には暗文が認められる。内外面は炭素の吸着があまい。113は瓦器の椀である。口縁部はヨコナデ調整である。内面の暗文は比較的密に施される。114は瓦器の椀である。口縁部はヨコナデ調整である。内面には暗文が認められる。115は瓦器の椀である。口縁部はヨコナデ調整であり、外面はナデ調整である。内面には暗文が認められる。暗文は比較的密に施される。116は瓦器の椀である。高台は部分によって若干異なるものの全体的に台形状を呈し比較的しっかりしている。内外面とも炭素の吸着はまったく認められない。117は瓦器の椀である。内面には暗文が施される。高台は断面が低平な台形を呈し、一部ははがれている。118は瓦器の椀である。体部の上半部で緩やかに屈曲し、口唇部は丸くおさめる。内面は丁寧なナデ調整により平滑にされている。また、暗文を比較的密に施す。胎土にはほとんど砂粒はふくまれない。また、断面の色調はにぶい黄褐色を呈する。やや異質な印象を受ける。黒色土器の可能性がある。119は瓦器の椀である。底部外面には断面が低平なかまぼこ状の高台がつく。内面には暗文がみられる。炭素の吸着は内面はあまく、外面はまったく認められない。120は瓦器の椀である。底部外面には断面が断面三角形の高台がつく。内面には暗文が認められる。121は瓦器の椀である。底部外面には断面が断面三角形～台形の高台がつく。内面には暗文が認められる。122は瓦器の椀である。底部外面には断面が断面三角形の高台がつく。内面には暗文が認められる。123は瓦器の椀である。低平で形骸化して

いる高台が全周残存している。129は白磁の皿である。内面には高台はアーチ状に削り出す。内面には重ね焼きの高台の跡が、高台には同じく重ね焼き時の釉薬が残存している。124は白磁の皿である。扁平な底部から口縁部が短く直線的にのびる。口縁端部の釉薬をかきとる。口縁端部以外は全面に明オリーブ灰色の釉薬を施釉する。Ⅸ類である。125は白磁の皿である。釉薬をかきとられた口縁端部以外には釉薬が施される。Ⅸ類である。127は白磁の皿である。底部から口縁部は大きく直線的にのびる。底部外面には回転糸切り痕跡が認められる。残存部では外面腰部から底部を除いて施釉される。また、外面にはピンホールが認められることから二次焼成を受けたものと推定される。128は白磁の皿である。見込みの外側沿には沈線が巡る。内面には透明感のある釉薬が施される。外面にはにぶい黄褐色の釉薬が施される。130は白磁の皿である。残存部では外面腰部から底部を除いて施釉される。釉調は灰白色を呈する。131は白磁の皿である。残存部の全面にやや透明感のある灰白色の釉薬が施される。132は白磁の碗である。口縁部は玉縁状を呈する。胎土は灰白色を呈する。133は白磁の碗である。口縁部が大きく外反するいわゆる「端反り」タイプである。

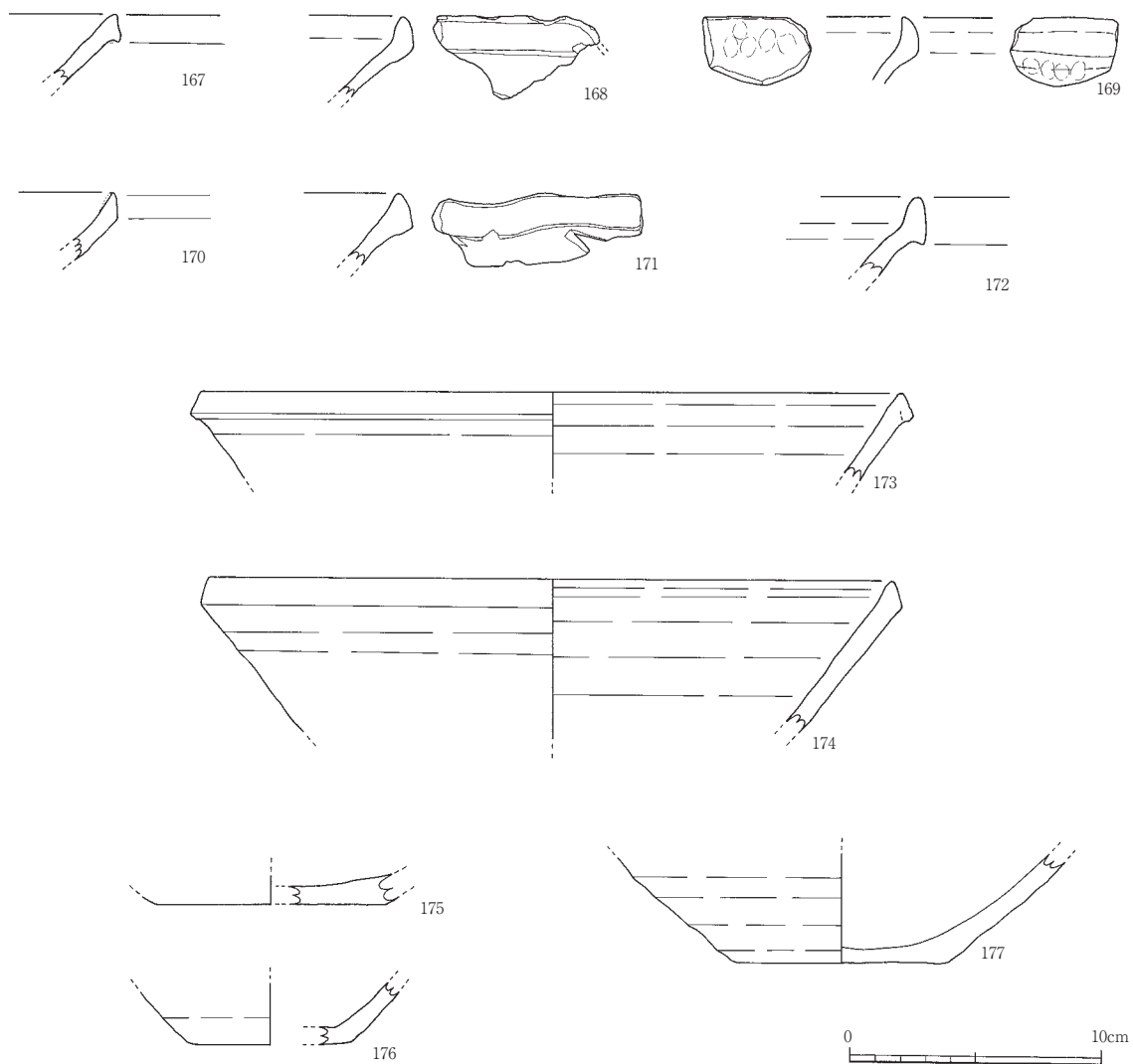


Fig.20 出土遺物実測図（東播系須恵器）

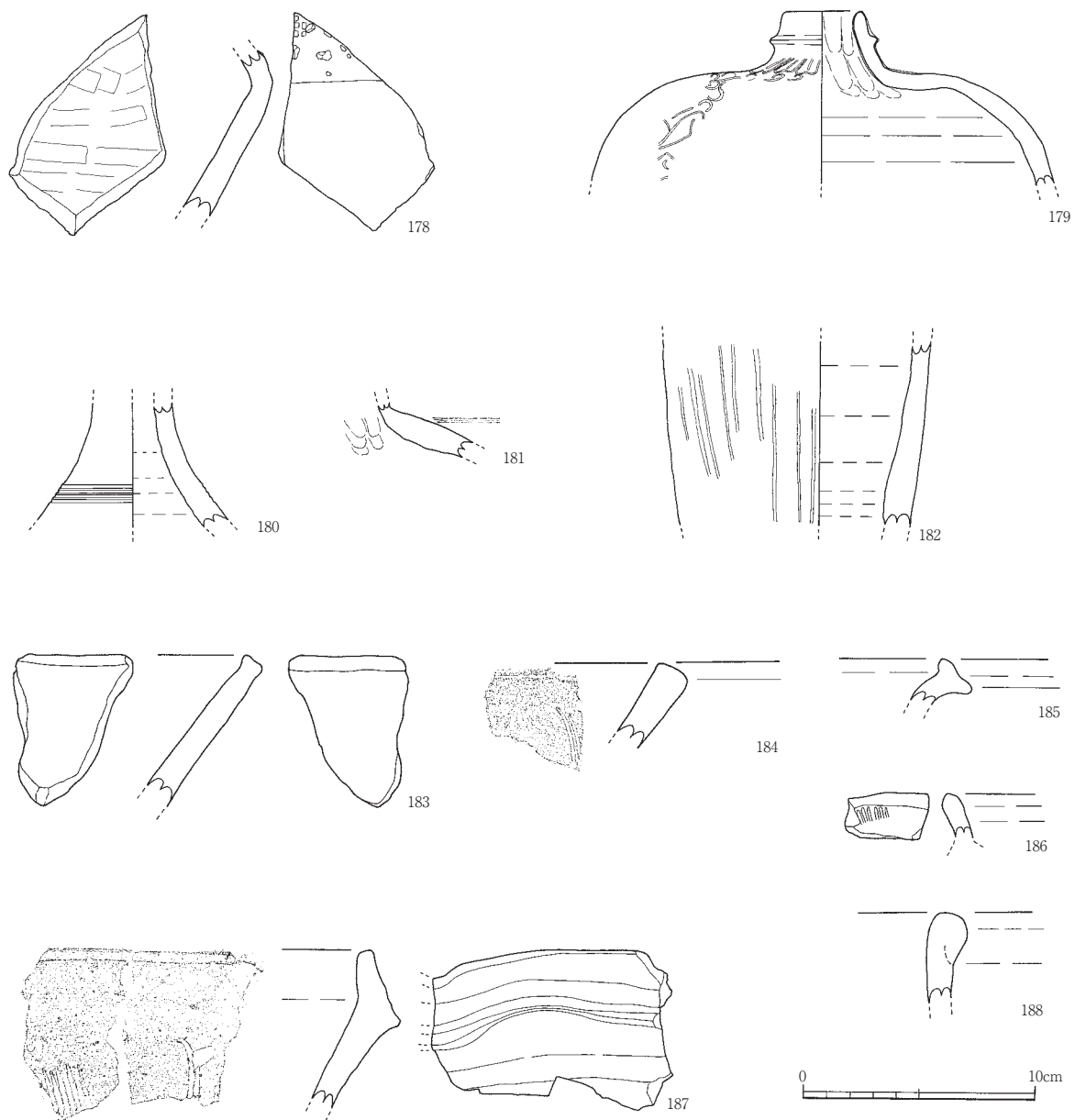


Fig.21 出土遺物実測図（常滑焼・瀬戸美濃系・備前焼）

乳白色の釉薬が施されている。134は白磁の碗である。口縁端部を折り曲げる。残存部では全面にオリーブ灰色の釉薬が施される。V類である。140は同安窯系の青磁の碗である。残存部では全面に施釉する。内外面には櫛描きによる文様を施す。141は龍泉窯系の青磁の碗である。釉調は透明感のある灰オリーブ色であり、残存部の全面に施釉する。内面には劃花文を施す。142は龍泉窯系の青磁の碗である。釉調はやや透明感のあるオリーブ灰色であり、ややムラがある。内面には櫛描きによる文様を施す。143は龍泉窯系の青磁の碗である。内面には劃花文を施す。146は龍泉窯系の青磁の碗である。口唇部は釉薬が剥げる。外面には鎬蓮弁文を施す。151は青磁の碗である。口縁部を外反させる。釉調は灰オリーブ色である。無文と考えられる。胎土は灰白色を呈し、やや粗い。155は龍泉窯系の青磁の碗である。透明感のある釉薬が施され、内面には劃花文が施される。156は

青磁の碗である。釉調は光沢感のあまりない灰オリーブ色である。残存部には文様がみられない。157は龍泉窯系の青磁の碗である。断面方形の削り出し高台が付く。釉調は透明感のある灰オリーブ色である。内面には劃花文を施す。159は青磁の碗である。安定感のある削り出し高台を有する。高台外面を面取りする。釉調は外面が灰黄色であり、内面はオリーブ灰色である。高台の一部から外底面は露胎である。160は青磁の碗である。幅が狭く、低めの削り出し高台が付く。畳付け及び外底面は露胎である。釉調はやや透明感のあるオリーブ灰色である。161は青磁の碗である。幅の狭い高台を有する。面取りにより、畳付けの幅は狭い。釉調は透明感のあるオリーブ灰色であり、畳付けの一部から外底面は露胎である。内面はやや不自然な剥離が認められる。162は青磁の碗である。外面には蓮弁文が施される。釉調は明オリーブ灰色であり、畳付けの一部は露胎である。165は青磁の碗である。安定感のある削り出し高台を有する。釉調は灰オリーブ色である。166は青磁の碗である。やや幅の狭い削り出し高台を有する。釉調はやや透明感のあるオリーブ灰色であり、高台の一部及び外底面は露胎である。内面には劃花文が施される。167は東播系須恵器の片口鉢であり、口縁部を下方に拡張する。内外面は回転ナデ調整である。168は東播系須恵器の片口鉢であり、口縁部を上方に拡張する。片口の部分が僅かに残存する。内外面は回転ナデ調整である。169は東播系須恵器の片口鉢である。口縁部を上方に拡張し、口縁端部は内湾気味である。色調は全体的に灰黄色を呈し、やや焼成不良である。170は東播系須恵器の片口鉢である。内外面は回転ナデ調整であり、口縁部を上方に拡張する。171は東播系須恵器の片口鉢である。口縁部を上方に拡張し、やや浅めの片口をつける。色調は灰黄色から灰白色を呈し、やや焼成不良である。172は東播系須恵器の片口鉢である。口縁部でやや屈曲し、端部は直立する。また、下方を若干拡張させる。内外面とも回転ナデ調整である。173は東播系須恵器の片口鉢である。口縁端部は上方につまみあげ、下方を拡張させる。胎土には直径6mm以下の砂粒を含む。174は東播系須恵器の片口鉢であり、口縁部を上方へつまみあげる。内外面とも回転ナデ調整である。175は東播系須恵器の片口鉢である。底径は復原で9.2cmであり、底部は扁平である。内面は使用によるものと推定されるが、極めて平滑である。また、外面には不定方向のナデ調整が施される。176は東播系須恵器の片口鉢である。扁平な底部から体部が大きく直線的にのびる。体部内外面は回転ナデ調整である。底部外面には回転糸切り痕跡が認められる。色調はにぶい黄橙色からにぶい橙色を呈し、やや焼成不良である。177は東播系須恵器の片口鉢である。平らな底部から体部が外上方に直線的にのびる。腰部はやや丸みを帯びる。底部外面は粗いナデ調整を施すが、凹凸が顕著である。178は常滑焼の甕である。肩部は明瞭な稜を持ち屈曲する。外面はナデ調整を施し、肩部に格子状のスタンプ文を施す。また、自然釉などが付着する。内面は横方向のヘラケズリ調整である。179は瀬戸美濃系の瓶子である。肩部が大きく張り、口径の小さい口縁部が短く直立する。口唇部からやや下がった位置に突帯が1条巡る。釉調はオリーブ灰色を呈するが一部は浅黄色を呈し、ピンホールがみられることから二次焼成を受けたものと考えられる。肩部内面には指頭圧痕が明瞭に残存している。内面は口縁部から肩部に釉薬が認められる。180は瀬戸美濃系の徳利型瓶あるいは花瓶と推定される。なで肩から径の小さな頸部がのびる。肩部には櫛描きによる4条1単位の平行沈線文が施される。外面には透明感のある灰オリーブ色の釉薬が施され、内面には外面と同様の釉薬が垂れ下がる。内面はロクロナ

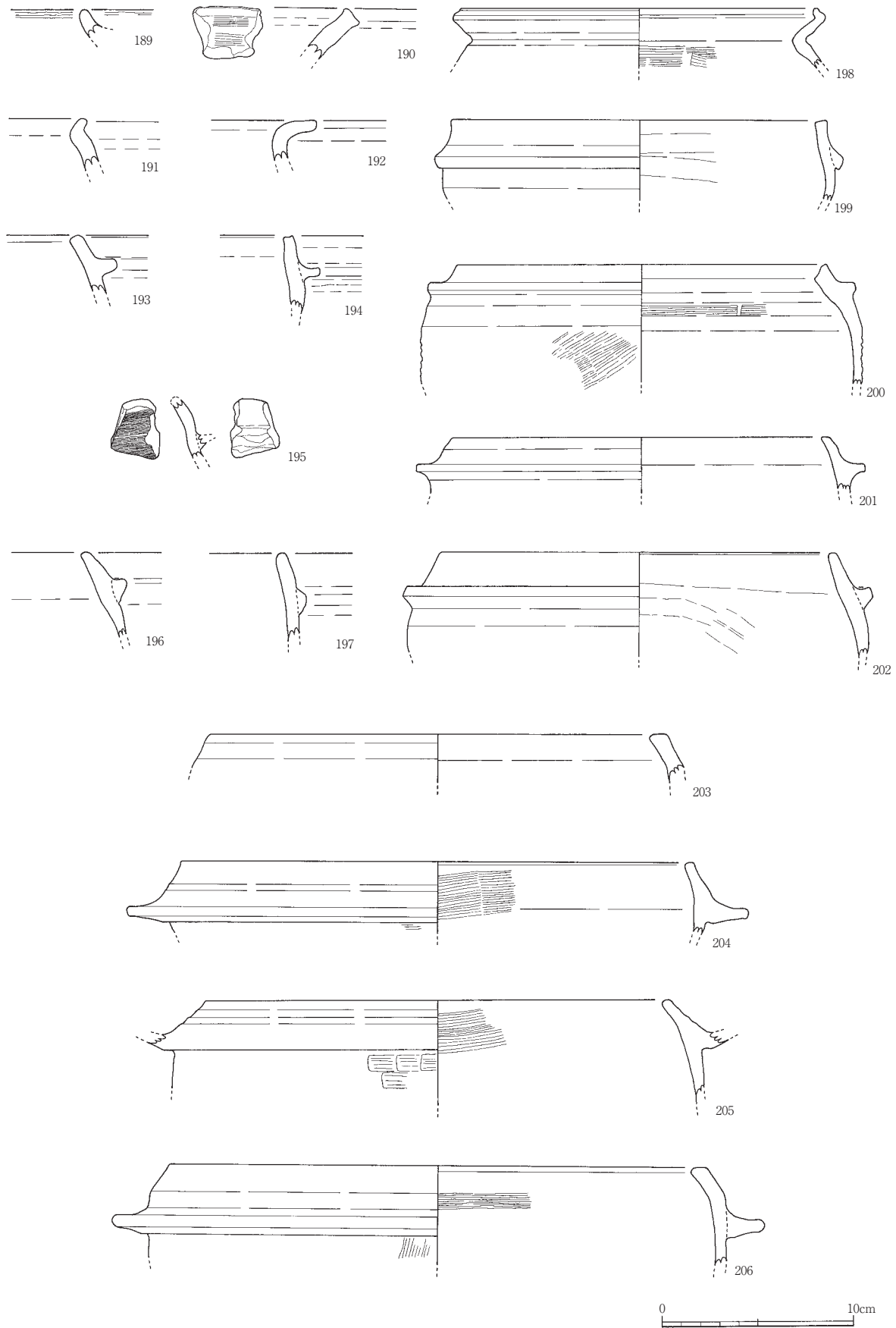


Fig.22 出土遺物実測図 (煮沸具)

デ調整である。182は瀬戸美濃系の瓶子であり、底部付近と推定される。内面はロクロナデ調整が施され、外面にはケズリ状の横方向の擦痕が認められる。外面の釉薬は灰白色を呈し、ピンホールがみられることから二次焼成を受けたものと考えられる。一方、内面の一部にオリブ灰色の釉薬が残存している。183は備前焼の播鉢である。内外面は回転ナデ調整を施し、体部は直線的にのびる。口縁端部を内上方に僅かにつまみあげる。184は備前焼の播鉢である。口縁部付近の破片であり、端部にいくにしたがい器壁が厚くなる。口縁端部内面に沈線状に1条巡る。内面には2条以上1単位の播り目を施す。185は備前焼の播鉢である。口縁部を上下に拡張する。186は備前焼の播鉢である。口唇部はやや尖り気味におさめる。内面には6条以上1単位の播り目を施す。胎土には砂粒をほとんど含まない。187は備前焼の播鉢である。口縁部を上方に大きく拡張し、口唇部は平坦面をなす。片口を有する。内外面は回転ナデ調整である。内面には7条1単位の播り目を施す。188は備前焼の壺である。口縁部は玉縁状に肥厚させる。内面に自然釉が付着する。190は土師器の甕である。口唇部をヨコナデにより上下に拡張する。内面はハケ調整、外面はナデ調整である。古代の所産である。191は土師質土器鍋である。口縁端部を屈曲させる。外面には煤が付着する。193、194は土師質土器の羽釜である。ともに器壁の薄い鍔がつく。193は外面に煤の付着が認められる。195は瓦

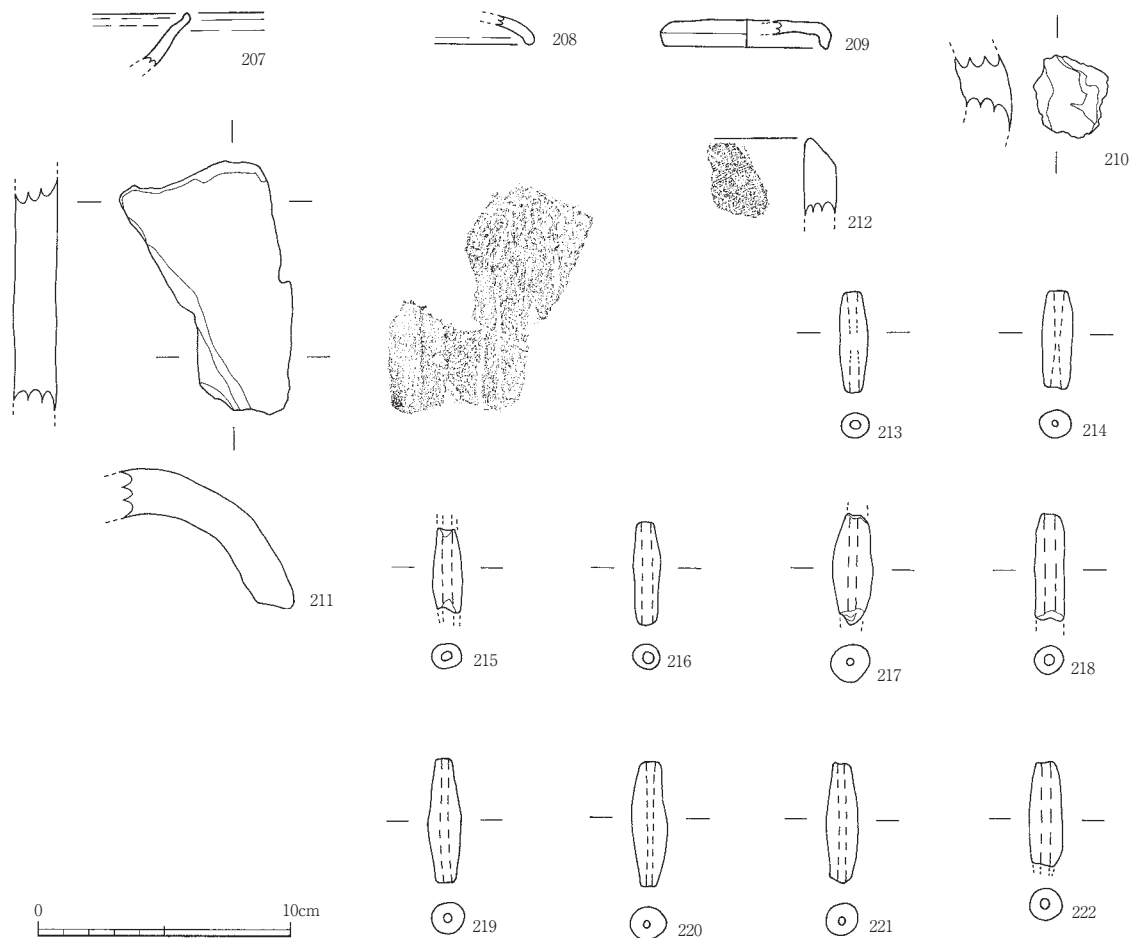


Fig.23 出土遺物実測図（土師器・須恵器・土製品）

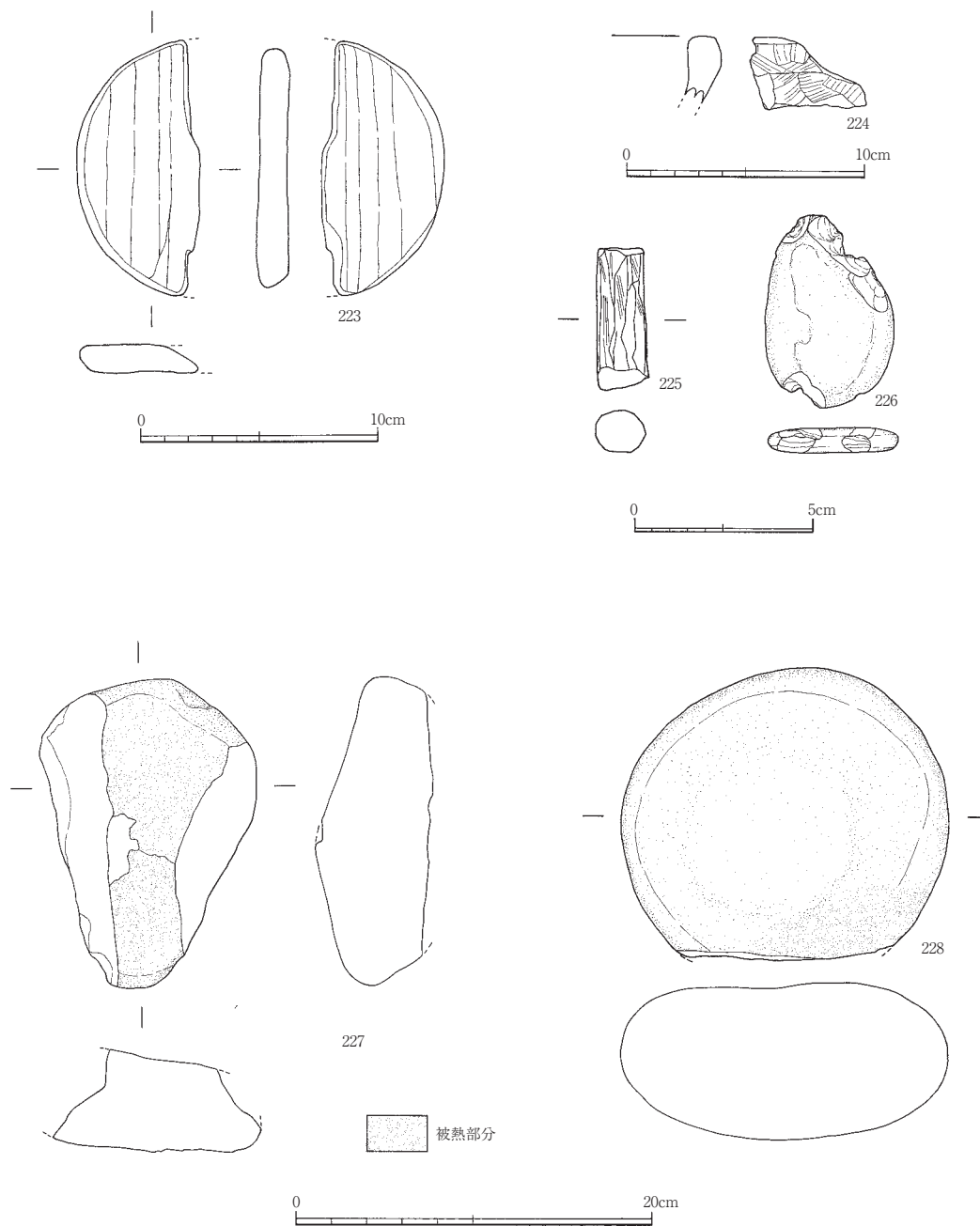


Fig.24 出土遺物実測図（木製品・石製品）

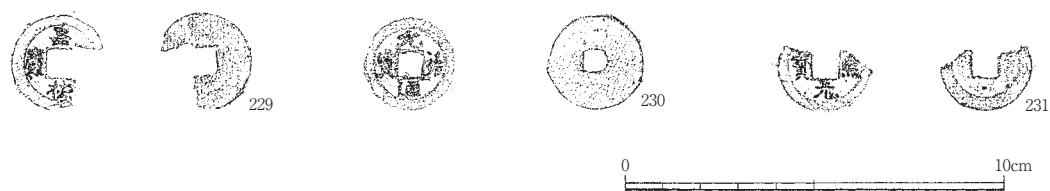


Fig.25 出土遺物拓影（古銭）

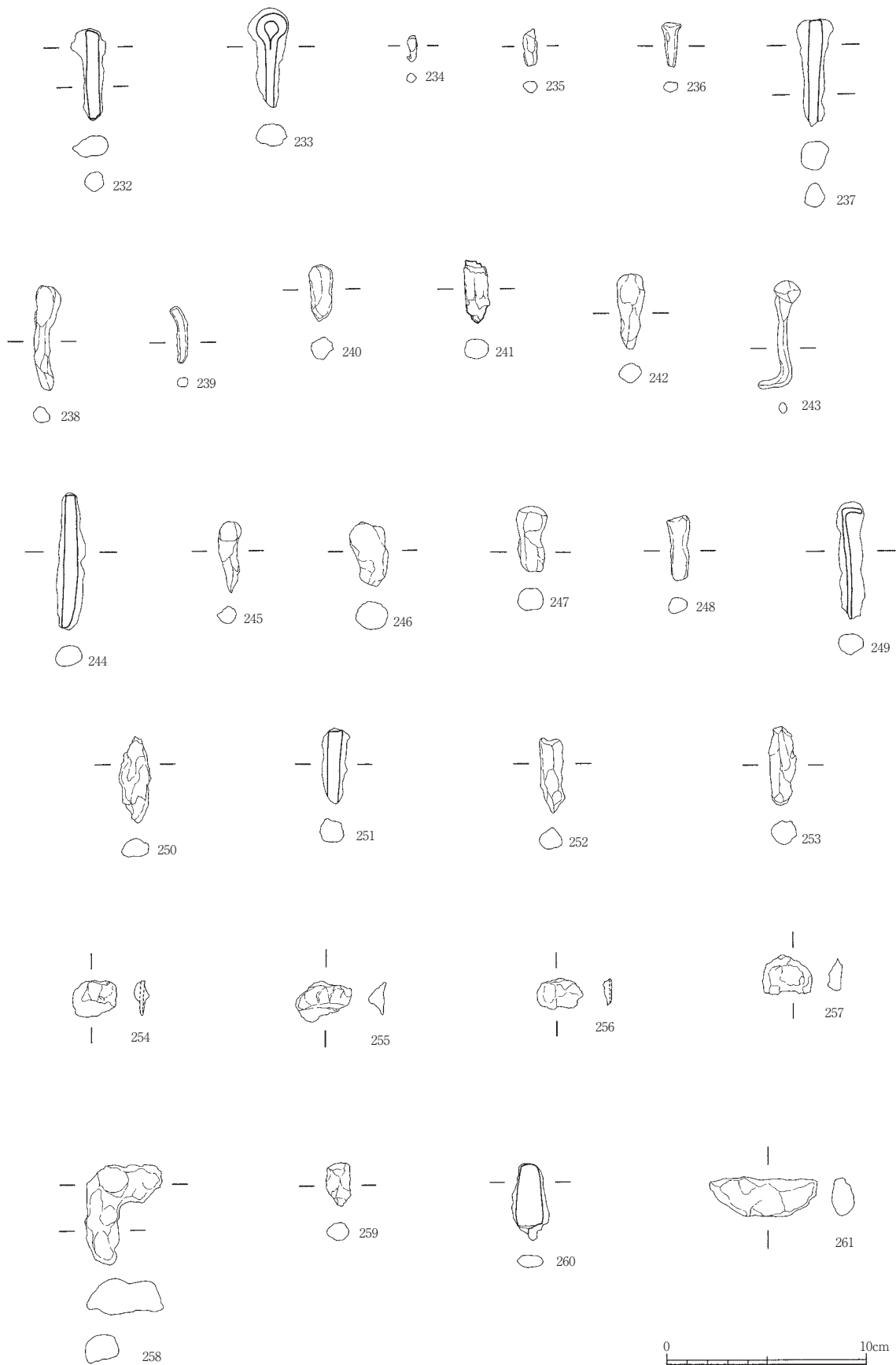


Fig.26 出土遺物実測図（鉄製品）

質土器の羽釜である。口縁部が弱い角度で内側に屈曲する。内面にはハケ目が認められる。196は土師質土器の羽釜である。断面形が直角三角形の鑊がつく。197は土師質土器の羽釜である。断面形がかまぼこ状のやや退化した鑊がつく。198は土師器の甕である。口縁部は「く」の字を呈し、端部をつまみあげる。口縁部はナデ調整を施し、頸部内面はハケ調整を施す。外面には煤が付着する。古代の所産である。200は土師質土器の鍋である。播磨型であり、体部外面には粗い叩き目が認められる。203から206は土師質土器の羽釜であり、河内型である。203、206は器壁が厚手であり、204、205は薄手である。206の口縁部はやや内径し、口唇部は面取りされる。端部の丸い鑊がつく。204の口縁部はやや内径し、口唇部は面取りされる。また、端部が面取りされた鑊がつく。内面はハケ調整を施し、口縁部外面はナデ調整を施す。体部外面にはケズリ調整を施す。207は土師器の皿と推定される小破片である。口縁部内面に一条の沈線が巡り、端部が屈曲する。古代の所産である。208はかなりの小破片であり、器種器形の認定にも不安があるが、ここでは土師器の蓋として図化した。209は須恵器の蓋である。扁平な天井部から口縁部が垂直に下がる。口唇部は内傾する面を持つ。調整は内外面とも回転ナデ調整と推定される。また、天井部に自然釉が付着する。212は製塩土器である。口唇部は尖らせる。内面には布目が認められる。213から222は土錘である。形態的には中央部が膨らむものとあまり膨らまないものがあり、大きさ的には二つのグループに分類できる。224は石鍋である。口縁部は体部に比べ器壁は厚い。外面には工具痕跡が認められる。また、残存部分では把手が認められない。225は不明の石製品である。両端が欠損しており、全体の形状は不明である。棒状を呈し、幅の狭い面取りがほぼ全周にわたり認められる。226は石錘である。扁平な楕円形の川原石の両端に抉りを入れる。229～231は古銭である。229・231は遺構出土ではあるが、埋納等の祭祀との関連は薄いと考えられる。232～255は鉄製品である。232～253は釘と考えられる。254～257は扁平な形状をしており、これらは同じ性格のものと推定される。

2. II-2区の調査成果

(1) 基本層序

調査区東壁で基本層序の観察を行った。北半部は遺構が検出されなかったため、確認調査で終了した。I層は灰色粘質土であり、II層はオリーブ灰色粘質土である。III層は2層に細分できるが、基本的には同一層と考えられる。上層(III a層)は灰オリーブ色粘質土であり、下層(III b層)は灰褐色粘質土である。III a・b層とも遺物を包含する。IV層は灰色粘質土であり、上面で遺構を検出できる。IV層上面は僅かではあるが、南から北にむけて標高が高くなる傾向が認められる。調査区中央付近を境に攪乱を受けていた。また、この付近を境に南北では堆積状況は異なる。南半部は、II-1区と基本的に一致する。一方、北半部は試掘トレンチ TP17~20と同様の堆積状況であった。

(2) 検出遺構と出土遺物

遺構は標高約19.8mで検出できた。基本層序の項でも述べたように調査区の北半部と南半部では土層の堆積状況が異なり、北半部においては遺構を検出することはできなかった。南半部で検出された遺構は柱穴が主体であり、密度も薄く、重複して検出したものは無かった。

P2003は調査区中央部東端で検出した。東半分を排水用のサブトレンチにより切られたため、遺物の検出状況は悪いが、土師質土器と瓦器が埋納されていた。瓦器の椀(270)に、土師質土器の杯(269)で蓋をし、さらに土師質土器の杯(268)をその上に重ねた状態で検出した。蓋と蓋の間、及び身の中には何も残っていなかった。土圧により破損していたが、本来は復原図のように埋納されていたと推定される。

出土遺物は、土師質土器の小皿(262~264)・杯(265~269)、瓦器の椀(270)である。小皿はロクロナデ調整であり、底部外面には回転糸切り痕跡が認められる。265から267の杯は、内外面ともロクロナデ調整を施す。外面にはロクロ目が比較的明瞭に残る。底部外面には回転糸切り痕跡が認められる。268は外面はやや摩耗しているものの、内外面ともロクロナデ調整である。内底面の縁に沿い櫛状工具により、ナデられ、同心円状に痕跡が残存する。269はやや器高が低い。内外面ともロクロナデ調整であり、底部外面には回転糸切り痕跡が認められる。内底面が剥離している。270は瓦器椀である。体部外面には指頭圧痕が認められ、口縁部はヨコナデ調整である。体部内面には暗文を円環状に施す。また、内底面には平行線状に暗文を施す。底部外面には中心よりややず

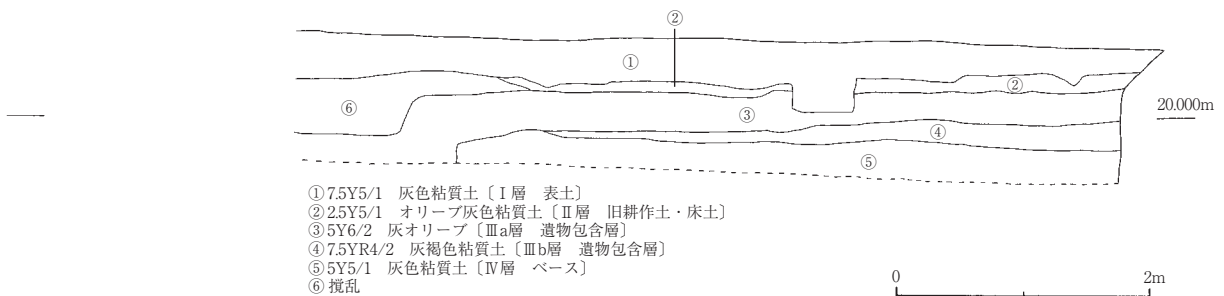


Fig.27 基本層序 (II-2区)

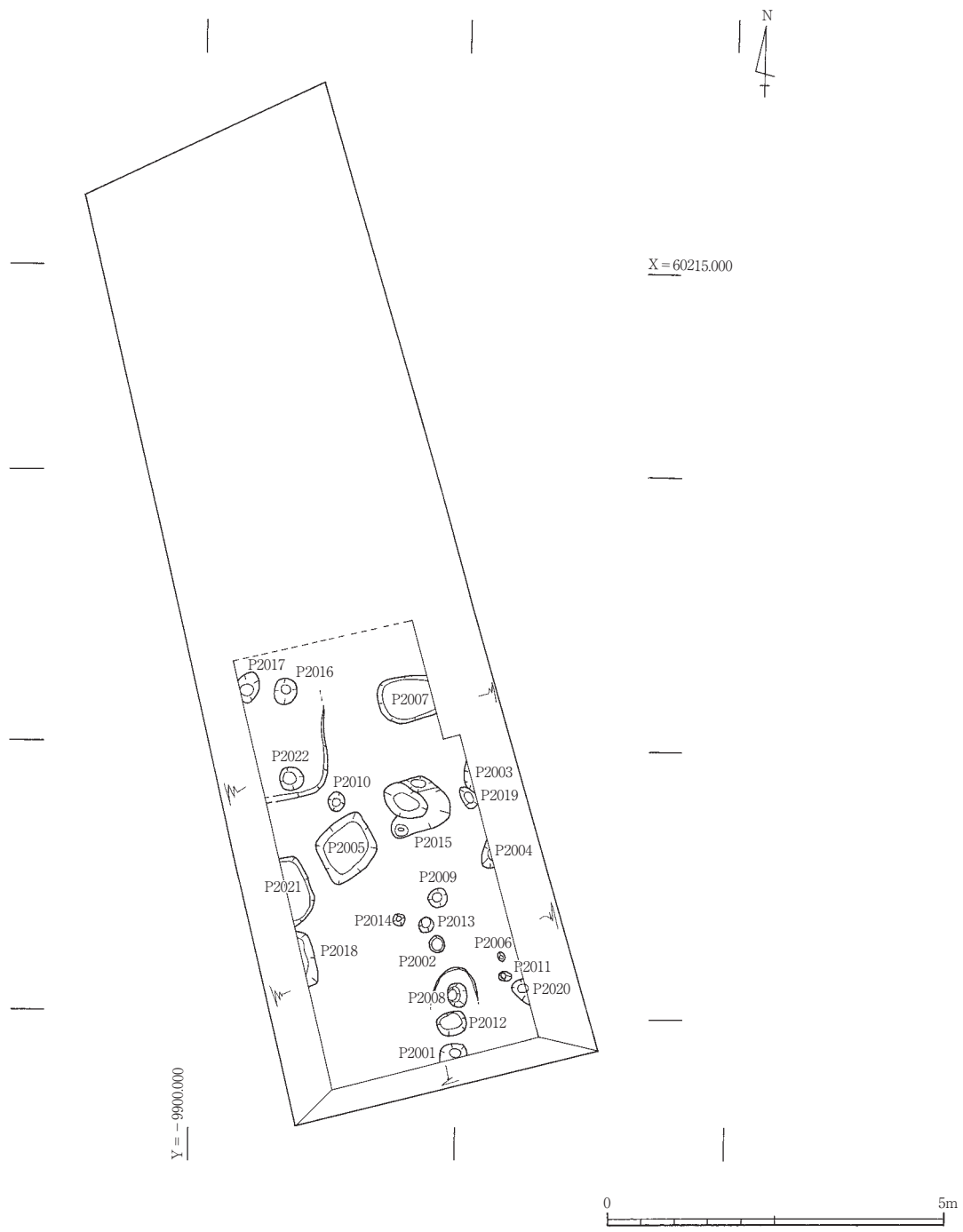


Fig.28 II-2区検出遺構配置図

れた位置に断面形が頂点が丸味を持った三角形の高台を貼り付けるが、全周せず、途中で途切れる。

P2016は調査区中央部西端で検出した。土師質土器の手捏ね皿が一括して廃棄されていた。

出土遺物は、土師質土器の小皿（271～273）・皿（274～287）・瓦器椀（288）が出土している。271は底部から口縁部が丸味を持ち、のびる。内外面ともナデ調整である。273はやや摩耗しているが、内外面ともロクロナデ調整である。また、底部外面には回転糸切り痕跡が認められる。274～287は手捏ねの皿である。口縁部をヨコナデ調整することにより、端部を僅かに外反させる。法量的にもあまり個体差はない。色調は摩耗の具合に影響されようが、橙色系と黄灰色系に大別できる。274はナデ調整の痕跡が明瞭に認められる。また、外面に剥離痕跡が認められる。275の内面にはナデ調整の痕跡が明瞭に認められる。276の胎土は他のものに比べやや粗い印象を受ける。277はやや摩耗している。外面に剥離痕跡が認められる。278の内面にはナデ調整の痕跡が明瞭に認められる。

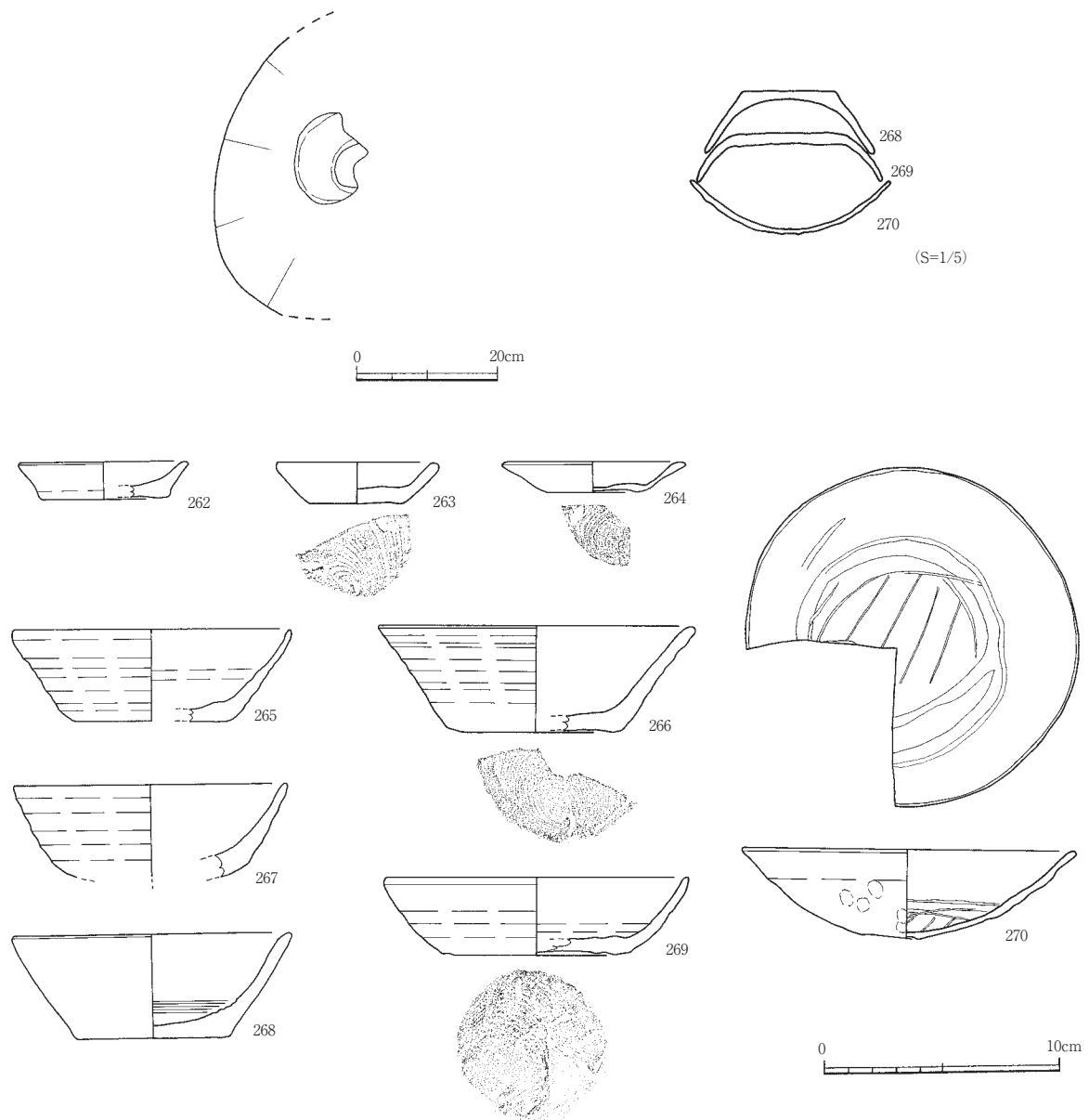


Fig.29 P2003 遺物出土状況・復元図・出土遺物実測図

外面には剥離痕跡が認められる。279の内面にはナデ調整の痕跡が明瞭に認められる。280の内面にはナデ調整の痕跡が明瞭に認められる。外面に黒斑が認められる。281の内面にはナデ調整の痕跡が明瞭に認められる。外面には剥離痕跡が認められる。283の外面には黒斑が認められる。284の内面にはナデ調整の痕跡が明瞭に認められる。外底面に施されたナデ調整は粗く、やや凹凸が認められる。286は内面にはナデ調整の痕跡が明瞭に認められる。外面には剥離痕跡が認められる。287は器高が低い。内面にはナデ調整の痕跡が明瞭に認められる。288は瓦器の椀である。底部外面には断面形が扁平な三角形の高台を貼り付ける。内外面とも炭素の吸着はまったく認められない。

301は試掘トレンチ TP19から出土した土師質土器の椀である。平高台であり、底部の切り離し手法は回転ヘラ切りである。本調査で出土している遺物よりやや古いものである。303は包含層か

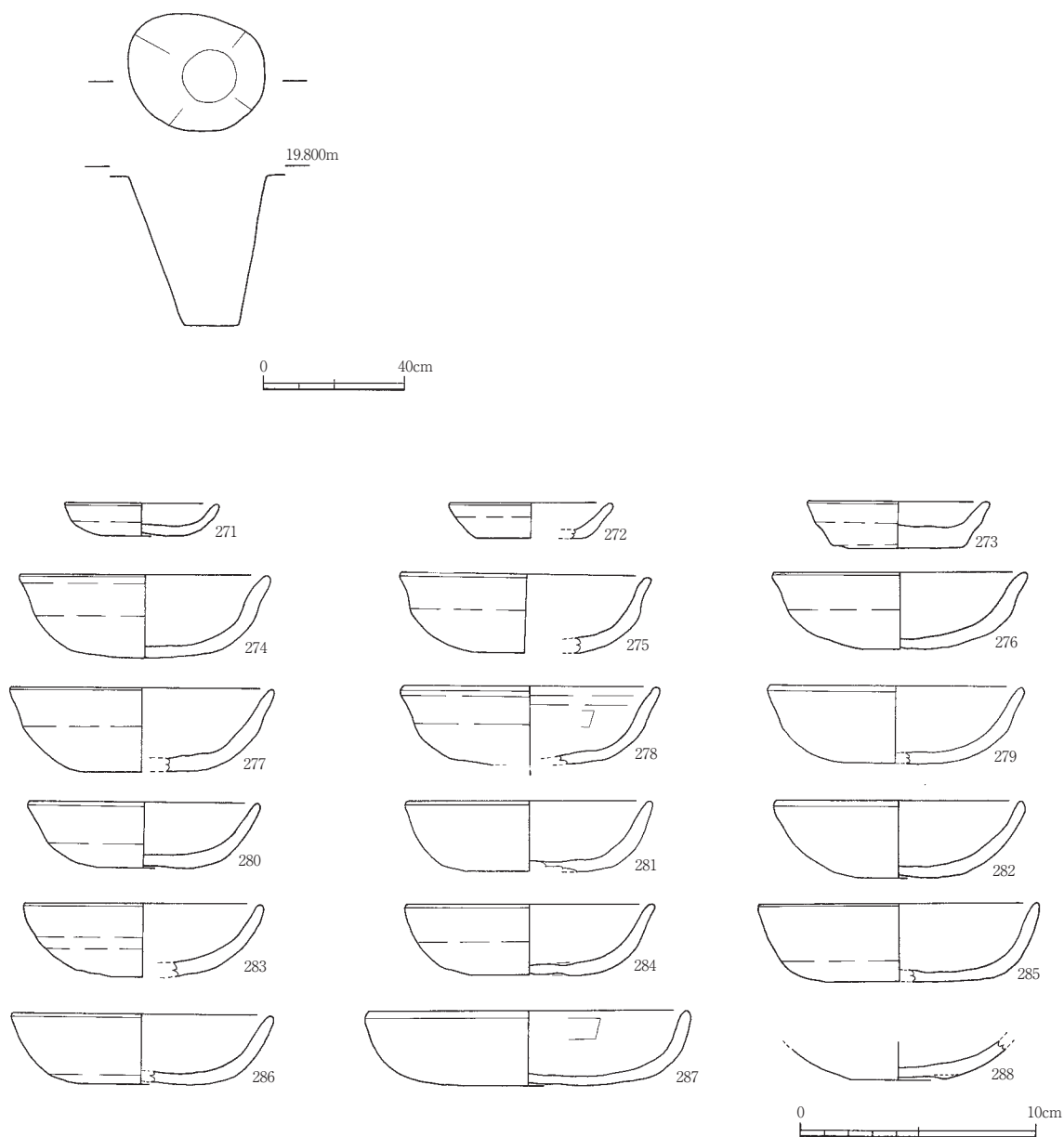


Fig.30 P2016 エレベーション図・出土遺物実測図

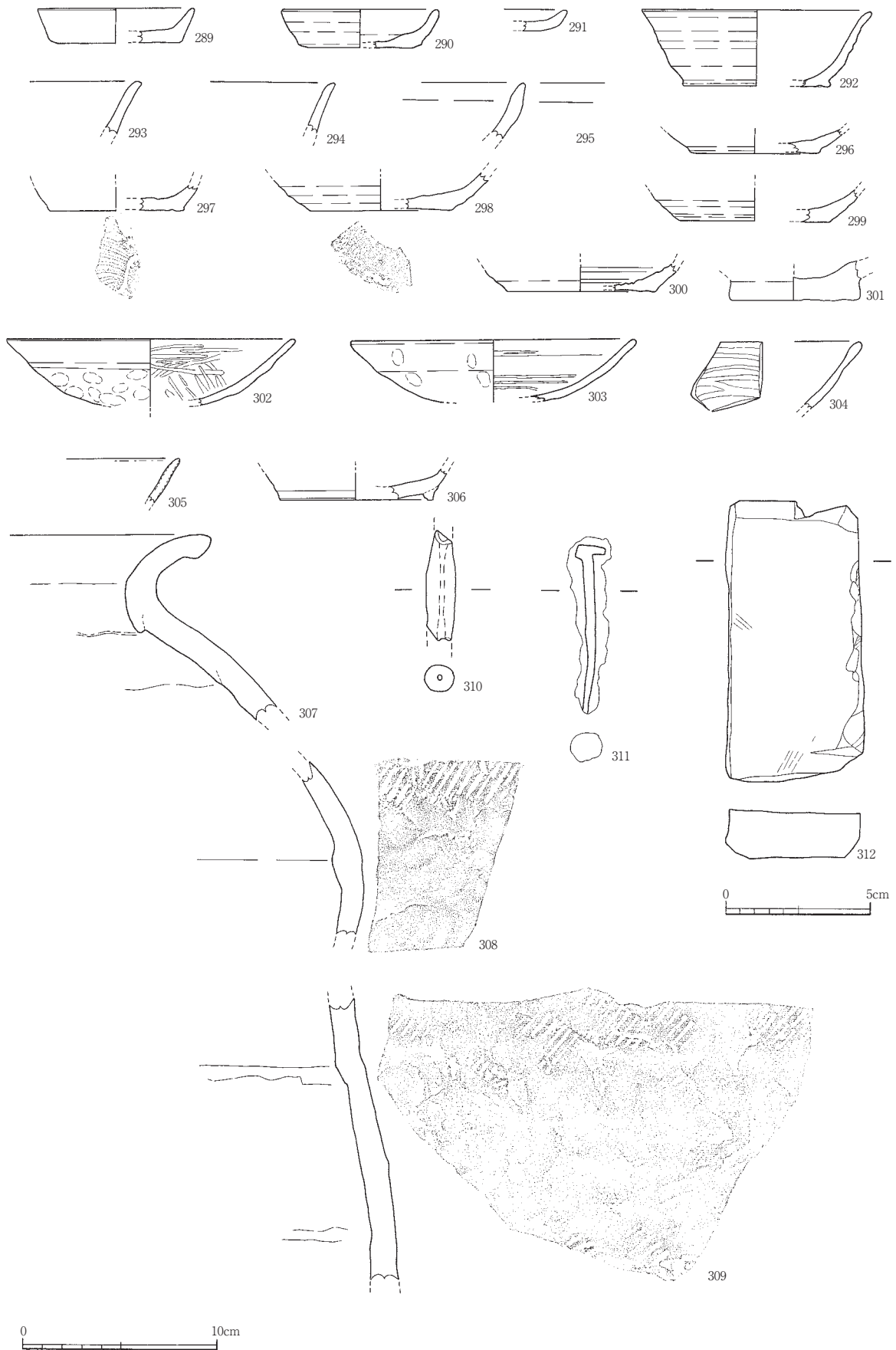


Fig.31 出土遺物実測図

ら出土した瓦器の椀である。内面には口縁部から残存部分まで暗文が施される。炭素の吸着はあまく、外面下半にはまったく認められない。307～309は須恵器の甕である。同一個体と考えられる。口縁部は水平近くまで大きく外反し、口唇部は尖らせる。内面には粘土帯接合痕跡が明瞭に残存する。外面はヨコナデ調整であり、粘土帯の幅の間隔で外面には叩き目が認められる。310はP2015から出土した土錘である。両端は欠損している。中央部がやや膨らむ形態を持つ。312は包含層から出土した砥石である。1面のみ砥石として使用されている。裏面は剥離後、軽く磨く程度であり凹凸が激しい。四周についても形を整える程度に磨いたものであり、磨きの痕跡が平行線状に残存している。

第V章 まとめ

(1) 検出遺構について

調査面積は狭いもののピットを中心に多くの遺構を検出した。遺構の切り合い関係も認められることから数時期の遺構群として本来は捉えなければならないが、出土遺物から峻別することは困難である。多数の柱穴を検出していることや同一の軸方向をとると判断できるピットの存在から複数の掘立柱建物跡が存在していることは確実であるが、調査区の制約から掘立柱建物跡等に復原することはできなかつた。また、I-2区南端部ではピットを数基確認できたのみであり、遺構の分布状況には明らかに粗密がある。

次に溝跡についてみていきたい。SD1とSD3の心々間の距離は約54mであり、半町に該当する。両溝跡とも幅、深さとも規模は小さい。東西の範囲は限定できないが、両溝に挟まれた範囲（I-1区北半部～I-2区）は一つの屋敷地であった可能性が指摘できる。このように考えると上述の遺構分布の粗密に意味を見いだすことができる。屋敷地内を具体的に復元できるだけの資料を得ることはできなかつたが、当時の土地利用の一端を把握できた意義は大きい。SD5は検出長は短い、断面形は逆台形状を呈し、規模は比較的大きい。この溝も屋敷地を区画するものと推定されるが、対応する溝跡は検出していない。

(2) 出土遺物について

① 出土遺物の傾向

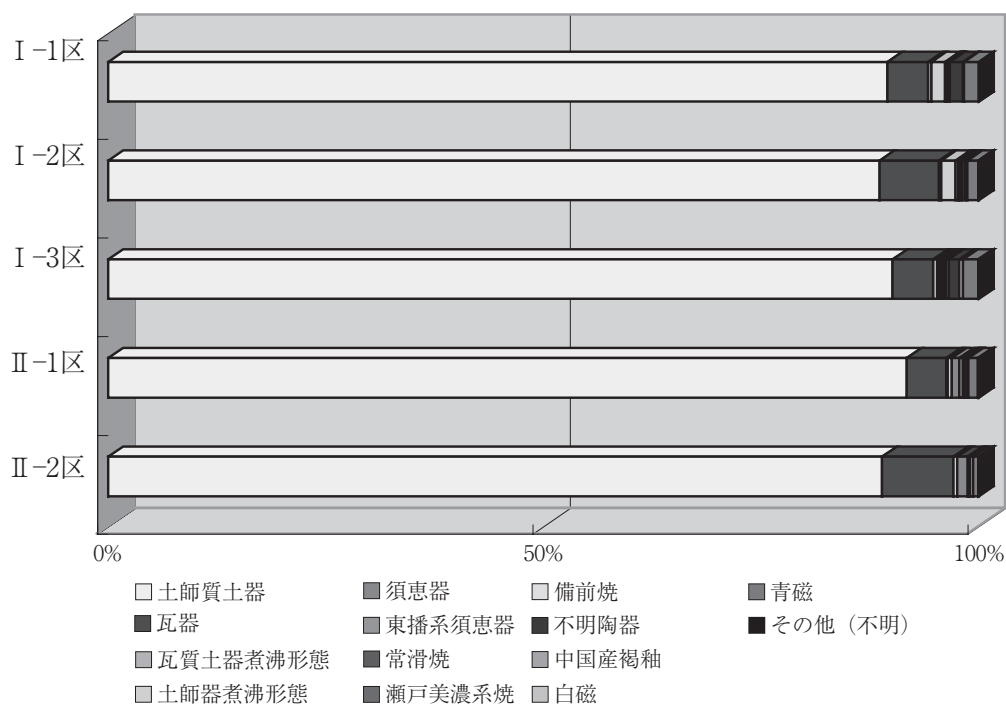
重複を避けるためここでは個々の遺物について詳しくは述べず、全体を通した出土遺物の概要について触れていくことにする。出土遺物から千本杉遺跡の存続期間は古代末から近世であるが、出土遺物量のピークは13世紀代になるものと推定される。出土遺物の組成比率はTab 1・グラフ1・2の通りである¹⁾。各調査区とも90%前後の割合を土師質土器が占める。そのために他の器種の傾向については把握しにくい。そこで、土師質土器を除外したグラフもあわせて提示しておきたい。土師質土器を除外したものでは、瓦器の占める割合が最も大きいことは各調査区とおして共通している。しかし、割合にはばらつきが認められ最大はII-2区で74%、最小はI-1区で44%である。次

Tab. 1 出土遺物組成比率

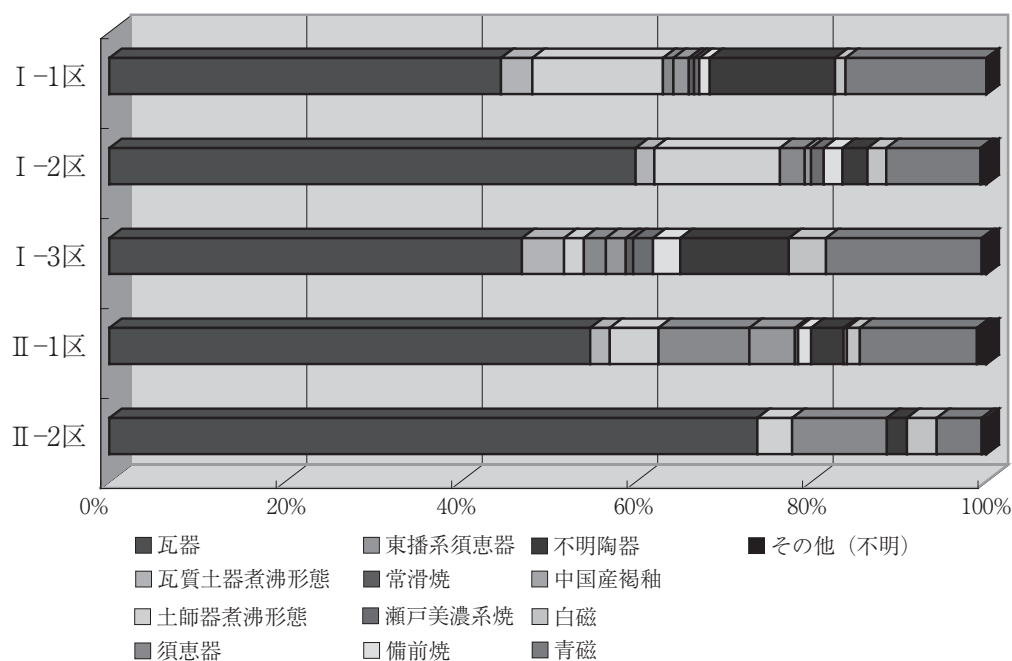
調査区	土師質土器	瓦器	瓦質土器煮沸形態	土師器煮沸形態	須恵器	東播系須恵器	常滑焼
I-1区	1431	75	6	25	2	3	1
I-2区	1088	84	3	20	4	1	0
I-3区	3234	167	17	8	9	8	3
II-1区	2997	148	6	15	28	14	1
II-2区	1410	130	0	7	19	0	0
調査区	瀬戸美濃系焼	備前焼	不明陶器	中国産褐釉	白磁	青磁	その他(不明)
I-1区	1	2	24	0	2	27	0
I-2区	2	3	4	0	3	15	1
I-3区	8	11	44	0	15	63	2
II-1区	0	4	10	1	4	36	3
II-2区	0	0	4	0	6	9	1

(点)

いで大きい割合を示すものは青磁である。I-1からII-1区では11～18%を占めるが、II-2区では5%にとどまる。次に煮沸形態についてみてみたい。I-1区では19%である。I-2区では14%、I-3区では7%、II-1区では8%、II-2区では4%である。I-1区及びI-2区に比較的大きい傾向が認められる。



グラフ1 調査区別組成比率 1



グラフ2 調査区別組成比率 2

② (スサ入り) 粘土塊とスラグについて

遺構、及び包含層から、スサ入り粘土塊及びスラグが出土している。スサ入り粘土塊は堅く焼きしまっているものもあれば、非常に脆弱なものまであり、その大きさも大小様々なものがある。形態についても、円盤状を呈するもの、球状を呈するもの等がある。I-2区からI-3区にかけて、やや集中して分布する傾向がある。

一方、スラグは遺構・包含層から69点が出土しており、総重量は1,023.9gである。スサ入り粘土塊同様、I-2区からI-3区にかけて、やや集中して分布する傾向がある。

(スサ入り) 粘土塊とスラグはともに鍛冶関連の遺物と考えられ、遺構としては明確に検出できなかったものの、調査区周辺で鍛冶を行っていたことが推定される。スラグの金属学的な分析では精錬鍛冶工程で派生したものと推測されている(付編2を参照。)。SK27は埋土に炭化物を多量に含んでおり、鍛冶に関連する可能性がある。

③ II-2区 P2016出土の手づくね土器について

P2016から出土した手づくね土器は12個体分である²⁾。土器の発色は橙色を呈するものと黒褐色を呈するものに大別でき、前者は3個体分であり後者は9個体分である。さて、県下において手づくね土器が出土する遺跡は国衙跡など限定されており³⁾、当遺跡、つまり小村神社と国衙との密接な関連を指摘することができよう。

(3) まとめにかえて

千本杉遺跡は仁淀川と日下川が合流する地点に位置しており、流通を考える上で重要な地点に立地していたと考えられる。また、土佐二ノ宮である小村神社に関連するものと推定される。寺社施設に関連する遺跡の様相を示していると考えられ、集落遺跡の様相と比較検討していくなかでそれぞれの特徴を抽出していく必要がある。

また、第二章でも触れられているように小村神社に棟札が所蔵されており、岡本健児氏により検討が加えられている⁴⁾。仁治元年(1240年)の棟札は今次出土遺物のピークと重なり、興味深い。

註

- 1) 製塩土器、古銭、土製品、木製品、石製品、鉄製品、瓦、スラグ、スサ入り粘土塊、近世以降の遺物は除外した。また、遺物のカウントは、1cm平方以上の破片を目安にカウントした。組成比率は時期を限定したものではなくすべての時期のものを含んでいる。
- 2) 口縁部残存部分でカウントし、1/8を1単位とした。つまり、全周残存していれば8/8である。また、1/8に満たない口縁部片については1/8でカウントした。
- 3) 池澤俊幸 2003 「四国」『中世土器研究の今日的課題－土器編年と中世史研究－』日本中世土器研究会
- 4) 岡本健児 2000 「小村神社の仁治・貞和の棟札」『伊野史談第50号』伊野史談会

スサ入り粘土塊一覧表

調査区	遺構・層位	個数	重量 (g)	備考	調査区	遺構・層位	個数	重量 (g)	備考
I-1区	検出面	2	14.3		I-3区	SD4上層	1	33.0	
I-1区	サブトレ	2	7.6		I-3区	検出面	4	42.7	
I-1区	SK16	1	6.5		I-3区	SD4サブトレP	2	22.8	
I-1区	P53	1	6.8		I-3区	Ⅲ層	2	14.5	
I-1区	SK16	1	9.6		I-3区	SK31	1	5.1	
I-1区	SX1	2	10.0		I-3区	P178	1	9.9	
I-1区	P49	1	1.6		I-3区	P142	1	14.9	
I-2区	P236	4	17.5		I-3区	Ⅲ層	3	38.6	
I-2区	P112	1	4.0		I-3区	P199	1	7.3	
I-2区	SK27	6	54.2		I-3区	P178	2	10.1	
I-2区	P84	3	20.7		I-3区	P200	1	3.0	
I-2区	P84	2	14.1		I-3区	P208	2	7.9	
I-2区	P235	1	8.3		I-3区	包含層	1	5.2	
I-2区	P228	1	11.8		I-3区	P153	1	5.8	
I-3区	P170	1	9.2		Ⅱ-1区	Ⅲ-4層	1	6.8	
I-3区	SK29	1	4.7		Ⅱ-1区	P13	1	15.1	
I-3区	SK29	1	13.8		合 計		56	457.4	

スラガー一覧表

調査区	遺構・層位	個数	重量 (g)	備考	調査区	遺構・層位	個数	重量 (g)	備考
I-1区	SK16	1	16.1		I-3区	P205	1	4.2	
I-1区	P31	1	9.4		I-3区	検出面	3	95.6	
I-1区	SD2	8	15.4		I-3区	P159	1	5.7	
I-1区	検出面	1	24.4		I-3区	SK29	1	2.2	
I-2区	P110	1	96.2		I-3区	Ⅲ層(下層)	2	31.7	
I-2区	SX2	1	3.3		I-3区	SD4	13	45.0	
I-2区	P126	1	2.2		I-3区	サブトレ	2	25.8	
I-2区	P126	1	7.7		I-3区	P217	1	12.6	
I-3区	Ⅲ層・検出面	3	30.9		I-3区	Ⅲ層(上層)	1	11.7	
I-3区	SD4	1	13.0		Ⅱ-1区	P52	1	13.4	
I-3区	P191	1	4.2		Ⅱ-1区	Ⅲ層	1	6.7	
I-3区	Ⅲ層(上層)	2	8.6		I-1区	P40	1	35.0	
I-3区	Ⅲ層	13	49.6		I-2区	検出面	1	86.4	
I-3区	P183	1	7.9		I-3区	サブトレ	1	82.9	
I-3区	P215	1	40.3		Ⅱ-2区	Ⅲ層	1	188.7	
I-3区	P140	1	47.1		合 計		69	1,023.9	

付 編

付編1 千本杉遺跡（高知県日高村）調査区 I - 3 区の珪藻分析

岩井雅夫（高知大学理学部自然環境科学科）

Diatom analysis at the I-3 trench of the Senbonsugi site, Hidaka Village, Kochi Prefecture, Japan.

Masao IWAI

Department of Natural Environmental Science, Kochi University

1. はじめに

珪藻は珪酸質の被殻を有する単細胞の原生生物で、海水・淡水の水域はもとより、湿り気のある土壌・岩石・コケなどの表面にも生息し、分布範囲が広い（たとえば小杉、1986；伊藤・堀内、1991；Johansen, 1999）。他方各々の種群は、塩分・pH・流水性などの環境因子の変化に対して敏感で、それぞれ特有の嗜好性・耐性を有していることから、古環境解析の道具として利用が工夫されてきた（たとえば小杉ほか、1989）。小杉（1986）は“陸生珪藻”が遺構形成時の乾湿状態検討に有効であることを指摘し、伊藤・堀内（1991）は乾湿環境解析の精度向上を目指して、土壌表層や基質・湿潤度の異なるコケの珪藻分析から、耐乾性の強い種群とそれに準ずる種群を識別した。一般にこれら種群は気生種（aerial species）として水生種（aquatic species）から区別されている（Johansen, 1999）。堆積場の復元や古環境の評価は、遺跡を形成した時代の自然環境科学的背景の理解を助けると期待され、遺跡の出現・消滅のヒントを与える可能性を秘めている。また堆積場の復元は遺物出土の妥当性を評価、信頼性を高める上で重要な自然科学的情報であることも、上高森遺跡ねつ造事件を契機にあらためて指摘されている（大村、2002）。しかし、高知県下の遺跡において珪藻分析が実施された例はこれまで数が限られてきた（パリノ・サーヴェイ株式会社、2000、2001a、b、c）。

仁淀川と日下川が合流する日高村周辺には、弥生・中世の遺跡が多数発見されており、古くから交易の要所として栄えてきたことが知られている。県道改良工事に伴う緊急発掘調査により見いだされた千本杉遺跡（図1）は土佐二ノ宮である小村神社に隣接することから、その関連性に興味注がれ調査がすすめられている（平成14年度千本杉遺跡埋蔵文化財発掘調査記者発表・現地説明会資料など）。千本杉遺跡の調査は、調査区 I - 1 区から I - 3 区および II - 1 区に区分され調査が進められてきたが（図1 - C）、今回調査区 I - 3 区（図2）において珪藻分析を行う機会を得たので以下その実施結果を報告する。

2. 千本木遺跡周辺の地形・地質

千本杉遺跡は仁淀川と日下川が合流する結節点の沖積段丘上に立地し、現在は主に水田として利用されてきた（図1）。日下川河床から調査区地表面までは約4 mあり、調査域地表面は緩く南に傾斜している。

四国地方の中・古生界は東西性の帯状構造をなしているが、本調査地域は秩父累帯に属する。秩

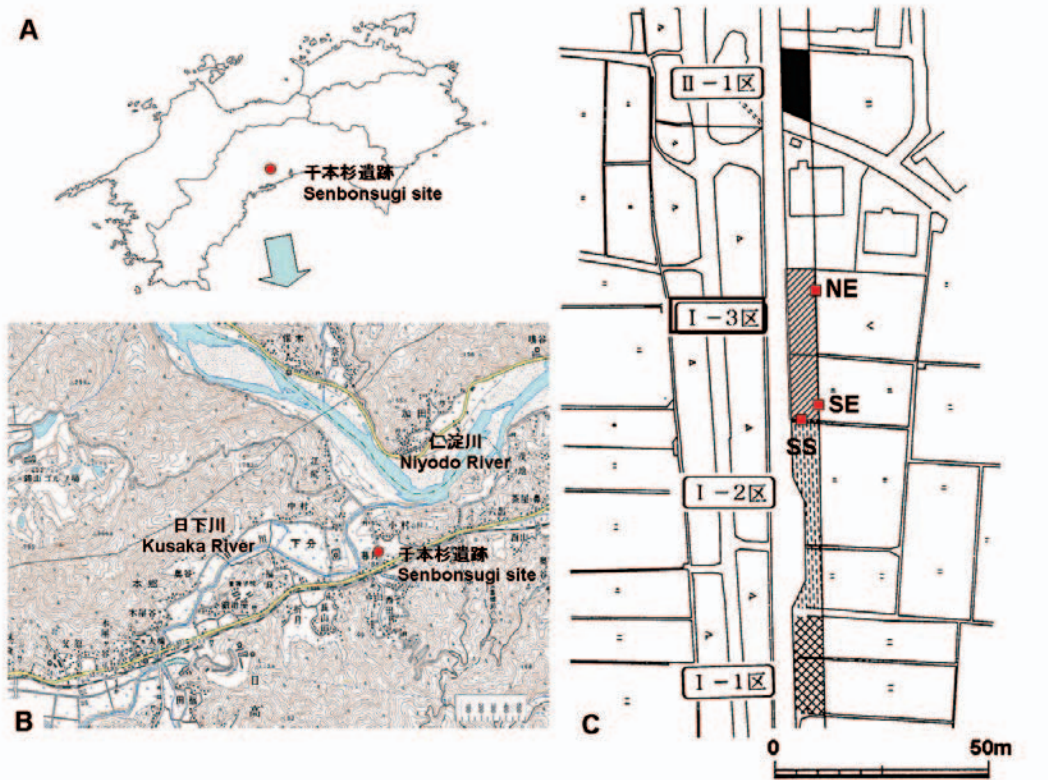
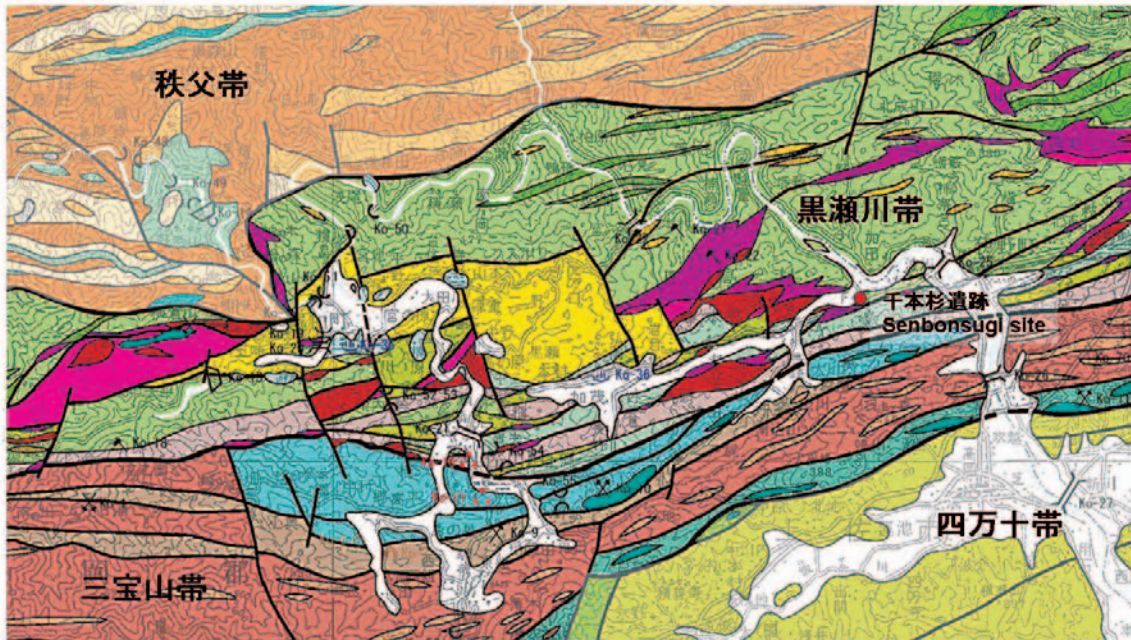


図1 (A) 千本杉遺跡位置図、(B) 遺跡周辺地形図、(C) 調査区と試料採取地点
 Fig.1 (A) Location of the Senbonsugi site, (B) Topographic map around the Senbonsugi site, (C) trenches and sampling sites



図2 調査区 I-3区
 Fig.2 I-3trench

地質図



地質図凡例

図3 千本杉遺跡周辺の地質図 (四国地方土木地質図編纂委員会、1998から抜粋し一部修正加筆)
Fig.3 Geological map around the Senbonsugi site

父累帯は北帯（秩父帯）・中帯（黒瀬川帯）・南帯（三宝山帯）に細分され、千本杉遺跡は中帯（黒瀬川帯）の南端に位置している（図3）。黒瀬川帯の特徴である蛇紋岩が遺跡周辺で露出し、日下川源流は三宝山帯に至る（四国地方土木地質図編纂委員会、1998）。

3. 調査地点の層序

千本木遺跡調査区 I-3 区の岩相層序は、最上位の I 層から最下位の IV 層に区分されている（図4）。岩相ならびに、壁面スケッチから読みとれる層序関係は以下の通りである。

本調査区の最下位層 IV 層は明黄褐色粘質土（粘土質シルト）からなり、遺構を構成する基盤層を形成する。基盤層 IV 層は、黄灰色～灰黄褐色～明黄褐色の粘質土で土器片・炭化物を含む III 層により埋谷・被覆される。遺構は深さ 15～30cm 以上、被覆層厚は一般に 5-20cm である。III 層は 2 ないし 3 層に細分可能となっている。II 層は青灰色～灰色粘質土で、耕作土の下位に形成される床土と認定されている。0～20cm と層厚変化し、側方にせん滅する。東壁セクションの中央部では III 層を削剥し IV 面を直接被覆している。最上位の I 層は暗灰黄色～灰色粘質土の耕作土であり、I-3 区の北側で 40～50cm と厚く、南では 10-20cm と薄くなっている。今日、北側は畑作、南側は稲作（休耕田）地区として利用されている。

4. 試料ならびに珪藻分析法

2003年3月、整形・調査が終了し埋め戻し作業直前であった調査区 I - 3 区（図2）の東壁および南壁より各々 2 地点、計 4 地点を選び試料を採取した（図4）。異層準土壌の汚染が生じないように壁面の表土を削りとったうえで、およそ 1 cm 角の立方体状に試料を切り出した（図5）。各層から 1 試料以上採取されるよう注意し、5～15cm 間隔で採取を行った。耕作土（I 層）、床土（II 層）、遺物包含層・遺構埋土（III 層）、基盤層（IV 層）から合計 29 試料を採取し珪藻化石分析に供した（図5）。

実験室に持ち帰った試料は、60℃の恒温乾燥器で一昼夜乾燥させ、約 50mg を秤量した。秤量試料は約 15% の過酸化水素水を加え湯煎し、有機物の除去を行った。反応終了後イオン交換水を加え一昼夜放置、上澄みを交換した。2 時間おきの上澄み交換を繰り返し粘土分の除去を行ったのち、適量に希釈した懸濁液 1ml をマイクロピペットで計りとり、18×18mm のカバーガラスに散布、40℃ のホットプレート上で乾燥、プルーラックス（製品名：マウントメディア、和光製薬）で封入した。

珪藻の観察にはノルマルスキー微分干渉装置付きの透過顕微鏡を用い、予察検鏡後、対物レンズ：100倍・接眼レンズ10倍（視野数26.5）の条件下、珪藻殻数が100を超えるまで（可能な限り）任意の測線上で同定を繰り返した。珪藻殻のカウント法は Schrader and Gersonde (1976) に従った。対物レンズ40倍で3測線以上検鏡しても珪藻殻を全く確認できなかった場合、不産出（Barren）と認定した。珪藻の保存度については Winter and Iwai (2002) に準じて、poor (p), moderate (m), good (g) の3段階で記録した。

同定に際しては Krammer and Lange-Bertalot (1986, 1988, 1991a, b) を主に用い、Negora and Higashino (1986)、伊藤良永・堀内誠示 (1991) 等も参照した。

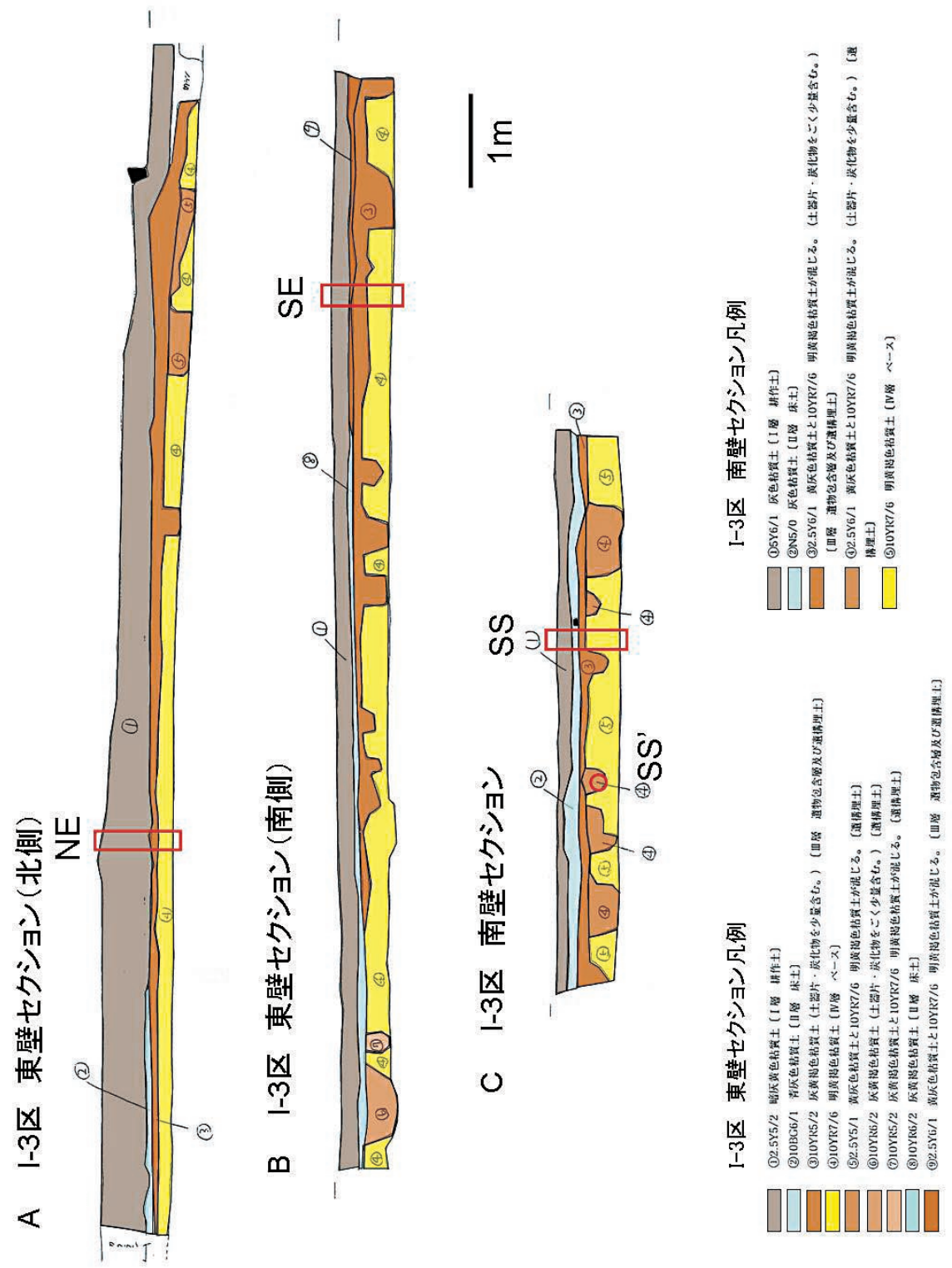


図4 I-3区壁面スケッチと試料採取地点
 Fig.4 Sketch of the walls of the 1-3 trench and sampling section (NE, SE, SS, and SS').
 A:northern part of the east wall, B:southern part of the east wall, C:the south wall.

5. 分析結果

珪藻分析を行った29試料中、珪藻殻数100個体以上を計数可能であった試料は8試料を数えたが、いずれも耕作土（Ⅰ層）または床土（Ⅱ層）に限られ、千本杉遺跡の基盤層（Ⅳ層）や遺物包含層・遺構埋土（Ⅲ層）からはわずかな痕跡を認めたにとどまった（図6、表1）。検出・同定された珪藻は *Achnanthes* 属、*Amphora* 属、*Bacillaria* 属、*Cocconeis* 属、*Cymbella* 属、*Eunotia* 属、*Fragilaria* 属、*Frustria* 属、*Gomphonema* 属、*Gyrosigma* 属、*Hantzschia* 属、*Melosira* 属、*Navicula* 属、*Nitzschia* 属、*Pinnularia* 属、*Rhopalodia* 属、*Stauroneis* 属、*Synedra* 属を含む18属55種群にのぼった。

NE セクション

地表から45cmまでは耕作土（Ⅰ層）で、耕作土の下位には5cmの遺物包含層（Ⅲ層）を挟んで遺構構成基盤層（Ⅵ層）となる。本地点では床土（Ⅱ層）が欠落する。Ⅰ層から4試料、Ⅲ層から1試料、Ⅳ層からは3試料を採取し珪藻分析を行った。

Ⅰ層の4試料から珪藻遺骸の有意な産出を認めた。NE-1では“陸生珪藻”（小杉、1986）の *Amphora montana* が卓越、付随種としては耐乾性を有する種々“陸生珪藻”（*Hantzschia amphioxys*, *Navicula atomus*, *N. contenta*, *N. aff. minima*, *N. exelsa* など）のほか、*Nitzschia palea* が認められた。“陸生珪藻”の比率は50%を超えた。NE-3、-4では *Navicula elegendensis* s.l. が卓越し、*Nitzschia palea* や *Navicula* 属（*N. pupula*, *N. cryptocephala* など）が付随する。“陸生珪藻”も13.7%（NE-3）～17.1%（NE-4）含まれる。NE-2では3個体のみを検出であるが、乾燥に強い *Pinnularia subcapitata* & *P. obscura* であった。

SE セクション

地表から20cmまでは耕作土（Ⅰ層）で、耕作土の下位では2層（層厚5cmならびに16cm）の遺物包含層（Ⅲ層）が遺構構成基盤層（Ⅵ層）を覆っている。床土（Ⅱ層）はNEセクション同様欠落する。Ⅰ層から2試料、Ⅲ層から5試料、Ⅳ層から3試料を採取し珪藻分析を行った。

Ⅰ層の2試料（SE-1および-2）のみから珪藻遺骸の有意な産出を認めた。Ⅲ層の4試料（SE-3から-7）においても羽状目（Pennate）の珪藻遺骸片を検出したが、いずれも同定不能な破片のみの産出であった。Ⅳ層のSE-10より *Hantzschia amphioxys* を1個体検出したが、再現性が保証される産出ではない。

Ⅰ層の2試料では *Navicula elegendensis* s.l. が卓越し、*Navicula cryptocephala* グループや *Navicula palea* が付随する。

SS セクション

耕作土（Ⅰ層）は地表から14cmまでと最も薄い。10cmの床土（Ⅱ層）が耕作土の下に形成されている。床土と遺構構成基盤層（Ⅵ層）の間には、5cmの遺物包含層（Ⅲ層）が挟在する。Ⅰ層から2試料、Ⅱ層から2試料、Ⅲ層から1試料、基盤のⅣ層からは5試料を採取し珪藻分析を行った。Ⅰ層、Ⅱ層の4試料から有意な産出を認めた。Ⅲ層（SS-5）、Ⅳ層（SS-6）からも *Nitzschia* 属や *Stauroneis* 属

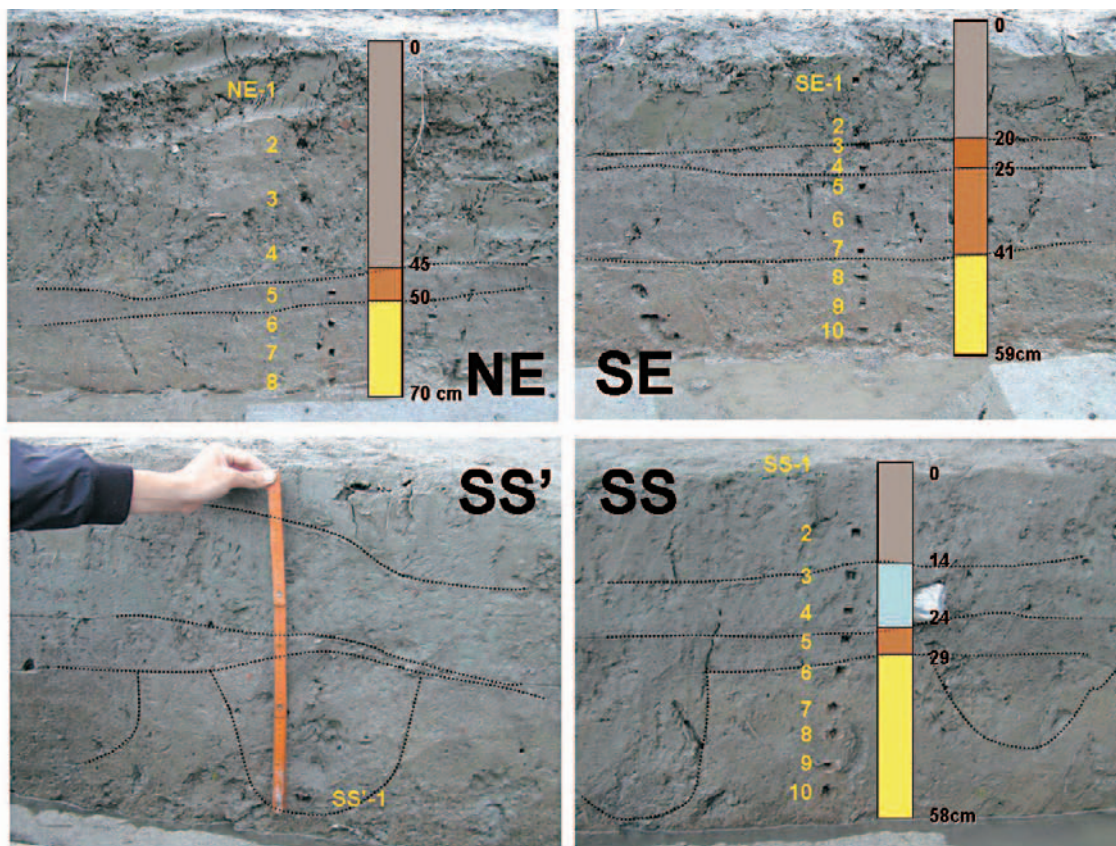


図5 試料採取層準. 柱状図の凡例は図4に同じ.
 Fig.5 Sampling points at the sections NE, SE, SS, and SS'.
 Legend for columnar sections is same as fig.4.

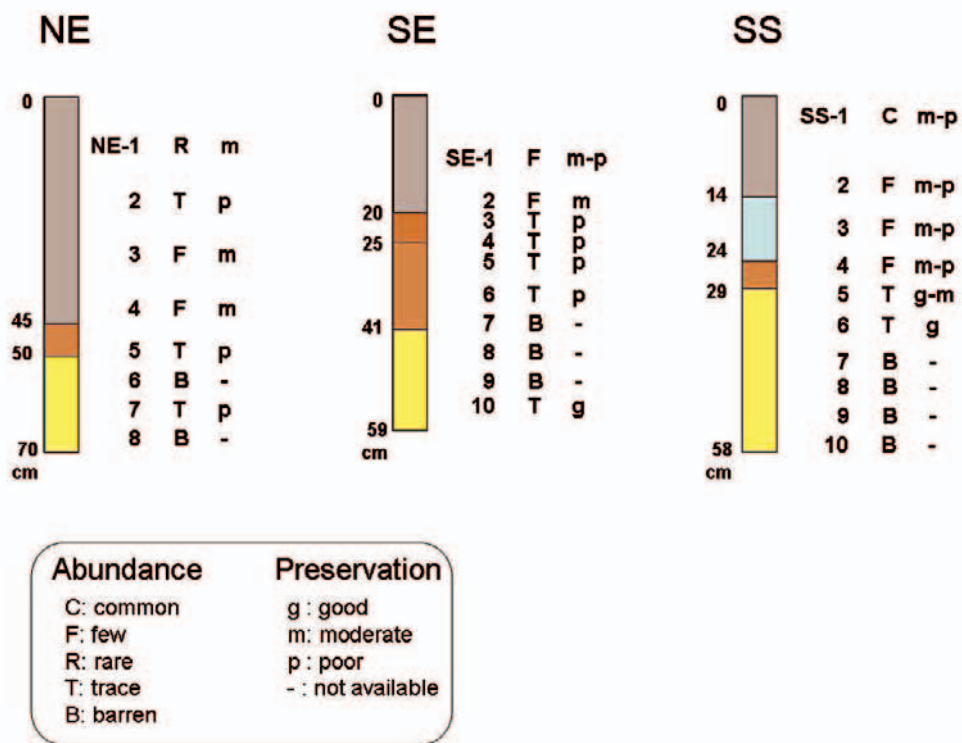


図6 各柱状断面における珪藻の産出頻度と保存度の分布
 Fig.6 Columnar sections and the stratigraphic distributions of diatom abundance and preservation.

Trench Section Sample	Interval (cm)												
	1-3 N-E	1-3 N-E	1-3 N-E	1-3 N-E	1-3 N-E	1-3 N-E	1-3 N-E	1-3 N-E	1-3 N-E	1-3 N-E	1-3 N-E	1-3 N-E	
Lithological unit	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	IIc
Diatom abundance	R	T	F	F	T	T	T	T	T	T	T	T	B
Diatom preservation	R	T	F	F	T	T	T	T	T	T	T	T	B
number of field observed	435	61	400	306	62	68	67	67	67	67	67	67	164
number of line scanned	7	3	6	5	3	3	3	3	3	3	3	3	7
magnification of objective lens	×100	×40	×100	×100	×40	×40	×40	×40	×40	×40	×40	×40	×63
soil/moss habitat	3		4										×63
aerial species	31	1	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	×63
<i>Navicula atomus</i>	31	1	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	×63
<i>Amphora rotunda</i>	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	×63
<i>Diatessia minutissima</i>	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	×63
<i>Hantzschia amphioxys</i>	5	1	2	7	1	1	1	1	1	1	1	1	×63
<i>Diademsis gallica</i>	4	6	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	×63
<i>Navicula aff. minima</i>	3	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	×63
<i>Navicula confervacea</i>	5	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	×63
<i>Navicula exelsa</i>	5	3	8	3	3	3	3	3	3	3	3	3	×63
<i>Nitzschia amphibia</i>	11												×63
<i>Pinnularia subcapitata</i> & <i>P. obscura</i>													×63
<i>Navicula exelsa</i>													×63
<i>Navicula lapidosa</i>													×63
hydro habitat													×63
aquatic species													×63
<i>Achnanthes rostrata</i>													×63
<i>Achnanthes hungarica</i>	3	5	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	×63
<i>Achnanthes minutissima</i>													×63
<i>Achnanthes</i> spp.													×63
<i>Amphora ovalis</i>													×63
<i>Bacillaria paradoxa</i>													×63
<i>Cocconeis plicatella</i> (raphe valve)													×63
<i>Cocconeis plicatella</i> (ultraphed valve)													×63
<i>Cocconeis</i> spp.													×63
<i>Cymbella leptoceros</i>													×63
<i>Cymbella minuta</i>													×63
<i>Diploneis elliptica</i>													×63
<i>Eunotia</i> spp.													×63
<i>Fragilaria construens</i>													×63
<i>Fragilaria pinnata</i>													×63
<i>Fragilaria</i> spp.													×63
<i>Fragilaria</i> sp.													×63
<i>Gomphonema pseudodeaugur</i> & <i>G. parvulum</i>													×63
<i>Gomphonema</i> spp.													×63
<i>Gyrosigma</i> spp.													×63
<i>Melosira varians</i>													×63
<i>Navicula capitata</i>													×63
<i>Navicula caspidata</i> v. <i>ambigua</i>													×63
<i>Navicula cuspidata</i>													×63
<i>Navicula elegnensis</i> s.s.													×63
<i>Navicula elegnensis</i> var. <i>neglecta</i>													×63
<i>Navicula pupula</i>													×63
<i>Navicula pupula</i>													×63
<i>Navicula sp. cf. N. cuspidata</i>													×63
<i>Navicula cryptocephala</i> & <i>N. viridula</i> f. <i>capitata</i>													×63
<i>Navicula</i> spp.													×63
<i>Neidium dubium</i>													×63
<i>Nitzschia amphibia</i>													×63
<i>Nitzschia levidensis</i>													×63
<i>Nitzschia palea</i>													×63
<i>Nitzschia</i> sp. aff. <i>N. scalpelliformis</i>													×63
<i>Nitzschia</i> sp. complex													×63
<i>Nitzschia</i> sp. F. complex													×63
<i>Pinnularia</i> spp.													×63
<i>Rhopalodia constricta</i>													×63
<i>Stauroneis anceps</i>													×63
<i>Stauroneis nobilis</i>													×63
<i>Stauroneis smithii</i>													×63
<i>Stauroneis</i> spp.													×63
<i>Surirella angusta</i>													×63
<i>Synedra</i> spp.													×63
other Penntale													×63
other Centrales													×63
Total of diatom frustules counted	117	3	169	123	0	0	0	0	0	0	0	0	0
aerial species (%)	51.3%	1000%	13.6%	17.1%									7.8%

ABUNDANCE
 A: abundant
 C: common
 F: few
 R: rare
 T: trace
 B: barren

PRESERVATION
 E: good
 m: moderate
 P: poor

表 1 硅藻產出表
 Tab.1 Diatom occurrence chart.

の珪藻を検出したが破片のみの場合が多く、群集組成は不明である。

I層の2試料(SS-1、-2)では *Navicula atomus*, *Navicula elegendensis* s.l. が卓越し、*Nitzschia palea* を初めとする *Nitzschia* 属が付随する。II層の2試料(SS-3、-4)でも同様に *Navicula elegendensis* s.l. が卓越、*Nitzschia palea* を初めとする *Nitzschia* 属が付随するが、土壤に棲み耐乾性を有する *Navicula atomus* は検出されなかった。“陸生珪藻”は表層(試料SS-1)で39.4%、下位に向かって減じ、深さ20cmのSS-4で7.8%であった。

SS' セクション

地表から約50cmの遺構埋土(III層)より1試料を採取し、分析を行った。遺構の深さは約25cmあり、遺構埋土を1-5cmほどの遺物包含層が覆い、さらに10-15cmほどの床土、5-15cmほどの耕作土が覆う。

分析した試料から、珪藻は検出されなかった。

6. 考察

遺構を形成する基盤層(IV層)から検出された珪藻はわずかにNE-7の *Synedra* 属、SS-6の *Nitzschia* 属のみで、いずれも種の同定にはいたっていない。遺物含有層においても、試料SS-5で破片から *Nitzschia* 属、*Stauroneis* 属が同定されたもの、他(SE-3からSE-6)では属の同定すら不可能であった。いずれも堆積場を復元するに耐える珪藻化石群集の検出とはならなかった。他方耕作土(I層)ならびに床土(II層)からはおおむね保存良好な珪藻遺骸群集が検出された。本調査地域の耕作土中の珪藻群集は *Navicula elegendensis* s.l. (= *N. elegendensis* s.s.+*N. elegendensis* var. *neglecta*) が卓越し、*Nitzschia palea*, *N. cryptocephala* 等が付随種として出現、耐乾性を有する“陸生珪藻”が表層付近にむけて増加、その割合はNEで特に高い、という特徴が明らかになった。

珪藻の生息分布域は幅広く、酸性水-アルカリ水に対する耐性、高温-低温に対する耐性、乾燥に対する耐性をもった種がそれぞれ棲み分けている。しかし堆積物に記録されるためには遺骸・化石として保存される必要があり、珪藻生体の現存量が多かったとしても埋没過程における溶解により大半が失われ、堆積物による希釈によりさらに産出密度は低下する可能性を秘めている。珪藻が分析試料から検出できない要因としては生息に適さない環境であったほかに、一般に他の堆積物粒子による希釈や埋没(初期続成)過程における溶解が考えられる。本遺跡が位置する日高村周辺は、蛇紋岩の産出を特徴とする黒瀬川帯の岩石が分布し、遺跡近傍でも蛇紋岩の露出が知られる(四国地方土木地質図編纂委員会、1998)。蛇紋石 $Mg_3Si_2O_5(OH)_4$ を主体とする蛇紋岩は他の岩石にくらべマグネシウムに富み、他にクロムやニッケルを含んでいることが多い。多量に含まれるマグネシウムは植物の水分吸収能力を低下させ、可溶性鉱物に含まれるニッケルは時として植物の生育障害を与える、と言われている。蛇紋岩地帯は周辺に比べ貧弱なアカマツ林となったり、ツツジ類が有占する低木群落になることが多いなど、独特な植生が発達することで知られている。珪藻群集の形成に与える影響は特に知られていないが、有機物供給が乏しくなることを考慮すれば一般に生産性は低く貧栄養性種群の卓越が予測される。また、日下川上流には石灰岩地帯が広く広がることから河川水・地下水はアルカリに傾いていると考えられる。強アルカリに耐性を示す珪藻もいるが、有

機被膜がなくなった死後の珪藻殻（非晶質シリカ）は、アルカリ水で容易に溶解する。Ⅳ層やⅢ層で検出された珪藻の破片は河川に一般的に認められる属で、珪藻が生活できないほど乾燥した場で堆積物が形成されたわけではなさそうである。また分析した試料はいずれも粘土質で粗粒細屑物による希釈を受けているとは言い難い。従って、貧栄養環境でもともと生産性が高くなかったうえ、アルカリ土壌により溶解しやすかったことが主な要因となり、珪藻化石の十分な産出とならなかったことが推定される。

一方水田では、一般に人為的に肥料（窒素、リン酸、カリ）を加えるため周辺の自然土壌に比べ富栄養化し、pHにも影響をあたえる。また、1) 田植えから稲が成長するまでは冠水・湿潤環境、稲刈りから冬場は乾燥環境、次の田植えにそなえた冬場・春先の田おこし、と明瞭な季節性を有すること、2) 初夏の冠水期には周辺自然環境にくらべ水温が高温に維持されること、など人為的に作り出される特異な環境である。水田には湿潤・乾燥ストレスに対して適応力の高い珪藻が繁殖可能で、湿潤期、乾燥期、水路から流入する清水、水田内によどんだ腐水などに個別に対応した珪藻が共産する多様な群集構造を呈するものと考えられる。今回卓越した *Navicula elegendensis* s.l. や付随種として出現した *Nitzschia palea*, *N. cryptocephala* はいずれも各地の水田から検出される現世珪藻群集の主要種群として知られている（金綱、1958; Negoro and Higashino、1986; 鬼頭・尾崎、1998など）。現在畑作地となっている NE 断面では、0-20cm までと 30cm 以深では大きく群集組成が異なり、0-20cm では耐乾性の高い“陸生珪藻”（= 気生種, aerial species）が過半数を超える特異な群集組成を示すが、30cm 以深では SE 断面、SS 断面の試料から検出された珪藻群集との類似性が高い。現在畑作が行われているこの区域でも以前は水田として利用されていたとの聞き取り調査がなされており（久家氏、2003私信）、30cm 以深の珪藻組成は水田としての利用を裏付けするものである。SS 断面においてはⅠ層（耕作土）にくらべⅡ層（床土）で“陸生珪藻”がさらに少なくなっている。田おこしによる擾乱が及ばない床土では、床土形成時の環境を反映した珪藻群集を保存していると考えられる。Ⅰ層で“陸生珪藻”が14%以上であるのに対してⅡ層で10%を切るようになることは、Ⅱ層形成時は現在の水田にくらべ湿潤期が長く乾期が少なかったことを示し、かつて湿田として利用されていた可能性を示唆する。

7. まとめ

仁淀川と日下川が合流する結節点の沖積段丘上に位置し、交通・交易の要所として注目される日高村千本杉遺跡の遺跡調査区 I-3区調査壁面より、4 地点29試料を得て珪藻化石分析を行った。珪藻殻数100個体以上を計数可能であった試料は3 地点8 試料を数えたが、いずれも耕作土（Ⅰ層）または床土（Ⅱ層）に限られ、千本杉遺跡の遺構を形成する基盤層（Ⅳ層）や遺物包含層・遺構埋土（Ⅲ層）からはわずかな痕跡を認めたにとどまり、ほとんどの試料で珪藻が産出しなかった。

珪藻が検出できない要因としては一般に生息に適さない環境であったほか、他の堆積物粒子による希釈や続成過程における溶解が考えられる。分析した試料はいずれも粘土質で粗粒細屑物による希釈を受けているとは言い難く、むしろもともと珪藻の現存量が少なかったことに加え、アルカリ土壌により溶解しやすかったことが主な要因と推定された。一方耕作土からは水田に特徴的な珪藻

種群ならびに耐乾性を有する“土壌生珪藻”が卓越する遺骸群集を検出し、耕作土認定が的確であったことが検証された。

謝辞

高知県埋蔵文化財センターの久家隆芳調査員には千本杉遺跡調査区からの試料採取を許可していただき、本研究の機会をいただいた。本調査研究は高知大学理学部自然環境科学科在学中だった田辺匡隆君が発掘調査に参加していたことに端を発す。田鍋君には遺跡調査の存在を教えてもらい調査日程の調整をしていただいた。また高知大学理学部水谷哲章君には現地での試料採取、実験室での試料処理をお手伝いいただいた。改めて関係者諸氏に感謝の意を記す次第である。

引用文献

- 伊藤良永・堀内誠示、1991. 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. *Diatom*, 6:23-44.
- Johansen, J.R., 1999. Diatoms of aerial habitats. In Stoermer&Smol, *The Diatoms: Applications for the Environmental and earth sciences*. Cambridge Univ. Press. 264-273.
- 金網善恭、1958. 京都および近郊の水田産ケイソウ (2). *藻類*, 6 (1), 23-27.
- 小杉正人、1986. 陸生珪藻による古環境の解析とその意義-わが国への導入とその展望-. *植生史研究*, 1:29-44.
- 小杉正人・金山喜昭・張替いづみ・樋泉岳二・小池裕子、1989. 古奥東京湾周辺における縄文時代黒浜期の貝塚形成と古環境. *考古学と自然科学 (日本文化財科学会誌)*, 21, 1-22.
- Krammer, K., and Lange-Bertalot, H., 1986 (nachdr, 1997). *Bacillariophyceae Teil 1. Naviculaceae*. Band 2/1 von *Die Süßwasserflora von Mitteleuropa*, 876pp, Spektrum Akademischer Verlag.
- Krammer, K., and Lange-Bertalot, H., 1988 (nachdr, 1997). *Bacillariophyceae Teil 2. Bacillariaceae, Epithemiaceae, Surirellaceae*. Band 2/2 von *Die Süßwasserflora von Mitteleuropa*, 610pp, Spektrum Akademischer Verlag.
- Krammer, K., and Lange-Bertalot, H., 1991 (nachdr, 2000). *Bacillariophyceae Teil 3. Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae*. Band 2/3 von *Die Süßwasserflora von Mitteleuropa*, 598pp, Spektrum Akademischer Verlag.
- Krammer, K., and Lange-Bertalot, H., 1991. *Bacillariophyceae Teil 4. Achnantheaceae, Kritische Ergänzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema*. Band 2/4 von *Die Süßwasserflora von Mitteleuropa*, 437pp, Gustav Fischer Verlag, Spektrum Akademischer Verlag.
- Negora, K., and Higashino, M., 1986. Diatom vegetation of paddy fields in Japan. Report I. Diatom vegetation of paddy fields in the vicinity of Sakurai City, Nara Prefecture. *Diatom*, 2:1-8.
- 大村一夫、2002. 応用地質家が見た旧石器発掘ねつ造現場. 宮城県築館町上高森遺跡検証発掘調査報告書. 63-69. 上高森遺跡検証発掘調査団.
- パリノ・サーヴェイ株式会社、2000. 具同中山遺跡群Ⅲ-1の自然科学分析調査報告. 具同中山遺跡

- 群Ⅲ-1-中村宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅵ、高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書、48、付編1、1-20.
- パリノ・サーヴェイ株式会社、2001a. 天神遺跡Ⅰ区、林口遺跡Ⅰ-A区の自然科学分析報告. 天神遺跡Ⅰ・林口遺跡Ⅰ-土佐市バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ、高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書、57、155-176.
- パリノ・サーヴェイ株式会社、2001b. 自然科学分析. 天神遺跡Ⅱ：土佐市バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ、高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書、60、211-262、pls.121-127.
- パリノ・サーヴェイ株式会社、2001c. 自然科学分析-具同中山遺跡群における低地の土地利用状況に関する自然科学分析調査. 具同中山遺跡群Ⅲ-2-中村宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅹ、高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書、65、55-76.
- Schrader, H.-J., and Gersonde, R., 1986. Diatoms and silicoflagellates. In Zachariasse, W.J., et al. (eds.), Micropaleontological counting methods and techniques-an exercise on an eight meter section of the lower Pliocene of Capo Rossello, Sicily. Utrecht Micropaleontology Bull., 17, 129-176.
- 四国地方土木地質図編纂委員会、1998. 四国地方土木地質図ならびに同解説書. 国土開発技術研究センター.
- Winter, D., and Iwai, M., 2002. Neogene diatom biostratigraphy, Antarctic Peninsula Pacific margin, ODP Leg 178 rise sites. In : Barker, P.F., Camerlenghi, A., Acton, G.D., and Ramsay, A.T.S. (Eds.), Proc. ODP, Sci. Results, 178: Ocean Drilling Program, Texas A&M University, College Station, TX 77845-9547, U.S.A. [Online]. Available from World Wide Web: <http://www-odp.tamu.edu/publications/178_SR/chap_29/chap_29.htm>.

図版 1
Plate 1

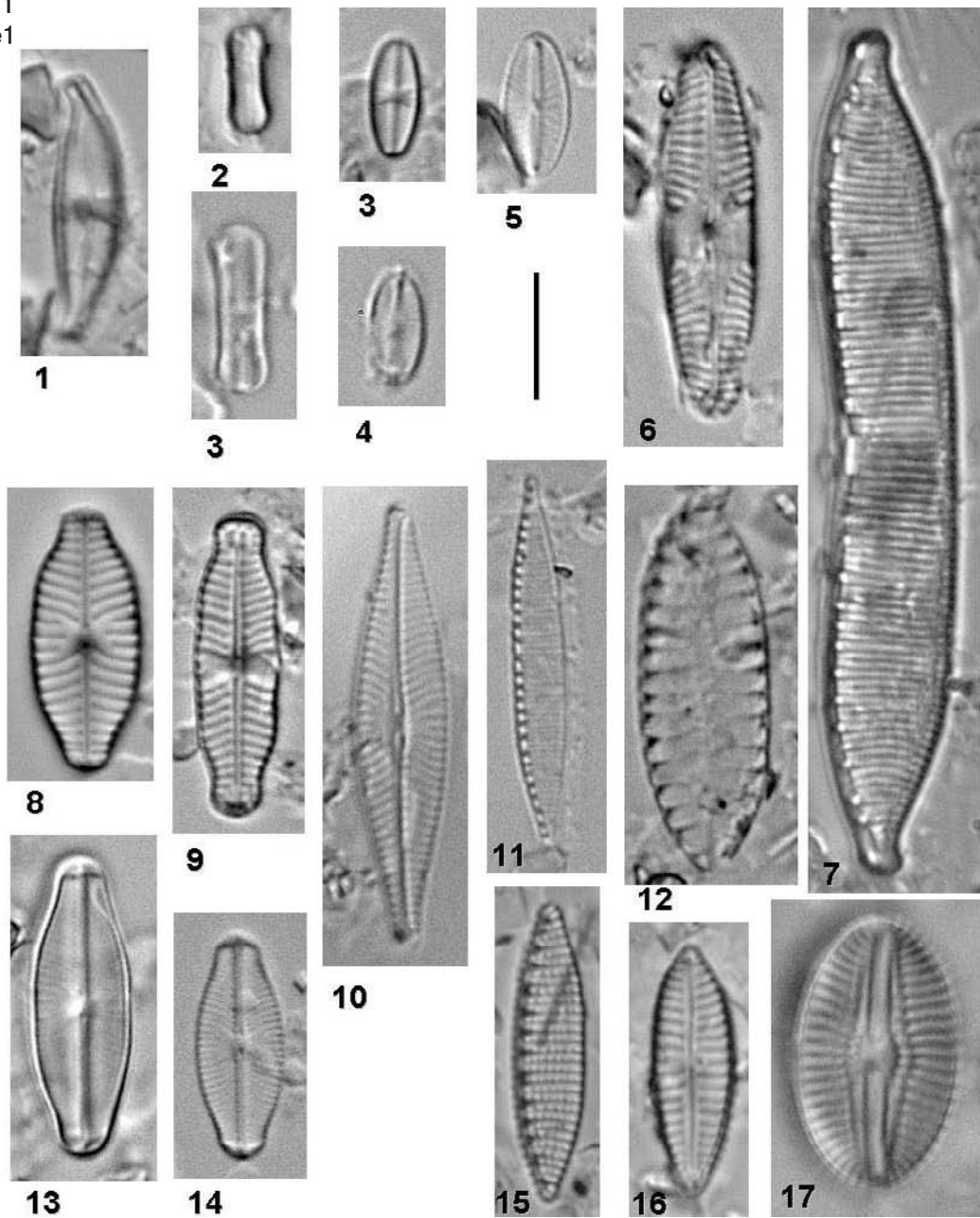


Plate 1 Fig.1: *Amphora montana* Figs.2-3: *Navicula contenta* Fig.4: *Navicula aff. minima* Fig.5: *Navicula atomus* Fig.6: *Navicula exelsa* Fig.7: *Pinnularia subcapitata* Fig.8: *Hantzschia amphioxys* Fig.9: *Navicula euginensis* s.s. Fig.10: *Navicula euginensis* var. *neglecta* Fig.11: *Navicula cryptocephala* Fig.12: *Nitzschia palea* Fig.13: *Surirella ongsta* Figs.14-15: *Navicula pupula* Fig.16: *Nitzschia amphibia* Fig.17: *Gomphonema pseudoaugur* Fig.18: *Diploneis elliptica*.

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

遺構觀察表

Tab. 2 I-1区遺構一覽表

Pit No	調査区	平面形	直径 長軸・短軸(cm)	深さ (cm)	出土遺物
21	I-1	円形	33×28	21	土師質土器5点。
22	I-1	円形	27	29	土師質土器3点。
23	I-1	不整円形	30×25	20	土師質土器3点、不明陶器1点、粘土塊1点。
24	I-1	不整円形	33×22	18	土師質土器3点。
25	I-1	不整円形	35×30	11	土師質土器2点、不明陶器1点。
26	I-1	円形	24	23	土師質土器2点。
27	I-1	不整円形	50×35	25	土師質土器19点。
28	I-1	円形	24	12	土師質土器3点、土師質土器羽釜1点。
29	I-1	不整円形	38×30	44	土師質土器6点。
30	I-1	円形	25	12	土師質土器4点。
31	I-1	不整円形	35×25	17	土師質土器10点、スラグ1点。
32	I-1	円形	25	11	土師質土器6点。
33	I-1	円形	24	9	土師質土器1点、瓦器1点。
34	I-1	不整円形	40×30	-	土師質土器17点、粘土塊1点。
35	I-1	円形	28×24	14	土師質土器2点。
36	I-1	円形	20	17	土師質土器1点、瓦器1点。
37	I-1	不整円形	34×24	10	出土遺物なし。
38	I-1	不整円形	43×22	13	土師質土器1点、不明陶器1点、粘土塊4点。
39	I-1	円形	30	10	土師質土器16点。
40	I-1	円形	30×24	25	土師質土器1点、スラグ1点。
41	I-1	方形	50×35	16	土師質土器10点、青磁2点。
42	I-1	円形	28	10	土師質土器4点、青磁1点。
43	I-1	円形	34	23	土師質土器12点、瓦器1点。
44	I-1	不整円形	20×20	23	土師質土器2点。
45	I-1	円形	30	21	土師質土器8点。
47	I-1	不整円形	45×30	29	土師質土器4点。
48	I-1	方形	25×20	16	土師質土器6点、土師質土器羽釜7点、瓦器2点。
49	I-1	円形	25	15	土師質土器7点、粘土塊1点。
50	I-1	円形	24	21	土師質土器11点、瓦質土器2点、青磁1点。
51	I-1	不整円形	30×25	20	土師質土器9点、鉄製品1点、粘土塊1点。
52	I-1	不整円形	48×45	38	土師質土器7点、瓦器1点、青磁2点、スラグ1点。
53	I-1	不整円形	30×25	10	土師質土器3点、備前焼1点、不明陶器1点、粘土塊1点。
54	I-1	方形	30×30	21	土師質土器2点。
55	I-1	不整円形	25×17	20	土師質土器2点、瓦質土器鍋1点。
56	I-1	円形	30	23	土師質土器8点。
57	I-1	円形	33	46	土師質土器5点、土師質土器鍋1点。
58	I-1	円形	30	40	土師質土器15点、土師質土器鍋1点。
59	I-1	円形	30	28	土師質土器10点。
60	I-1	不整円形	22×17	19	土師質土器3点。
61	I-1	円形	30	14	土師質土器9点。
62	I-1	円形?	30	15	土師質土器6点。
63	I-1	円形	(30)	19	土師質土器5点。
64	I-1	不整円形	38×30	7	土師質土器1点、土師質土器鍋1点。
65	I-1	不整円形	35×28	49	土師質土器1点、粘土塊1点。
66	I-1	不整円形	(35)×37	12	土師質土器1点。
67	I-1	円形	24	11	土師質土器3点、瓦器1点。
68	I-1	不整円形	20×15	32	土師質土器6点、土錘1点。
69	I-1	不整円形	50×30	23	土師質土器4点。
70	I-1	円形	20	20	出土遺物なし。
71	I-1	円形	36	30	土師質土器8点、粘土塊1点。

72	I-1	隅丸方形	48×35	23	土師質土器11点、粘土塊2点。
73	I-1	円形	30	16	土師質土器9点、粘土塊1点。
74	I-1	円形	40	16	土師質土器18点、瓦器1点。
75	I-1	不整円形	50×30	24	土師質土器18点、瓦質土器1点、粘土塊1点。
76	I-1	不整円形	25×15	20	土師質土器9点。
77	I-1	方形	45×40	21	土師質土器10点、粘土塊1点。
78	I-1	円形	35	19	土師質土器9点、瓦器2点、青磁1点。
237	I-1	不整円形	25×20	47	土師質土器7点。
238	I-1	不整円形	30×25	25	土師質土器12点。
241	I-1	不整円形	50×30	17	土師質土器3点。
264	I-1	円形	20	18	出土遺物なし。
265	I-1	不整円形	25×20	-	出土遺物なし。
266	I-1	不整円形	25×25	29	出土遺物なし。
267	I-1	円形	25	16	出土遺物なし。
268	I-1	不整円形	30×25	15	出土遺物なし。
269	I-1	不整円形	25×20	29	出土遺物なし。
270	I-1	円形	25	11	出土遺物なし。
271	I-1	円形	28	17	出土遺物なし。
272	I-1	円形	10	16	出土遺物なし。
273	I-1	円形	24	20	出土遺物なし。
287	I-1	円形	(30)	15	出土遺物なし。

SK No	調査区	平面形	長軸・短軸(cm)	深さ (cm)	出土遺物
5	I-1	長方形	80×60	9	土師質土器6点、土錘1点。
6	I-1	不整円形	73×60	27	土師質土器31点、瓦器2点、青磁1点、土錘1点、銅銭1点。
7	I-1	不整形	75×65	26	土師質土器32点、瓦器1点、粘土塊1点。
8	I-1	不整形	125×(80)	6	土師質土器3点。
9	I-1	不整形	80×45	15	土師質土器17点、土師質土器鍋1点、瓦器1点、不明陶器1点。
10	I-1	楕円形	58×33	19	土師質土器13点、青磁1点、不明陶器1点。
11	I-1	楕円形	55×50	15	土師質土器14点、粘土塊1点。
12	I-1	不整円形	95×60	8	土師質土器55点、瓦器3点、粘土塊1点。
13	I-1	不整形	50×(40)	38	土師質土器11点、瓦器1点。
14	I-1	円形?	70×(20)	27	土師質土器12点、瓦器3点、粘土塊1点。
15	I-1	長方形?	(70)×70	8	土師質土器17点、白磁1点、青磁1点。
16	I-1	不整円形	85×60	4	土師質土器18点、スラグ1点、粘土塊2点。
17	I-1	不整円形	70×50	23	土師質土器84点、瓦器1点、鉄製品1点、粘土塊1点。
18	I-1	不整円形	98×70	27	土師質土器66点、瓦器3点、東播系須恵器1点、青磁1点、鉄製品1点。
36	I-1	不整形	65×40	18	出土遺物なし。

SD No	調査区	平面形	検出長・幅(cm)	深さ (cm)	出土遺物
1	I-1	-	(220)×65	12	土師質土器37点、土師質土器鍋1点、瓦器9点、青磁1点、不明陶器3点、石鍋1点。
2	I-1	-	(100)×36	17	土師質土器37点、スラグ8点。

SX No	調査区	平面形	長軸・短軸(cm)	深さ (cm)	出土遺物
1	I-1	不整形	(140)×135	19	土師質土器134点、瓦器7点、東播系須恵器1点、土師器蓋2点、備前焼1点、不明陶器2点、鉄製品6点、粘土塊5点。

(復原値)

Tab. 3 I-2区遺構一覧表

Pit No	調査区	平面形	直径 長軸・短軸(cm)	深さ (cm)	出土遺物
80	I-2	不整形	40×35	28	土師質土器3点、瓦器2点、青磁1点。
81	I-2	不整形	23×19	15	土師質土器2点。
82	I-2	不整形	30×25	16	土師質土器2点。
83	I-2	円形	18	19	出土遺物なし。
84	I-2	不整形	83×60	75	土師質土器17点、土師質土器羽釜1点、土師質土器鍋1点、瓦器8点、粘土塊6点。
85	I-2	円形	25	18	出土遺物なし。
86	I-2	円形	25	20	出土遺物なし。
87	I-2	円形	22	25	出土遺物なし。
88	I-2	不整形	(30)×30	29	土師質土器1点。
89	I-2	不整形	(40)×(15)	19	土師質土器2点。
90	I-2	円形	20	18	土師質土器1点。
91	I-2	不整形	43×(22)	18	土師質土器9点、瓦器1点。
92	I-2	不整形	28×20	13	土師質土器3点。
93	I-2	不整形	40×(25)	3	土師質土器4点、粘土塊1点。
94	I-2	不整形	72×60	58	土師質土器25点、瓦器2点。
95	I-2	円形	26	58	土師質土器5点、須恵器1点。
96	I-2	方形	45×40	42	土師質土器4点、瓦器1点。
97	I-2	円形	30	37	土師質土器5点。
98	I-2	円形	25	13	土師質土器2点。
99	I-2	円形	25	13	土師質土器2点。
100	I-2	円形?	40×(22)	13	土師質土器13点。
101	I-2	方形	62×62	51	土師質土器28点、瓦器2点、須恵器1点、土錘1点、不明1点。
102	I-2	不整形	40×33	46	土師質土器3点。
103	I-2	不整形	30×25	20	出土遺物なし。
104	I-2	円形	35	18	土師質土器1点、瓦器1点、土師器蓋1点。
105	I-2	不整形	40×33	20	土師質土器9点、青磁1点。
106	I-2	不整形	50×46	35	土師質土器11点、瓦器1点。
107	I-2	円形	28	18	土師質土器2点。
108	I-2	円形	30	16	出土遺物なし。
109	I-2	不整形	35×28	23	土師質土器2点、土師質土器鍋1点、青磁1点。
110	I-2	円形	30	38	土師質土器1点、瓦器1点、スラグ1点。
111	I-2	円形	25	32	土師質土器鍋1点、青磁1点。
112	I-2	円形	30	19	土師質土器1点、粘土塊1点。
113	I-2	円形	28	12	出土遺物なし。
114	I-2	不整形	30×20	7	出土遺物なし。
115	I-2	円形	25	6	土師質土器2点。
116	I-2	円形	25	28	土師質土器3点。
117	I-2	不整形	28×23	9	土師質土器1点。
118	I-2	円形	25	18	土師質土器2点。
119	I-2	不整形	30×25	16	土師質土器1点。
120	I-2	円形	25	29	土師質土器1点。
121	I-2	円形	20	17	土師質土器1点、瓦器1点。
122	I-2	不整形	25×25	24	土師質土器1点。
123	I-2	円形	25	28	土師質土器2点。
124	I-2	不整形	35×20	13	出土遺物なし。
125	I-2	不整形	27×20	7	出土遺物なし。
126	I-2	不整形	55×47	42	土師質土器64点、土師質土器鍋1点、瓦器1点、瓦1点、スラグ2点。
127	I-2	円形	20	14	土師質土器3点。
128	I-2	不整形	50×42	49	土師質土器19点、青磁1点。
129	I-2	方形	40×37	26	土師質土器4点。
130	I-2	円形	20	13	出土遺物なし。
131	I-2	不整形	48×38	35	土師質土器7点、瓦器2点。
132	I-2	不整形	75×30	14	土師質土器3点。

133	I-2	不整形	35×28	18	土師質土器5点。
134	I-2	不整形	40×30	46	土師質土器4点。
135	I-2	不整形	35×30	29	土師質土器4点。
164	I-2	不整形	25×22	33	土師質土器2点。
165	I-2	不整形	35×25	21	土師質土器1点。
174	I-2	不整形	30×25	19	土師質土器5点、瓦器2点。
224	I-2	円形	20	24	土師質土器1点、青磁1点。
225	I-2	不整形?	21	11	土師質土器3点。
226	I-2	円形?	30×(10)	12	土師質土器2点。
227	I-2	円形	20	28	土師質土器3点。
229	I-2	不整形	40×(15)	17	土師質土器1点。
230	I-2	円形	27	21	土師質土器3点。
231	I-2	不整形	40×35	32	土師質土器36点、瓦器3点、青磁1点、粘土塊1点。
232	I-2	不整形	35×(20)	12	土師質土器5点。
233	I-2	円形	20	22	土師質土器2点。
234	I-2	不整形	50×32	37	土師質土器1点、白磁1点。
235	I-2	不整形	35×30	29	土師質土器15点、粘土塊3点。
236	I-2	円形	40×35	52	土師質土器50点、土師質土器羽釜2点、瓦器2点、粘土塊4点。
274	I-2	円形	30	20	出土遺物なし。
275	I-2	不整形	24×24	37	出土遺物なし。
276	I-2	円形	15	19	出土遺物なし。
277	I-2	円形	23	21	出土遺物なし。
278	I-2	円形	30	5	出土遺物なし。
279	I-2	不整形	35×(13)	9	出土遺物なし。
280	I-2	不整形	15×10	16	出土遺物なし。
281	I-2	不整形	30×24	11	出土遺物なし。
282	I-2	不整形	25×20	12	出土遺物なし。
283	I-2	不整形	25×20	16	出土遺物なし。
284	I-2	円形	30	10	出土遺物なし。
285	I-2	円形	26	20	出土遺物なし。
286	I-2	不整形	20×18	15	出土遺物なし。
288	I-2	不整形	20×15	17	出土遺物なし。
289	I-2	不整形	30×20	19	出土遺物なし。

SK No	調査区	平面形	長軸・短軸(cm)	深さ (cm)	出土遺物
19	I-2	方形?	135×(105)	6	土師質土器10点、瓦器3点。
20	I-2	方形?	160×(50)	4	土師質土器14点、瀬戸美濃系1点。
21	I-2	方形?	100×(55)	7	土師質土器8点。
22	I-2	長方形	(102)×80	6	土師質土器6点。
23	I-2	不整形	75×65	12	土師質土器2点。
24	I-2	不整形	60×40	29	土師質土器13点。
25	I-2	不整形	65×42	37	土師質土器10点、白磁1点。
26	I-2	楕円形	52×33	29	土師質土器3点、瓦質土器1点、粘土塊1点。
27	I-2	長楕円形?	190×110	11	土師質土器121点、土師質土器羽釜1点、瓦器4点、瓦質土器2点、須恵器1点、備前焼1点、粘土塊19点。
35	I-2	不明	-	7	土師質土器6点、瓦器1点。

SD No	調査区	平面形	検出長・幅(cm)	深さ (cm)	出土遺物
3	I-2	-	(450)×45	6	土師質土器26点、瓦器1点。

SX No	調査区	平面形	長軸・短軸(cm)	深さ (cm)	出土遺物
2	I-2	溝状	165×35	7	土師質土器15点、瓦器2点、白磁1点、土錘1点、スラグ1点。
3	I-2	不整形	95×90	7	土師質土器7点、瓦器1点。

(復原値)

Tab. 4 I-3区遺構一覽表

Pit No	調査区	平面形	直径 長軸・短軸(cm)	深さ (cm)	出土遺物
136	I-3	不整形	36×28	31	土師質土器54点。
137	I-3	不整形	24×20	15	出土遺物なし。
138	I-3	不整形	28×23	15	土師質土器4点。
139	I-3	円形	20	22	土師質土器2点。
140	I-3	不整形	45×37	52	土師質土器32点、瓦器3点、スラグ1点、粘土塊1点。
141	I-3	不整形	50×45	63	土師質土器43点、粘土塊1点。
142	I-3	円形	30	29	土師質土器15点、粘土塊1点。
143	I-3	円形	21	23	土師質土器4点。
144	I-3	不整形	53×38	24	土師質土器16点、粘土塊1点。
145	I-3	不整形	50×25	22	土師質土器14点。
146	I-3	不整形	27×(12)	20	土師質土器2点。
147	I-3	円形	21	22	土師質土器3点。
148	I-3	不整形	40×(15)	26	土師質土器8点。
149	I-3	円形	26	39	出土遺物なし。
150	I-3	不整形	35×25	29	土師質土器1点。
151	I-3	不整形	40×(11)	20	土師質土器3点。
152	I-3	不整形	40×33	31	土師質土器5点、瓦器1点。
154	I-3	円形	20	18	土師質土器2点。
155	I-3	不整形	63×57	41	土師質土器37点、備前焼1点。
156	I-3	不整形	57×36	33	土師質土器41点。
157	I-3	楕円形	35×30	7	土師質土器3点。
158	I-3	不整形	67×57	26	土師質土器25点、瀬戸美濃系1点。
159	I-3	不整形	61×44	32	土師質土器47点、瓦器3点、青磁1点、瀬戸美濃系2点、スラグ1点、粘土塊1点。
160	I-3	円形	30	38	土師質土器6点。
161	I-3	不整形	42×35	56	土師質土器23点、粘土塊1点。
162	I-3	円形	25	26	土師質土器7点、不明陶器1点。
163	I-3	不整形	53×40	51	土師質土器1点。
166	I-3	不整形	22×16	41	土師質土器4点。
167	I-3	不整形	25×20	27	土師質土器6点、鉄製品1点。
168	I-3	円形	30	39	土師質土器13点、粘土塊2点。
169	I-3	不整形	22×15	25	土師質土器2点。
170	I-3	不整形	27×22	20	土師質土器11点、瓦器4点、粘土塊2点。
171	I-3	方形	45×40	35	土師質土器4点。
172	I-3	不整形	25×17	23	土師質土器6点。
173	I-3	不整形	39×25	34	土師質土器20点。
175	I-3	不整形	50×40	28	土師質土器9点。
176	I-3	不整形	30×25	9	出土遺物なし。
177	I-3	不整形	25×18	14	土師質土器5点、不明陶器1点。
178	I-3	不整形	43×33	37	土師質土器15点、粘土塊3点。
179	I-3	円形	35	19	土師質土器9点。
180	I-3	円形	45×38	29	土師質土器10点。
181	I-3	円形	32	23	土師質土器4点。
182	I-3	不整形	32×24	19	瓦器1点。
183	I-3	方形	30×30	18	土師質土器2点、スラグ1点、粘土塊1点。
184	I-3	不整形	30×25	17	土師質土器1点。
185	I-3	不整形	40×31	35	土師質土器9点、瓦器1点、粘土塊1点。
186	I-3	円形	40	38	土師質土器12点、不明陶器1点。
187	I-3	不整形	43×(11)	17	土師質土器4点。
188	I-3	不整形	38×35	35	土師質土器4点、青磁1点、鉄製品1点。
189	I-3	不整形	35×30	26	土師質土器4点、瓦器1点。
190	I-3	円形	23	17	土師質土器1点。
191	I-3	不整形	73×45	30	土師質土器16点、スラグ1点。

192	I-3	不整形	(20)×32	21	土師質土器2点。
193	I-3	不整形	55×50	29	土師質土器1点。
194	I-3	円形	28	22	土師質土器2点。
195	I-3	不整形	90×45	27	土師質土器10点、瓦質土器1点、根石1点。
196	I-3	不整形	65×45	10	土師質土器2点。
197	I-3	不整形	84×65	54	土師質土器45点、瓦器2点、不明陶器1点。
198	I-3	不整形	60×50	29	土師質土器162点、瓦器3点、瓦質土器鍋2点、粘土塊2点。
199	I-3	円形	55	35	土師質土器39点、瓦器5点、粘土塊1点。
200	I-3	不整形	45×30	26	土師質土器11点、粘土塊1点。
201	I-3	不整形	45×40	34	土師質土器6点、粘土塊1点。
202	I-3	円形	20	18	土師質土器8点、瓦器2点、瓦質土器1点。
203	I-3	円形	12	17	土師質土器1点。
204	I-3	不整形	45×38	32	土師質土器1点。
205	I-3	不整形	42×35	37	土師質土器24点、瓦器1点、スラグ1点、粘土塊1点。
206	I-3	不整形	25×18	17	土師質土器1点。
207	I-3	円形	16	17	土師質土器1点。
208	I-3	不整形	40×30	39	土師質土器10点、不明陶器1点、粘土塊2点。
209	I-3	不整形	40×30	16	土師質土器9点、粘土塊1点。
210	I-3	不整形	90×55	40	土師質土器11点、土師質土器鍋1点、瓦質土器1点。
212	I-3	不整形	40×35	34	土師質土器24点、瓦器1点。
213	I-3	不整形	40×37	39	土師質土器26点、東播系須恵器2点、粘土塊4点。
214	I-3	不整形	70×44	46	根石1点。
215	I-3	方形	35×35	35	土師質土器20点、瓦器2点、スラグ1点。
216	I-3	不整形	35×30	37	土師質土器7点。
217	I-3	円形	35	33	土師質土器13点、瓦器1点、青磁1点、スラグ1点。
218	I-3	不整形	53×45	26	土師質土器7点。
219	I-3	方形	55×42	17	土師質土器30点、土師質土器羽釜1点、鉄製品1点。
220	I-3	不整形	(48)×42	33	土師質土器16点。
222	I-3	円形	70	26	土師質土器12点、瓦器2点、青磁1点、不明陶器1点。
223	I-3	円形	25	18	土師質土器10点、鉄製品1点。
239	I-3	円形	20	26	土師質土器4点、瓦器1点。
240	I-3	円形	20	51	土師質土器13点。
242	I-3	円形	30	35	土師質土器43点、備前焼1点、粘土塊2点。
243	I-3	楕円形	40×30	27	出土遺物なし。
244	I-3	円形	20	13	出土遺物なし。
245	I-3	不整形	45×36	-	出土遺物なし。
246	I-3	円形	15	14	出土遺物なし。
247	I-3	不整形	30×(15)	16	出土遺物なし。
248	I-3	円形	40	43	出土遺物なし。
249	I-3	不整形	38×(15)	9	出土遺物なし。
250	I-3	不整形	30×25	22	出土遺物なし。
251	I-3	不整形	25×25	26	出土遺物なし。
252	I-3	円形	25	15	出土遺物なし。
253	I-3	円形	16	36	出土遺物なし。
254	I-3	円形	20	24	出土遺物なし。
255	I-3	円形	22×18	49	出土遺物なし。
256	I-3	不整形	30×(15)	7	出土遺物なし。
257	I-3	不整形	30×30	50	出土遺物なし。
258	I-3	不整形	45×36	22	出土遺物なし。
259	I-3	不整形	20×18	29	出土遺物なし。
260	I-3	円形	30	39	出土遺物なし。
261	I-3	円形	18	9	出土遺物なし。
262	I-3	不整形	30×15	-	出土遺物なし。
263	I-3	不整形	15×10	16	出土遺物なし。

SK No	調査区	平面形	長軸・短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物
28	I-3	溝状	(90)×40	21	土師質土器94点、瓦器1点。
29	I-3	不整楕円形	130×90	30	土師質土器154点、瓦器3点、土師器壺1点、鉄製品2点、スラグ1点、粘土塊1点。
30	I-3	不整形	80×52	7	土師質土器74点、土師質土器鍋1点、瓦器1点。
31	I-3	溝状	202×35	12	土師質土器18点、瓦器1点、須恵器1点、鉄製品1点、粘土塊2点。
32	I-3	不整形	112×70	7	土師質土器89点、瓦器2点、須恵器1点、土錘1点。
33	I-3	円形	68×45	5	土師質土器11点、瓦器1点。
34	I-3	不整形	(50)×40	13	出土遺物なし。

SD No	調査区	平面形	検出長・幅 (cm)	深さ (cm)	出土遺物
4	I-3	-	1080×280	60	土師質土器152点、瓦器3点、須恵器2点、土師器壺1点、白磁2点、青磁6点、備前焼4点、瀬戸美濃系1点、不明陶器5点、青花1点、瓦2点、羽口1点、土錘3点、鉄製品1点、スラグ14点、粘土塊2点。
5	I-3	-	(240)×90	32	土師質土器19点、青磁1点、常滑焼2点、瀬戸美濃系1点。
6	I-3	-	210×35	6	土師質土器2点。
7	I-3	-	120×40	3	土師質土器2点。
8	I-3	-	(240)×55	11	土師質土器5点。

SX No	調査区	平面形	直径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物
4	I-3	楕円形	132×103	3	土師質土器103点、瓦器7点、東播系須恵器1点、粘土塊2点。
5	I-3	不整形	(85)×80	3	土師質土器5点、東播系須恵器1点、粘土塊1点。

Tab. 5 II-1区遺構一覧表

Pit No	調査区	平面形	直径・長軸・短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物
1	II-1	円形	21	21	土師質土器10点。
2	II-1	円形	28	13	土師質土器9点。
3	II-1	円形	29	21	土師質土器1点。
4	II-1	円形	55	32	土師質土器26点、粘土塊2点。
5	II-1	不整円形	50×40	16	土師質土器89点、須恵器1点、青磁1点。
6	II-1	不整円形	(30)×(8)	17	土師質土器1点、銅銭1点。
7	II-1	円形	20	21	出土遺物なし。
8	II-1	円形	48	18	土師質土器5点。
9	II-1	円形	35	21	土師質土器4点、瓦器2点。
10	II-1	不整円形	25×(15)	19	瓦器1点。
11	II-1	円形	20	20	土師質土器3点。
12	II-1	不整円形	29×20	18	土師質土器12点、瓦器2点。
13	II-1	円形	54	21	土師質土器80点、瓦質土器鍋1点、粘土塊1点。

14	II-1	方形	60×50	25	土師質土器44点。
15	II-1	不整円形	20×15	18	土師質土器1点、瓦器1点。
16	II-1	円形	19	15	土師質土器7点、瓦器1点。
17	II-1	円形	22	19	土師質土器5点、不明陶器1点。
18	II-1	円形	35	14	土師質土器5点、瓦器1点。
19	II-1	不整円形	55×(28)	17	土師質土器19点、瓦器1点、須恵器1点。
20	II-1	円形	26	21	出土遺物なし。

SK No	調査区	平面形	長軸・短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物
1	II-1	不整円形	84×73	12	土師質土器40点、瓦器9点、青磁1点。
2	II-1	隅丸方形	(48)×55	13	土師質土器29点、瓦器3点。
3	II-1	不整円形	125×(54)	15	土師質土器15点、瓦質土器羽釜2点、東播系須恵器1点。
4	II-1	不整円形	70×58	15	土師質土器10点、瓦器3点。

Tab. 6 II-2区遺構一覧表

Pit No	調査区	平面形	直径・長軸・短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物
2001	II-2	不整円形	43×(25)	44	土師質土器8点。
2002	II-2	円形	25	39	土師質土器6点。不明1点。
2003	II-2	不整円形	40×(15)	27	土師質土器22点。瓦器5点。
2004	II-2	不整円形	43×(16)	18	土師質土器6点。瓦器3点。陶器2点。
2005	II-2	方形	75×70	8	土師質土器57点。
2006	II-2	不整円形	15×10	13	土師質土器13点。瓦器1点。
2007	II-2	不整円形	(75)×70	5	土師質土器2点。瓦器1点。
2008	II-2	不整円形	35×33	16	土師質土器2点。
2009	II-2	円形	30	24	土師質土器1点。
2010	II-2	円形	27	40	土師質土器5点。陶器1点。
2011	II-2	不整円形	18×18	14	土師質土器3点。
2012	II-2	不整円形	45×35	39	土師質土器76点。瓦器5点。粘土塊1点。
2013	II-2	不整円形	24×20	31	土師質土器7点。

2014	II-2	円形	20	29	土師質土器4点。
2015	II-2	不整円形	70×45	39	土師質土器123点。瓦器11点。白磁1点。青磁1点。土錘1点。粘土塊？3点。
2016	II-2	不整円形	40×32	40	土師質土器・手捏ね111点。土師質土器・ロクロ13点。瓦器1点。
2017	II-2	不整円形	45×(30)	35	土師質土器32点。瓦器2点。土師器羽釜1点。須恵器9点。スラグ1点。
2018	II-2	不整円形	85×(25)	7	土師質土器23点。鉄釘1点。
2019	II-2	不整円形	38×20	14	土師質土器4点。瓦器2点。
2020	II-2	不整円形	40×(25)	38	土師質土器9点。
2021	II-2	不整円形	100×(45)	10	土師質土器5点。
2022	II-2	不整円形	35×33	16	出土遺物なし。

SK No	調査区	平面形	長軸・短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物
2001	II-2	不整形	(200)×(110)	5	土師質土器・手捏ね9点。土師質土器・ロクロ4点。青磁1点。須恵器1点。近世以降の瓦1点。

(復原値)

遺物觀察表

Tab. 7 土器観察表

Fig. No.	図版番号	調査区	遺構・層序	器種	器形	法量 (cm)			色 調			胎 土	特 徴	備 考
						口径	器高	底径	内 面	外 面	断 面			
14	1	I-3	P242	土師質土器	小皿	(5.6)	1.6	(4.2)	明赤褐色	明赤褐色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	摩耗する。
14	2	I-3	P242	土師質土器	小皿	(5.5)	1.6	(4.4)	にぶい褐色	にぶい褐色	にぶい褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	摩耗する。
14	3	I-3	P242	土師質土器	小皿	(6.4)	1.8	(5.0)	橙色	橙色	橙色	直径8mm大以下の小礫をごく少量含む。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
14	4	I-3	P136	土師質土器	小皿	6.1	2.0	5.3	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	摩耗する。
14	5	II-1	P14	土師質土器	小皿	(6.5)	1.7	4.7	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
14	6	I-3	P162	土師質土器	小皿	(6.0)	1.5	(4.4)	灰黄褐色	にぶい赤褐色	暗灰色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
14	7	II-1	III-3層	土師質土器	小皿	(7.2)	2.1	(5.0)	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
14	8	II-1	P13	土師質土器	小皿	(6.8)	1.6	(4.8)	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が明瞭に残存。	
14	9	I-1	サブトレ	土師質土器	小皿	(6.8)	1.3	(4.2)	にぶい橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が明瞭に残存。	
14	10	II-1	III層	土師質土器	小皿	(6.8)	1.5	4.5	橙色	橙色	橙色	直径1mm大以下の砂粒を多く含む。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
14	11	I-3	P242	土師質土器	小皿	7.0	1.5	5.3	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	摩耗する。
14	12	I-3	SD4	土師質土器	小皿	(7.3)	1.5	(5.8)	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	摩耗する。
14	13	I-3	サブトレ	土師質土器	小皿	(7.6)	2.0	4.4	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が僅かに残存。	摩耗する。
14	14	I-1	P50	土師質土器	小皿	7.2	2.7	5.0	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
14	15	I-3	P242	土師質土器	小皿	(6.8)	1.8	4.7	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	やや底部が突出。底部の切り離し手法は不明。内外面、ロクロナデ。	やや摩耗する。
14	16	I-3	P242	土師質土器	小皿	(6.4)	1.5	(5.3)	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	相対的に厚めの底部。底部の切り離し手法は不明。内外面、ロクロナデ。	やや摩耗する。
14	17	I-2	検出面	土師質土器	小皿	(7.6)	1.4	(5.8)	橙色	にぶい橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
14	18	II-1	P5	土師質土器	小皿	(7.7)	-	-	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
14	19	I-3	P159	土師質土器	小皿	(8.6)	1.6	(6.7)	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	摩耗する。
14	20	I-3	P242	土師質土器	皿	(8.0)	1.2	(6.8)	明赤褐色	赤褐色	にぶい黄橙色	直径2mm大以下の砂粒を多く含む。やや異質である。		
14	21	I-3	SK31	瓦器	小皿	8.6	1.2	5.8	橙色	橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
14	22	I-1	P57	土師質土器	小皿?	-	-	-	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	直径1mm大以下の砂粒を少量含む。	内外面ロクロナデ。	
14	23	TP11	III層	土師質土器	杯	(10.4)	3.8	(6.3)	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	摩耗する。
14	24	TP11	III層	土師質土器	杯	(10.3)	4.2	6.1	にぶい橙色	にぶい黄橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	摩耗する。
14	25	I-3	SK28	土師質土器	杯	(11.0)	3.6	(6.7)	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
14	26	I-3	P161	土師質土器	杯	(11.1)	3.8	(6.8)	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
14	27	II-1	P13	土師質土器	杯	(11.4)	3.7	7.4	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
14	28	II-1	III層	土師質土器	杯	(10.5)	3.9	(7.0)	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が僅かに残存。	摩耗する。
14	29	I-3	III層	土師質土器	杯	(12.2)	4.6	(8.4)	明褐色	にぶい黄橙色	明褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	灯明杯として使用。
14	30	I-3	P198	土師質土器	杯	(12.0)	4.8	6.3	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
14	31	I-1	P72	土師質土器	杯	(11.6)	-	-	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
14	32	I-1	SK18	土師質土器	杯	(12.5)	-	-	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
14	33	I-3	P205	土師質土器	杯	(12.3)	-	-	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	摩耗する。
14	34	I-2	P233	土師質土器	杯	(13.1)	-	-	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	

Fig. No.	図版番号	調査区	遺構・層序	器種	器形	法量 (cm)			色 調			胎 土	特 徴	備 考
						口径	器高	底径	内 面	外 面	断 面			
14	35	I-2	P236	土師質 土器	杯	(14.8)	-	-	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
14	36	II-1	P12	土師質 土器	杯	(12.6)	-	-	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	灯明杯として使用?
14	37	I-2	P236	土師質 土器	不明	(12.6)	-	-	灰黄色	灰黄色	にぶい橙色	砂粒を少量含む。	内外面ロクロナデ。	被熱赤変。煤付着。
14	38	I-2	P80	土師質 土器	碗	(15.6)	-	-	灰色	灰色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
14	39	I-3	P198	土師質 土器	杯	(12.7)	-	-	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
14	40	I-2	P231	土師質 土器	杯	(13.7)	-	-	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
14	41	I-3	P158	土師質 土器	杯	(14.4)	-	-	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	やや焼け歪む。
15	42	II-1	Ⅲ層	土師質 土器	杯	-	-	(4.8)	にぶい黄橙色	灰黄色	にぶい黄橙色	直径2mm大以下の砂粒を少量含む。	内面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が僅かに残存。	
15	43	I-2	SK27	土師質 土器	杯	-	-	4.3	にぶい黄橙色	橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内面ロクロナデ。	
15	44	II-1	Ⅲ層	土師質 土器	杯	-	-	(4.4)	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が明瞭に残存。	
15	45	II-1	P13	土師質 土器	杯	-	-	(5.8)	橙色	橙色・黒褐色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	摩耗する。煤付着。
15	46	I-3	P198	土師質 土器	杯	-	-	(4.8)	黒褐色	黒褐色	黒褐色	直径1mm大以下の砂粒を少量含む。	内外面ロクロナデ。	やや異質。
15	47	I-3	SD4	土師質 土器	小皿?	-	-	(5.6)	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	直径5mm大以下の砂粒を少量含む。	内面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が僅かに残存。	
15	48	I-1	SK7	土師質 土器	杯	-	-	-	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り?	
15	49	II-1	P5	土師質 土器	杯	-	-	(6.1)	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	直径2mm大以下の砂粒を少量含む。	内外面ロクロナデ。	摩耗する。
15	50	II-1	Ⅲ層	土師質 土器	杯	-	-	(4.6)	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい橙色	直径2mm大以下の砂粒を少量含む。	内外面ロクロナデ。	摩耗する。
15	51	I-1	SK18	土師質 土器	杯	-	-	-	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
15	52	I-1	SD2	土師質 土器	杯	-	-	(6.1)	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。火山ガラス?を含む。	内外面ロクロナデ。	摩耗する。
15	53	I-1	P67	土師質 土器	杯	-	-	(6.7)	橙色	橙色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
15	54	I-2	P97	土師質 土器	杯	-	-	(6.4)	橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	摩耗する。
15	55	I-3	P168	土師質 土器	杯	-	-	(6.0)	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
15	56	II-1	P14	土師質 土器	杯	-	-	(6.2)	にぶい黄橙色	にぶい橙色	黄灰色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡・平行線状の圧痕が残存。	
15	57	II-1	Ⅲ層	土師質 土器	杯	-	-	(7.4)	にぶい黄橙色	にぶい橙色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
15	58	I-2	P126	土師質 土器	杯	-	-	(6.8)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
15	59	I-2	P105	土師質 土器	碗	-	-	(6.4)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
15	60	I-1	P148	土師質 土器	杯	-	-	(6.0)	灰黄色	灰黄色	灰黄色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
15	61	II-1	P14	土師質 土器	杯	-	-	(6.7)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	やや摩耗する。
15	62	I-1	P41	土師質 土器	杯	-	-	(7.0)	にぶい橙色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
15	63	I-2	P231	土師質 土器	杯	-	-	(6.2)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
15	64	I-2	P102	土師質 土器	杯	-	-	(5.7)	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	やや摩耗する。
15	65	I-1	SK17	土師質 土器	杯	-	-	(6.4)	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	やや摩耗する。
15	66	I-3	P163	土師質 土器	杯	-	-	(6.8)	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	摩耗する。
15	67	I-3	P144	土師質 土器	杯	-	-	(6.4)	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。雲母?を含む。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が僅かに残存。	やや摩耗する。
15	68	I-1	P45	土師質 土器	杯	-	-	(8.0)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	灰黄色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が僅かに残存。	
15	69	I-2	SX3	土師質 土器	杯	-	-	(7.3)	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が僅かに残存。	摩耗する。
15	70	II-1	Ⅲ層・検出面	土師質 土器	杯	-	-	(6.6)	明褐色	にぶい黄褐色	灰色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が僅かに残存。	やや摩耗する。

(復原値)

遺物観察表

Fig. No.	図版番号	調査区	遺構・層序	器種	器形	法量 (cm)			色 調			胎 土	特 徴	備 考
						口径	器高	底径	内 面	外 面	断 面			
15	71	I-1	SK18	土師質土器	杯	-	-	(5.8)	黄灰色	明灰黄色	明灰黄色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
15	72	I-3	Ⅲ層	土師質土器	杯	-	-	(5.8)	明赤褐色	にぶい橙色	明赤褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡・平行線状の圧痕が残存。	
15	73	I-3	P142	土師質土器	杯	-	-	(7.5)	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
15	74	I-1	SK6	土師質土器	杯	-	-	(7.4)	明灰黄色	黄灰色	黄灰色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	やや摩耗する。
15	75	I-2	検出面	土師質土器	椀?	-	-	(6.8)	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	摩耗する。
15	76	I-1	P71	土師質土器	椀?	-	-	(6.1)	灰白色	黄灰色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
15	77	Ⅱ-1	P13	土師質土器	杯	-	-	(6.4)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
15	78	I-3	P193	土師質土器	杯	-	-	(7.7)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
15	79	I-1	サブトレ	土師質土器	杯	-	-	(7.8)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
15	80	I-3	P205	土師質土器	杯	-	-	(7.7)	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	やや摩耗する。
15	81	I-3	P198	土師質土器	杯	-	-	(7.7)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
15	82	I-1	SK16	土師質土器	杯	-	-	(6.7)	灰黄色	灰黄色	灰色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
15	83	I-1	P78	土師質土器	杯	-	-	(6.3)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
16	84	I-1	SK11	土師質土器	杯	-	-	(5.5)	にぶい黄褐色	灰黄色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
16	85	I-3	P153	土師質土器	杯	-	-	(6.6)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
16	86	Ⅱ-1	Ⅲ層・検出面	土師質土器	杯	-	-	(7.7)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
16	87	I-3	P198	土師質土器	杯	-	-	(7.2)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
16	88	I-2	P101	土師質土器	杯	-	-	(6.2)	黄灰色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
16	89	I-1	検出面	土師質土器	不明	-	-	(9.4)	灰色	オリーブ黒色	灰色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	外面煤付着。
16	90	I-1	SK18	土師質土器	杯	-	-	(6.8)	黄灰色	灰オリーブ色	灰オリーブ色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	
16	91	I-1	SX1	土師質土器	杯	-	-	(7.0)	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	やや摩耗する。
16	92	I-2	P131	土師質土器	椀	-	-	(7.5)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	回転糸切り痕跡が僅かに残存。	摩耗する。
16	93	I-2	P131	土師質土器	杯	-	-	(6.5)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。	やや摩耗する。
16	94	Ⅱ-1	Ⅲ層	土師質土器	杯	-	-	(7.2)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り?	やや摩耗する。
16	95	I-1	P56	土師質土器	杯	-	-	(6.1)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	回転糸切り痕跡が残存。	
16	96	Ⅱ-1	Ⅲ層	土師質土器	杯	-	-	(6.7)	にぶい橙色	にぶい黄褐色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内面ロクロナデ。回転糸切り痕跡が残存。	
16	97	I-3	Ⅲ層	土師質土器	高台	-	-	4.8	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。外面に絞目有り。	
16	98	Ⅱ-1	Ⅲ層	土師質土器	高台	-	-	-	にぶい橙色	にぶい橙色	黄灰色	直径1mm以下の砂粒を少量含む。	内外面ロクロナデ。	
17	99	I-3	検出面	瓦器	皿	(8.0)	1.8	-	オリーブ黒色	灰色	灰黄色	直径1mm以下の砂粒を少量含む。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。内面、暗文。	
17	100	I-2	SK19	瓦器	皿	7.8	1.6	-	灰色	オリーブ黒色	-	直径1mm以下の砂粒を少量含む。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。	やや摩耗する。
17	101	I-2	P80	瓦器	椀	(14.4)	-	-	オリーブ黒色	オリーブ黒色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。内面、暗文。	
17	102	I-1	SX1	瓦器	椀	(14.0)	-	-	灰色	黄灰色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。内面、暗文。	
17	103	I-1	SD1	瓦器	椀	(13.7)	-	-	黄灰色	黄灰色	黄灰色	砂粒はほとんど含まれない。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。内面、暗文。	
17	104	Ⅱ-1	SK4	瓦器	椀	(13.8)	-	-	にぶい橙色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	直径2mm以下の砂粒を少量含む。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。内面、暗文。炭素の吸着は認められない。	
17	105	I-1	SK18	瓦器	椀	(13.2)	-	-	オリーブ黒色	オリーブ黒色	灰白色	直径1mm以下の砂粒をごく少量含む。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。	
17	106	I-1	SK9	瓦器	椀	(12.6)	-	-	オリーブ黒色	オリーブ黒色	灰黄色	砂粒はほとんど含まれない。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。内面、暗文。	
17	107	Ⅱ-1	Ⅲ層	瓦器	不明	(13.8)	-	-	灰色	灰色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	口縁部、ヨコナデ。外面、ナデ。	

(復原値)

Fig. No.	図版番号	調査区	遺構・層序	器種	器形	法量 (cm)			色 調			胎 土	特 徴	備 考
						口径	器高	底径	内 面	外 面	断 面			
17	108	I-1	SD1	瓦器	椀	(14.0)	-	-	オリーブ黒色	オリーブ黒色	灰黄色	砂粒はほとんど含まれない。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。	
17	109	TP11	Ⅲ層	瓦器	椀	(12.8)	-	-	灰色	灰色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。内面、暗文。炭素の吸着はほとんど認められない。	
17	110	II-1	P10	瓦器	椀	-	-	-	灰色	暗灰黄色	灰黄色	直径2mm大以下の砂粒をやや多く含む。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。内面、暗文。	
17	111	I-1	P52	瓦器	椀	-	-	-	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	直径1mm大以下の砂粒を含む。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。炭素の吸着は認められない。	
17	112	II-1	P15	瓦器	椀	-	-	-	灰色	灰色	灰黄色	砂粒はほとんど含まれない。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。内面、暗文。	
17	113	I-1	SK14	瓦器	椀	-	-	-	暗灰色	暗灰色	灰白色	直径1mm大以下の砂粒をごく少量含む。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。内面、暗文。	
17	114	I-2	P84	瓦器	椀	-	-	-	オリーブ黒色	オリーブ黒色	浅黄色	直径1mm大以下の砂粒を少量含む。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。内面、暗文。	
17	115	I-2	P84	瓦器	椀	-	-	-	灰色	黄灰色	灰黄色	砂粒はほとんど含まれない。	口縁部、ヨコナデ。外面、ナデ。内面、暗文。	
17	116	II-1	Ⅲ層	瓦器	椀	-	-	(3.3)	灰白色	灰黄色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	内面、暗文。外面、ナデ。断面台形の高台。炭素の吸着は認められない。	
17	117	II-1	Ⅲ層・検出面	瓦器	椀	-	-	(4.7)	暗灰色	暗灰色	浅黄色	砂粒はほとんど含まれない。	内面、暗文。外面、ナデ。断面台形の高台。	
17	118	II-1	Ⅲ層・検出面	瓦器	椀	-	-	-	オリーブ黒色	にぶい黄褐色・オリーブ黒色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。内面、暗文。	
17	119	II-1	Ⅲ層	瓦器	椀	-	-	(3.7)	灰色	灰黄色	灰黄色	砂粒はほとんど含まれない。	内面、暗文。外面、ナデ。断面かまごころ形の高台。外面には炭素の吸着は認められない。	
17	120	I-2	P84	瓦器	椀	-	-	-	オリーブ黒色	灰色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	内面、暗文。外面、ナデ。断面三角形の高台。	
17	121	II-1	P18	瓦器	椀	-	-	-	灰色	灰色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	内面、暗文。外面、ナデ。断面台形の高台。	
17	122	II-1	Ⅲ層	瓦器	椀	-	-	-	灰色	灰色	灰黄色	砂粒はほとんど含まれない。	内面、暗文。外面、ナデ。断面三角形の高台。	
17	123	I-2	検出面	瓦器	椀	-	-	(3.4)	灰色	灰色	灰黄色	砂粒はほとんど含まれない。	内面、暗文。外面、ナデ。断面三角形の高台。	摩耗する。
20	167	TP11	Ⅲ層	東播系須恵器	片口鉢	-	-	-	灰色	灰色	灰色	直径4mm大以下の砂粒を少量含む。	口縁部を下方へ拡張。	
20	168	I-3	SX5	東播系須恵器	片口鉢	-	-	-	灰色	灰色	灰色	直径3mm大以下の砂粒を少量含む。	口縁部を上方へつまみあげる。	
20	169	I-3	SX4	東播系須恵器	片口鉢	-	-	-	灰黄色	灰黄色	灰黄色	直径2mm大以下の砂粒を少量含む。	口縁部を上方へつまみあげる。焼成不良。	
20	170	I-3	P213	東播系須恵器	片口鉢	-	-	-	灰色	灰色	灰色	直径4mm大以下の砂粒を少量含む。	口縁部を上方へ拡張。	
20	171	I-2	検出面	東播系須恵器	片口鉢	-	-	-	灰黄色	灰白色	灰白色	直径1mm大以下の砂粒を少量含む。	口縁部を上方へつまみあげる。やや焼成不良。	
20	172	I-1	SK18	東播系須恵器	片口鉢	-	-	-	灰色	灰白色	灰色	直径2mm大以下の砂粒を少量含む。	口縁部を上方へつまみあげ、下方へ拡張。	
20	173	II-1	Ⅲ層・検出面	東播系須恵器	片口鉢	(27.8)	-	-	灰色	灰色	灰色	直径6mm大以下の砂粒を少量含む。	口縁部を下方へ拡張。	
20	174	II-1	Ⅲ層	東播系須恵器	片口鉢	(27.0)	-	-	灰色	灰色	灰色	直径3mm大以下の砂粒をやや多く含む。	口縁部を上方へ僅かにつまみあげる。	
20	175	II-1	SK3	東播系須恵器	片口鉢	-	-	(9.2)	灰色	灰色	灰色	直径5mm大以下の砂粒をやや多く含む。	底部外面はナデ調整。	
20	176	II-1	Ⅲ層	東播系須恵器	片口鉢	-	-	(6.5)	にぶい橙色	にぶい黄褐色	灰黄色	直径2mm大以下の砂粒を少量含む。	底部外面に回転糸切り痕跡が残存。焼成不良。	
20	177	I-1	SX1	東播系須恵器	片口鉢	-	-	(8.0)	灰色	灰色	灰色	直径2mm大以下の砂粒を少量含む。	体部内外面、回転ナデ調整。底部外面、ナデ調整。	
21	178	I-1	検出面	常滑焼	甕	-	-	-	褐灰色	褐灰色	灰色	直径3mm大以下の砂粒をやや多く含む。	肩部に格子目のスタンブ文有り。	
21	179	I-3	P158・P159	瀬戸・美濃系	瓶子	3.2	-	-	オリーブ灰色・灰白色	オリーブ灰色・灰白色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	釉調は透明感のあるオリーブ灰色。被熱。	
21	180	I-2	検出面	瀬戸・美濃系	德利型瓶	-	-	-	灰白色	灰白色	灰白色	直径3mm大以下の砂粒をごく少量含む。	外面には透明感のあるオリーブ灰色の釉薬を施す。肩部に4条1単位の櫛描き文を施す。	
21	181	I-1	検出面	瀬戸・美濃系	瓶子	-	-	-	灰白色	オリーブ黄色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	外面には透明感のあるオリーブ灰色の釉薬を施す。肩部に3条1単位の櫛描き文を施す。内面には指頭圧痕が明瞭にみられる。	

遺物観察表

Fig. No.	図版番号	調査区	遺構・層序	器種	器形	法量 (cm)			色 調			胎 土	特 徴	備 考
						口径	器高	底径	内 面	外 面	断 面			
21	182	I-3	P159	瀬戸・美濃系	瓶子	-	-	-	オリーブ灰色・灰色	灰白色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	外面の釉薬はすべて剥落する。2条1対のヘラ描き文が全周すると推定される。内面、ロクロナデ。	
21	183	I-3	SD4・P242	備前焼	鉢	-	-	-	灰色	灰褐色	灰色	直径3mm以下の長石、その他の砂粒をやや多く含む。	口縁端部をつまみあげる。残存部では摺り目はみられない。	
21	184	II-1	III-1・2層	備前焼	摺鉢	-	-	-	灰黄色	灰白色	灰白色	直径2mm以下の砂粒をやや多く含む。	2条以上1単位の摺り目有り。口縁端部内面に沈線状に1条巡る。	
21	185	I-1	SX1	備前焼	摺鉢	-	-	-	褐灰色	褐灰色	灰色	直径2mm以下の長石、その他の砂粒をやや多く含む。	口縁部を上下に拡張。	
21	186	I-3	III層	備前焼	摺鉢	-	-	-	にぶい橙色	赤褐色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	口縁部まで6条以上1単位の摺り目が施される。	
21	187	I-3	SD4	備前焼	摺鉢	-	-	-	にぶい赤褐色	灰赤色	褐灰色	直径3mm以下の長石、その他の砂粒をやや多く含む。	口縁部を上方に大きく拡張。内面に7条以上1単位の摺り目が施される。	
21	188	I-2	検出面	備前焼	壺	-	-	-	灰色	灰色	灰色	直径3mm以下の長石、その他の砂粒をやや多く含む。	口縁端部を玉縁状に肥厚させる。	
22	189	I-1	P58	土師質土器	鍋	-	-	-	にぶい赤褐色	明褐色	灰褐色	直径1mm以下の砂粒を多く含む。火山ガラスを含む。	内面、ハケ調整。外面、ナデ調整。	
22	190	II-1	VI層	土師器	甕	-	-	-	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	直径1mm以下の砂粒をやや多く含む。	口唇部を上下に拡張。内面、ハケ調整。外面、ナデ調整。	
22	191	I-2	検出面	土師質土器	鍋	-	-	-	灰黄褐色	灰黄褐色	にぶい橙色	直径2mm以下の砂粒をやや多く含む。	口縁端部を強く屈曲させる。内外面、ナデ調整。	煤附着。
22	192	I-1	SD1	土師器	甕	-	-	-	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	灰色	直径1mm以下の砂粒をやや多く含む。	口縁部は大きく外反。内外面、ナデ調整。	鐏以下、煤附着。
22	193	I-3	P219	土師質土器	羽釜	-	-	-	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい黄褐色	直径2mm以下の砂粒を少量含む。	短めの鐏がつく。内外面、ナデ調整。	煤附着。
22	194	I-2	検出面	土師質土器	羽釜	-	-	-	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	直径2mm以下の砂粒を少量含む。	口唇部はやや凹む。小さな鐏がつく。内外面、ナデ調整。	
22	195	II-1	SK3	瓦質土器	羽釜	-	-	-	灰色	灰色	灰黄色	直径1mm以下の砂粒をごく少量含む。火山ガラスを含む。	口縁部は内湾気味。内面、ハケ調整。外面、ナデ調整。	
22	196	I-1	検出面	土師質土器	鍋	-	-	-	暗灰黄色	灰黄褐色	オリーブ黒色	直径2mm以下の砂粒をやや多く含む。	やや退化した鐏がつく。内外面、ナデ調整。	やや摩耗する。
22	197	I-1	検出面	土師質土器	鍋	-	-	-	暗灰黄色	暗灰黄色	黄灰色	直径3mm以下の砂粒をやや多く含む。	やや退化した鐏がつく。内外面、ナデ調整。	やや摩耗する。
22	198	I-2	P104	土師器	甕	(18.5)	-	-	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	直径2mm以下の砂粒をやや多く含む。	口縁部は「く」の字。口縁端部をつまみあげ。口縁部外面、ナデ調整。頭部内面、ハケ調整。	煤附着。
22	199	II-1	P13	瓦質土器	鍋	(19.4)	-	-	灰黄色	灰黄色・灰色	灰色	直径2mm以下の砂粒を少量含む。	短めの退化した鐏がつく。内外面、ナデ調整。	
22	200	I-2	P109	土師質土器	鍋	(19.2)	-	-	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	直径2mm以下の砂粒を少量含む。火山ガラスを含む。	口縁部、ナデ調整。内面、ハケ調整。外面には叩き目が残存。	煤附着。
22	201	II-1	SK3	瓦質土器	羽釜	(18.8)	-	-	灰色	灰色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	ややうすい鐏がつく。内外面、ナデ調整。	
22	202	I-1	P50	瓦質土器	鍋	(19.8)	-	-	灰色	灰色	灰色	直径5mm以下の砂粒を少量含む。	やや退化した鐏がつく。内面、ナデ調整。	やや摩耗する。
22	203	I-2	P84	土師質土器	羽釜	(22.0)	-	-	橙色	橙色	橙色	直径2mm以下の砂粒をやや多く含む。ウンモを含む。	口縁端部を面取り。内外面、ナデ調整。	
22	204	I-1	検出面	土師質土器	羽釜	(26.6)	-	-	赤褐色	赤褐色	にぶい橙色	直径2mm以下の砂粒をやや多く含む。ウンモを含む。	内面、ハケ調整。口縁部外面、ナデ調整。体部外面、ヘラズリ調整。	
22	205	I-1	検出面	土師質土器	羽釜	(23.8)	-	-	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	にぶい黄褐色	直径2mm以下の砂粒をやや多く含む。ウンモを含む。	口縁部内面、ハケ調整。体部内面、ナデ調整。口縁部外面、ナデ調整。体部外面、ヘラズリ調整。	
22	206	I-2	検出面	土師質土器	羽釜	(27.9)	-	-	灰黄褐色	にぶい褐色	橙色	直径3mm以下の砂粒をやや多く含む。ウンモを含む。	口縁部内面、ハケ調整。体部内面、ナデ調整。口縁部外面、ナデ調整。	
23	207	II-1	III層	土師器	皿	(12.4)	-	-	灰黄色	灰黄色	灰黄色	直径1mm以下の砂粒をごく少量含む。	口縁端部を屈曲させる。	摩耗する。
23	208	II-1	III層	土師器	蓋	-	-	-	明褐色	明褐色	明褐色	砂粒はほとんど含まれない。	口縁端部は僅かに下がる。	摩耗する。
23	209	I-3	SK32	須恵器	蓋	(6.4)	1.1	-	灰色	灰色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	天井部に自然軸が付着。内外面、回転ナデ調整。	
23	210	I-3	SD4	土製品	羽口	-	-	-	橙色	にぶい黄褐色	橙色	直径1mm以下の砂粒を少量含む。	-	

(復原値)

Fig. No.	図版番号	調査区	遺構・層序	器種	器形	法量 (cm)			色 調			胎 土	特 徴	備 考
						口径	器高	底径	内 面	外 面	断 面			
23	211	I-3	SD4	瓦	丸瓦?	-	-	-	灰白色	灰白色	灰白色	直径5mm大以下の砂粒をやや多く含む。	軟質である。	
23	212	II-1	III層	-	製塩土器	-	-	-	灰黄色	にぶい褐色	灰色	直径2mm大以下の砂粒を多く含む。	内面に布の圧痕あり。	
29	262	II-2	P2003	土師質土器	小皿	(7.0)	1.6	(5.4)	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。	
29	263	II-2	P2003	土師質土器	小皿	(6.7)	1.8	(4.0)	浅黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。回転糸切り痕跡。	
29	264	II-2	P2003	土師質土器	小皿	(7.6)	1.3	(3.8)	浅黄橙色	浅黄橙色	浅黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。		
29	265	II-2	P2003	土師質土器	杯	(11.8)	4.0	(6.4)	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。回転糸切り痕跡。	
29	266	II-2	P2003	土師質土器	杯	(13.5)	4.5	(7.2)	明黄褐色	明黄褐色	褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。回転糸切り痕跡。	
29	267	II-2	P2003	土師質土器	杯	(11.5)	-	-	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。	
29	268	II-2	P2003	土師質土器	杯	(11.8)	4.4	(6.4)	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。回転糸切り痕跡。	
29	269	II-2	P2003	土師質土器	杯	(12.7)	3.3	7.1	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。回転糸切り痕跡。	
29	270	II-2	P2003	瓦器	椀	13.6	3.5	2.3	灰色	灰色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	外面、指頭圧痕。内面、暗文。断面形かまぼこ状の高台が付く。	
30	271	II-2	P2016	土師質土器	皿	6.5	1.4	3.4	浅黄色	浅黄色	浅黄色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。若干、上げ底。	
30	272	II-2	P2016	土師質土器	小皿	(6.7)	1.5	(4.8)	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。回転糸切り痕跡。	
30	273	II-2	P2016	土師質土器	小皿	(7.7)	2.0	(5.4)	淡黄色	淡黄色	淡黄色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡・平行線の圧痕が残存。	
30	274	II-2	P2016	土師質土器	皿	(10.6)	3.5	-	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	手捏ね成形。	黒斑有り。
30	275	II-2	P2016	土師質土器	皿	(10.5)	3.3	(4.2)	灰色	黄灰色	灰色	砂粒はほとんど含まれない。	手捏ね成形。	
30	276	II-2	P2016	土師質土器	皿	(10.7)	3.3	-	淡黄色	黄橙色	淡黄色	砂粒はほとんど含まれない。	手捏ね成形。	黒斑有り。
30	277	II-2	P2016	土師質土器	皿	(11.3)	3.5	-	黄灰色	黄灰色	黄灰色	砂粒はほとんど含まれない。	手捏ね成形。	
30	278	II-2	P2016	土師質土器	皿	(10.8)	-	-	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	手捏ね成形。	黒斑有り?
30	279	II-2	P2016	土師質土器	皿	(10.7)	3.3	-	灰~にぶい黄橙色	灰~にぶい黄橙色	灰~にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	手捏ね成形。	
30	280	II-2	P2016	土師質土器	皿	(9.8)	2.8	-	灰色	灰黄色	灰色	砂粒はほとんど含まれない。	手捏ね成形。	黒斑有り。
30	281	II-2	P2016	土師質土器	皿	(10.2)	2.5	-	黄灰色	黄灰色	黄灰色	砂粒はほとんど含まれない。	手捏ね成形。	
30	282	II-2	P2016	土師質土器	皿	(10.4)	3.2	-	にぶい橙色	にぶい黄色	にぶい黄色	砂粒はほとんど含まれない。	手捏ね成形。	
30	283	II-2	P2016	土師質土器	皿	(10.0)	-	-	淡黄色	淡黄色	淡黄色	砂粒はほとんど含まれない。	手捏ね成形。	黒斑有り。
30	284	II-2	P2016	土師質土器	皿	(10.5)	3.0	(4.0)	灰色	灰色	灰色	砂粒はほとんど含まれない。	手捏ね成形。	
30	285	II-2	P2016	土師質土器	皿	(11.7)	-	-	淡黄色	淡黄色	淡黄色	砂粒はほとんど含まれない。	手捏ね成形。	
30	286	II-2	P2016	土師質土器	皿	(11.0)	3.0	(5.3)	灰色	灰色	灰色	砂粒はほとんど含まれない。	手捏ね成形。	
30	287	II-2	P2016	土師質土器	皿	(13.7)	3.1	-	灰色	灰色	灰色	砂粒はほとんど含まれない。	手捏ね成形。	
30	288	II-2	P2016	瓦器	椀	-	-	(3.8)	明黄褐色	灰黄色	明黄褐色	直径2mm大以下の砂粒、ウンモ片をそれぞれ少量含む。炭素の吸着は弱い。	摩耗する。	
31	289	II-2	III層	土師質土器	小皿	(8.0)	1.8	(6.2)	黄褐色	黄褐色	黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	摩耗のため、調整不明。	
31	290	II-2	P2002	土師質土器	小皿	(8.0)	1.9	(6.4)	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面ロクロナデ。回転糸切り痕跡・平行線の圧痕が残存。	
31	291	II-2	P2015	土師質土器	小皿	-	1.1	-	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。	
31	292	II-2	P2015	土師質土器	杯	(11.8)	3.8	(7.5)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。回転糸切り痕跡。	
31	293	II-2	P2018	土師質土器	杯	-	-	-	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。	
31	294	II-2	P2015	土師質土器	杯	-	-	-	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。	
31	295	II-2	P2006	土師質土器	不明	-	-	-	橙色	にぶい黄褐色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ナデ。	
31	296	II-2	P2013	土師質土器	杯	-	-	(6.2)	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。回転糸切り痕跡。	
31	297	II-2	P2012	土師質土器	杯	-	-	(6.8)	にぶい橙色	橙色	橙色	直径7mm大以下の砂粒をごく少量含む。	内外面、ロクロナデ。回転糸切り痕跡。	
31	298	II-2	P2012	土師質土器	杯	-	-	(8.2)	橙色	橙色	橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。回転糸切り痕跡。	
31	299	II-2	P2021	土師質土器	杯	-	-	(7.6)	橙色	橙色	橙色	直径2mm大以下の砂粒をごく少量含む。	内外面、ロクロナデ。回転糸切り痕跡。	
31	300	II-2	P2005	土師質土器	杯	-	-	(7.4)	黄褐色	黄褐色	黄褐色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ロクロナデ。回転糸切り痕跡。	

Fig. No.	図版番号	調査区	遺構・層序	器種	器形	法 量 (cm)			色 調			胎 土	特 徴	備 考
						口径	器高	底径	内 面	外 面	断 面			
31	301	TP19	Ⅲ層	土師質土器	椀	-	-	6.4	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	円盤状高台。ヘラ切り痕跡。	
31	302	Ⅱ-2	Ⅲ層	瓦器	椀	(14.8)	-	-	灰色	灰白色	灰白色	直径4mm以下の砂粒を若干含む。	外面、指頭圧痕。内面、暗文。	
31	303	Ⅱ-2	Ⅲ層	瓦器	椀	(14.6)	-	-	灰色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	口縁部、ヨコナデ。外面、指頭圧痕。内面、暗文。	
31	304	Ⅱ-2	P2015	瓦器	椀	-	-	-	灰色	灰色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	外面、指頭圧痕。内面、暗文。	
31	306	Ⅱ-2	Ⅲ層	須恵器	底部	-	-	(7.8)	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂粒はほとんど含まれない。	内外面、ヨコナデ。高台を貼り付ける。	
31	307	Ⅱ-2	P2017	須恵器	甕	-	-	-	灰色	灰色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	内面に粘土接合痕跡有り。内外面とも、ナデ調整。	
31	308	Ⅱ-2	P2017	須恵器	甕	-	-	-	灰色	灰色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	内面に粘土接合痕跡有り。内外面とも、ナデ調整。叩き目有り。	
31	309	Ⅱ-2	P2017	須恵器	甕	-	-	-	灰色	灰色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	内面に粘土接合痕跡有り。内外面とも、ナデ調整。叩き目有り。	

Tab. 8 貿易陶磁器観察表

Fig. No.	図版番号	調査区	遺構・層序	器種	器形	法 量 (cm)			色 調			特 徴	備考
						口径	器高	底径	内 面	外 面	断 面		
18	124	I-3	Ⅲ層	白磁	皿	8.8	1.7	(6.0)	明オリブ灰色	明オリブ灰色	灰白色	口縁部の釉薬をかきとる。Ⅹ類。	
18	125	I-3	Ⅲ層	白磁	皿	9.2	1.5	5.6	明オリブ灰色	明オリブ灰色・灰白色	灰白色	口縁部の釉薬をかきとる。Ⅹ類。	
18	126	I-2	P234	白磁	皿	-	-	-	灰白色	灰白色	灰白色	口縁部の釉薬をかきとる。Ⅹ類。	
18	127	I-2	SX2	白磁	皿	-	-	(5.2)	灰色	にぶい黄橙色	灰黄色	被熱。外底面は露胎。Ⅹ類。	
18	128	I-1	SK15	白磁	皿	-	-	(4.0)	灰白色	にぶい黄褐色	灰白色	内面にはやや透明感のある乳白色の釉を施す。	
18	129	I-3	Ⅲ層	白磁	皿	-	-	(4.0)	灰白色	灰白色	灰白色	高台をアーチ状に削る。重ね焼きの痕跡有り。	
18	130	Ⅱ-1	Ⅲ層	白磁	皿	-	-	(6.0)	灰白色	灰黄色	灰白色	釉調は乳白色。外底面は露胎。Ⅹ類。	
18	131	Ⅱ-1	Ⅲ層・検出面	白磁	皿	-	-	(5.5)	灰白色	灰白色	灰白色	残存部は全面に施す。	
18	132	I-3	Ⅲ層	白磁	碗	-	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰白色	口縁部は玉縁状を呈する。	
18	133	I-3	Ⅲ層	白磁	碗	-	-	-	灰白色	灰白色	灰白色	口縁部が外反。釉調は乳白色。	
18	134	TP11	Ⅲ層	白磁	碗	-	-	-	灰白色	灰白色	灰白色	口縁部を水平近くに短く外反させる。Ⅴ類。	
18	135	I-3	Ⅲ層	白磁	碗	-	-	(4.8)	灰オリブ色	灰白色	灰白色	見込みに細いタッチの文様有り。	
19	136	Ⅱ-1	Ⅲ層	青磁	皿	(12.2)	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰オリブ色	釉薬が故意にはぎとられる。	
19	137	Ⅱ-1	Ⅲ層	青磁	碗	-	-	-	オリブ灰色	オリブ灰色	灰白色	外面に雷文帯くずれ。	
19	138	Ⅱ-1	Ⅲ層	青磁	稜化皿	-	-	-	オリブ灰色	オリブ灰色	灰白色	内面に界線が巡る。	
19	139	I-1	P42	青磁	碗	-	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰白色	同安窯系。内面に施文。外面、櫛描き文。	
19	140	Ⅱ-1	Ⅲ層・検出面	青磁	碗	-	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰白色	同安窯系。内面に施文。外面、櫛描き文。	
19	141	I-3	P222	青磁	碗	-	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰白色	龍泉窯系。内面に劃花文。	
19	142	I-3	Ⅲ層	青磁	碗	-	-	-	オリブ灰色	オリブ灰色	灰白色	龍泉窯系。内面に櫛描き文。	
19	143	I-2	検出面	青磁	碗	(16.0)	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰白色	龍泉窯系。内面に劃花文。	
19	144	I-3	Ⅲ層	青磁	碗	-	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰白色	龍泉窯系。口縁部内面に界線。	
19	145	I-2	P109	青磁	碗	-	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰色	龍泉窯系。内面に劃花文。	
19	146	I-3	検出面	青磁	碗	(16.0)	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰白色	龍泉窯系。外面に蓮弁文。	
19	147	I-1	サブトレ	青磁	碗	-	-	-	オリブ灰色	オリブ灰色	灰色	龍泉窯系。外面に蓮弁文。	
19	148	I-3	サブトレ	青磁	碗	(11.6)	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	黄灰色	龍泉窯系。外面に蓮弁文。	
19	149	I-3	Ⅲ層	青磁	碗	-	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰白色	龍泉窯系。外面に蓮弁文。	
19	150	I-3	P105	青磁	碗	-	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰白色	龍泉窯系。外面に蓮弁文。	
19	151	I-2	Ⅲ層	青磁	碗	-	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰白色	口縁部外反。無文。	
19	152	Ⅱ-1	P5	青磁	碗	-	-	-	オリブ灰色	オリブ灰色	灰白色	龍泉窯系。外面に蓮弁文。	
19	153	Ⅱ-1	Ⅲ層	青磁	碗	-	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰色	口縁部を僅かに外反。灰オリブ色の釉を施す。	
19	154	I-2	P224	青磁	碗	-	-	-	オリブ灰色	オリブ灰色	灰白色	龍泉窯系。外面に蓮弁文。	
19	155	I-1	検出面	青磁	碗	-	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰白色	内面に劃花文。	
19	156	I-1	P50	青磁	碗	-	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰色	体部無文。釉調は光沢感のあまりない灰オリブ色。	
19	157	I-1	P78	青磁	碗	-	-	(5.9)	灰オリブ色	灰オリブ色	灰色	断面方形の高台がつく。内面に劃花文。	
19	158	I-1	検出面	青磁	碗	-	-	-	灰オリブ色	灰オリブ色	灰黄色	無文。	
19	159	Ⅱ-1	Ⅲ-3層	青磁	碗	-	-	(6.0)	灰オリブ色	灰黄色	灰白色	安定感のある削り出し高台。高台の一部から外底面は露胎。	
19	160	I-1	SD1	青磁	碗	-	-	(6.0)	灰オリブ色	灰オリブ色	灰色	幅の狭い削り出し高台。畳付け、外底面は露胎。	
19	161	I-3	SD5	青磁	碗	-	-	(6.0)	灰オリブ色	灰オリブ色	灰白色	釉調は透明感のある灰オリブ色。高台は面取りし畳付けの幅は狭い。	

Fig. No.	図版番号	調査区	遺構・層序	器種	器形	法 量 (cm)			色 調			特 徴	備 考
						口径	器高	底径	内 面	外 面	断 面		
19	162	I-2	P128	青磁	碗	-	-	(5.4)	明オリーブ灰色	明オリーブ灰色	灰白色	龍泉窯系。外面に蓮弁文。	
19	163	I-3	SD4	青磁	碗	-	-	(5.0)	オリーブ灰色	オリーブ灰色	灰色	胎土は灰色を呈し、精良。畳付けの一部、外底面は露胎。	
19	164	I-3	Ⅲ層	青磁	碗	-	-	-	オリーブ灰色	オリーブ灰色	灰色	やや幅の狭い削り出し高台。釉調はオリーブ灰色。	
19	165	I-1	検出面	青磁	碗	-	-	5.8	灰オリーブ色	灰オリーブ色・にぶい黄褐色	灰色	安定感のある削り出し高台。高台の一部から外底面は露胎。胎土はやや粗い。	
19	166	Ⅱ-1	Ⅲ層	青磁	碗	-	-	(5.2)	オリーブ灰色	オリーブ灰色	灰色	やや幅の狭い削り出し高台。釉調はオリーブ灰色。内面に文様を施す。	
31	305	Ⅱ-2	P2015	白磁	碗	-	-	-	灰白色	灰白色	灰白色	やや緑色がかかった釉葉。口縁端部、露胎。	

Tab. 9 土製品観察表

Fig. No.	図版番号	調査区	遺構・層序	法 量				色 調			胎 土	特 徴	備 考
				全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)	内 面	外 面	断 面			
23	213	Ⅱ-1	Ⅲ層	4.0	1.1	1.0	4.4	-	にぶい赤褐色	-	直径1mm大以下の砂粒をやや多く含む。	体部中央部が若干張る。孔は体部径に比べると大きい。	
23	214	Ⅱ-1	Ⅲ層・検出面	3.9	1.3	1.1	5.0	-	灰黄色	-	直径1mm大以下の砂粒を少量含む。	全体的にいびつである。	
23	215	I-1	SK5	-	1.1	1.1	3.4	明赤褐色	明赤褐色	灰白色	直径1mm大以下の砂粒をごく少量含む。	両端を欠損する。体部中央部が若干張る。	
23	216	I-2	P101	4.0	1.1	0.9	3.7	黒褐色	灰黄色	黒褐色	直径1mm大以下の砂粒を少量含む。	全体的にややいびつである。	
23	217	I-2	SX2	(4.4)	1.6	1.5	9.0	にぶい赤橙色	にぶい赤橙色	にぶい赤橙色	直径1mm大以下の砂粒を少量含む。	両端を欠損する。体部中央部が張る。	被熱赤変。
23	218	I-2	検出面	(4.2)	1.2	1.1	6.1	-	にぶい赤褐色	明赤褐色	直径1mm大以下の砂粒を少量含む。	両端を欠損する。管状を呈する。	被熱赤変？
23	219	I-3	サブトレ	4.9	1.3	1.2	6.7	-	にぶい黄褐色	-	直径1mm大以下の砂粒をごく少量含む。	体部中央部が若干張る。	完形。
23	220	I-3	Ⅲ層	4.9	1.4	1.3	8.3	-	にぶい赤褐色・灰黄褐色	-	直径2mm大以下の砂粒をごく少量含む。	体部中央部が若干張る。	完形。
23	221	I-3	SD4	4.7	1.3	1.3	6.9	-	にぶい黄褐色	灰色	直径1mm大以下の砂粒をごく少量含む。	体部中央部が若干張る。一方の端部が欠損する。	
23	222	I-1	SK6	-	1.3	1.3	6.3	灰色	灰黄色	灰色	直径1mm大以下の砂粒をごく少量含む。	体部中央部が若干張る。一方の端部が欠損する。	
31	310	Ⅱ-2	P2015	-	1.5	1.4	-	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	灰白色	砂粒はほとんど含まれない。	両端を欠損。中央部がやや張る。	

Tab.10 木製品観察表

Fig.No.	図版番号	調査区	遺構・層序	器 形	法 量		特 徴	備 考
					直径 (cm)	全厚 (cm)		
24	223	I-3	Ⅲ層	曲げ物底	(11.0)	1.4	約半分が残存する。	モミ。

Tab.11 石製品観察表

Fig. No.	図版番号	調査区	遺構・層序	器形	法 量				特 徴	備 考
					全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)		
24	224	I-1	SD1	石鍋	-	-	-	25.0	工具痕跡が認められる。	
24	225	I-3	Ⅲ層	不明	-	1.4	1.2	10.4	幅の狭い面取りが施される。	
24	226	Ⅱ-1	Ⅲ-2層	石錘	5.4	3.6	0.7	17.9	両端に抉りを有する。	
24	227	I-3	P214	根石	17.3	12.1	6.6	1200.0	一部、被熱している。	
24	228	I-3	P195	根石	16.6	18.3	8.8	4000.0	一部、被熱している。	
31	312	Ⅱ-2	Ⅲ層	砥石	10.7	4.5	1.7	113.8	1面を砥石として使用。他の面は軽く磨く程度、剥離面を多く残す。	

(復原値)

Tab.12 古銭観察表

Fig.No.	図版番号	調査区	遺構・層序	銭種	法量					特徴	備考
					銭径 (cm)	内径 (cm)	孔径 (cm)	銭厚 (cm)	重量 (g)		
25	229	I-1	SK6	嘉祐元寶あるいは嘉祐通寶	(2.6)	(2.0)	0.8	0.1	(1.4)	嘉祐元寶・嘉祐通寶ともに初鑄は1056年。	
25	230	II-1	III層・検出面	元祐通宝	2.5	1.9	0.6	0.1	2.1	元祐通宝の初鑄は1086年あるいは1093年。	
25	231	II-1	P5	淳熙元寶あるいは紹熙元寶	(2.4)	(1.9)	0.7	0.1	(1.5)	淳熙元寶の初鑄は1174年、紹熙元寶の初鑄は1190年。	

(復原値)

Tab.13 鉄製品計測表

Fig.No.	図版番号	調査区	遺構・層序	器種	法量				備考
					全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)	
26	232	II-1	TP11 廃土	不明	4.6	1.8	1.0	9.8	
26	233	I-3	III層	釘	5.0	2.0	1.1	11.6	
26	234	I-1	P51	不明	0.8	0.4	0.4	0.2	
26	235	I-1	検出面	釘	1.9	0.7	0.6	0.9	
26	236	I-2	検出面	釘	2.2	1.0	0.5	2.0	
26	237	II-1	III-2層	釘	5.3	1.8	1.4	22.6	
26	238	I-3	III層	釘	5.3	1.3	0.8	7.5	
26	239	I-3	SD4	釘	2.8	0.5	0.5	1.0	
26	240	II-1	III-1・2層	不明	2.8	1.2	1.1	4.6	
26	241	II-1	I・II層	不明	3.2	1.2	1.0	4.2	
26	242	I-1	SX1	釘	3.8	1.3	1.0	5.8	
26	243	I-1	SK17	釘	5.4	1.3	0.5	5.2	
26	244	I-3	P219	釘	6.9	1.4	1.1	12.0	
26	245	I-1	SX1	釘	3.6	0.9	0.8	2.9	
26	246	I-2	検出面	不明	3.2	1.6	1.4	8.7	
26	247	I-3	P188	不明	3.3	1.5	1.1	7.9	
26	248	I-3	SK29	釘	2.2	1.1	0.8	3.8	
26	249	I-3	III層	釘	5.9	1.4	0.9	13.4	
26	250	II-1	III層	不明	4.3	1.6	0.9	6.1	
26	251	II-1	III層	釘	3.8	1.4	1.1	9.0	
26	252	I-3	III層	不明	3.8	1.3	1.1	6.8	
26	253	I-1	SK18	不明	3.9	1.3	1.2	6.2	
26	254	I-1	SX1	不明	1.8	1.2	0.7	2.4	
26	255	I-1	SX1	不明	2.1	2.8	0.8	3.0	
26	256	I-1	SX1	不明	1.6	1.3	0.4	1.6	
26	257	I-1	SX1	不明	2.0	2.5	0.7	2.9	
26	258	II-1	III層	不明	5.0	3.8	1.8	26.4	
26	259	I-3	SK29	釘	2.2	1.3	0.9	3.2	
26	260	II-1	包含層	不明	3.8	1.7	0.6	7.2	
26	261	I-3	SK31	不明	2.0	5.4	1.1	13.2	
31	311	II-2	P2018	釘	9.1	2.1	2.4		